

川柳塔

令和三年 八月 一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年 通卷一一三一号



日川協加盟

No.1131

八月号

第27回 川柳塔まつり(誌上大会)

川柳塔社では、今年も秋の「川柳塔まつり」を新型コロナウイルスによる感染防止のため誌上大会として実施することになりました。結社を越えて広く川柳をお楽しみいただける場として、ぜひとも皆様のご参加をお待ち申し上げます。

参加要領は下記のとおりです。

課題と選者(各題二句)

「嬉しい」	江島谷 勝 弘 選 (川柳塔社)
「選ぶ」	内藤 憲 彦 選 (川柳塔社)
「ヒント」	高瀬 霜 石 選 (川柳塔社)
「橋」	木本 朱 夏 選 (川柳塔社)
「呼ぶ」	美馬 りゅうこ 選 (番傘川柳本社)
「家」	小島 蘭 幸 選 (川柳塔社)

投句要領 規定の用紙(コピー可)または、用紙の入手できない場合は便箋などをご使用いただいても結構です。

投句料 1000円(切手は不可)

投句締切 令和3年9月30日(木)消印有効

送付先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201
川柳塔社 誌上大会係 宛
TEL/FAX(06) 6779-3490

賞及び発表 各題特選2句に賞呈。発表は川柳塔誌十二月号誌上。
川柳塔誌を購読されていない方には発表誌呈。

川 柳 塔 社

句碑まつり

小島蘭幸

昨年8月号の巻頭言のタイトルは「雨の尾道雨の句碑」でした。その中で二〇二一年は句碑建立20周年と書いています。尾道川柳会の皆様と一緒に盛大に句碑まつりを開催する予定でしたが残念ながら今年もコロナ感染拡大を考慮して中止となりました。

7月7日、玄関に路郎の掛軸を飾り、麻生路郎と私の川柳の師、山内静水を偲びました。

7月13日、私は文学碑の前に立っていました。たったひとりの句碑まつりです。文学碑の前には休憩所があります。そこに腰掛けて持参した物を並べてみました。団扇、スポーツドリンク、ハンカチ、スマホ、ワンカップ、句集「旅人」、句集「檸檬」……。暫くすると日が陰り、心地良い風が吹いてきました。真夏日の中、急坂を上って来ましたのでありがたかったです。ほっと一息ついたところで回りを見渡しますと、文学碑を真ん中に、山側には文学者、倉田百三の碑、その上には志賀直哉旧居があり

ます。海側には山下陸奥の歌碑があり、そこから尾道水道が望めます。麻生路郎の文学碑の風景、イメージ出来ましたか、今年は句碑建立20周年、読者の皆様と一緒に句碑まつりです。句碑の前にワンカップ3ヶを塔の形にして、句集を並べて立てました。ワンカップを句碑に注ぎ私は「今年の11月から本社会が出来ますように」と手を合わせました。

恋人の膝は檸檬のまるさかな

橘高 薫風

句集「檸檬」は橘高薫風の第一句集です。

序 視野無限 この言葉に尽く

昭和40年初夏のころ不朽洞の病室にて 麻生路郎 識
路郎は7月7日に逝去、句集「檸檬」は印刷の途次だったのです。

梅雨前線の影響で7月2日から降った集中豪雨により、日本列島各地に甚大な被害が発生しました。熱海市伊豆山地区では土石流により多くの人命が奪われました。衷心より哀悼の意を捧げます。またこのたびの豪雨により被害に遭われました皆様には、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

川柳塔社

座右の句

大好きな人と芒が原にいる

(蘭 幸)

私の句

奔走に生きて一朵の雲になる

永井 松柏

川柳塔 八月号 目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「戸隠神社参道」

■巻頭言 句碑まつり

メインディッシュ

川柳塔 (同人吟)

川柳塔の川柳讃歌 (蘭)

自選集

句集の森

温故知新

西尾葉句集『水鶏笛』

英語 de Senryu (蘭)

水煙抄

誹風柳多留一三篇研究 12

愛染帖

檸檬抄「縫 う」

小島 蘭 幸 …… (1)

平井美智子 …… (2)

小島 蘭 幸 選 …… (4)

木津川 計 …… (37)

自選集 …… (38)

松山 芳生 …… (41)

温故知新 …… (41)

西尾葉句集『水鶏笛』 …… (42)

英語 de Senryu (蘭) …… (43)

水煙抄 …… (44)

誹風柳多留一三篇研究 12 …… (62)

愛染帖 …… (64)

檸檬抄「縫 う」 …… (68)

メインディッシュ

平井美智子

コロナ禍の自粛生活も一年半になろうとしている。好むと好まざるとに関わらず生活形態も変わり、私のところにも、Zoomでの初心者講座の依頼が来る。

内容の一環としては事前に受け取った句を当日、思いっきり添削をしてくれと言う注文。思うに、人気のテレビ番組(ブレバト)の川柳バージョンで笑いをとって欲しいということらしい。

詩・短歌・俳句・川柳などの短詩文芸の中で安易に笑いを求められるのは川柳だけではないだろうか。

川柳は他の短詩文芸の中に有って決して(著休め)的な存在ではない。人生の喜怒哀楽を詠った一句は、充分食べ応えのある(メインディッシュ)である。

確かに川柳の三要素は(笑い・穿ち・軽み)が基本と言われるが、それを単なる駄洒落や語呂合わせなどの言葉遊びと混同している人の何と多いことか。

一路集「引く」	稲見則彦選	(72)
初歩教室「空　　氣」	倉益一瑤選	(73)
川柳塔鑑賞	居谷真理子	(74)
水煙抄鑑賞	伊達郁夫	(76)
■追悼文（黒田能子さんの逝去を悔やむ）	大久保眞澄	(78)
『麻生路郎読本』余滴 ⁽⁶⁵⁾	山口光久	(79)
インスピレーション・ナビ 印象吟	栗原道夫	(80)
路郎賞・川柳塔賞 選考規定	大西泰世	(82)
せんりゅう飛行船 ⁽⁸³⁾	新家完司	(86)
六月本社誌上句会		(87)
各地柳壇（佳句地十選／栗原道夫・米澤俣子）		(96)
（完司50句）		(109)
八月各地句会案内		(110)
柳界展望		(112)
■編集後記（ひとこと／仁部四郎）	朱夏・勝弘	(114)

座右の句

子に力借りねばならぬ時がくる

（多恵子）

私の句

自肅中誰にも会わず散る桜

斎藤隆浩

川柳は人間陶冶の詩である 路郎

「川柳をやっています」というと大抵の人に「川柳って、あのおもしろいやつですわ」と言われる。確かに大型書店を覗いても俳句や短歌の新刊書が並んでいる棚の隅に、シルバー川柳、女子会川柳、はては薄毛川柳なるものが数冊並んでいる。この現実には川柳に関わる私たちにも責任の一端があるのかもしれない。

但し、私は前出のような語呂合わせや駄洒落が大きな顔をしている川柳を頭から否定するものではない。勿論、それらの句の中での人生の哀歓を詠んだ句や素晴らしい見つけの句に共感したり感心したりすることもしばしばである。

何より川柳に興味を持ってもらったことは嬉しい事である。サラリーマン川柳や女子会川柳を足がかりとして川柳を好きになってもらい、川柳の深さを知ってもらえれば、それはそれで万々歳である。そして、折角川柳に興味を持ってもらった人たちに川柳の楽しさや素晴らしさを伝え、川柳を続けてもらうよう努力することも大切な使命なのだと思うている。



小島蘭幸選

大阪府 小野雅美

頬伝う涙に少し酔ってみる
抽選に漏れてひとりに慣れてゆく
さすられた背にほんのりと点く灯り
譲られた椅子に残っていた軋み
クレヨンの赤でお化粧始めた日
ハンドルを握れば大胆になれる

大阪府 谷口 義

長いこと生きたという気がしない
一応はにんげんの形はしています
今死んだら生きっぱなしということか
法事ばかりしていたおばあさん
八十からは付録みたいなもんですわ
そうだった風が教えてくれたんだ

堺市 葉原道夫

砂丘から転がってゆくたましいよ
渚わびしビンの欠片と海草と
物欲があり鶏を抱いている

隠れ家に時代遅れのマンガ本
恋はもうしないつもりの文庫本
梅雨の匂いと体臭を嗅いでいる

大阪府 平井美智子

人に飢え言葉に飢えたままで梅雨
鳩尾に薄墨色の雨が降る
振り向けば過去引き摺った跡がある
秘めたもの守り通して夏あざみ
ゆつくりと明日を並べている夜更け
抱きしめてやろう私の中の老い

大阪府 高杉 力

母さんと呼ばれたいのにママのまま
待ちましよう恋は発酵途中です
金曜のネコは遊んでもらえない
ひっそりと咲いてる花に逢いに行く
背もたれは要らぬが立ち呑みはつらい
禁酒令解禁ワクチンも打った

尼崎市 山田耕治

砂時計サラサラ止められぬ時間
亡き友の名前見つめている句報

登校の見守り隊にジョンもいる

元氣だよ今日の終りのメール打つ

鳥も魚も大食い遊び許すまい

ポテト買うあしたは孫が来る予感

松江市 石橋芳山

胃袋に溜まるへらへらした笑い

日本のしわしわなにも言えぬ臍

特別にするなよたかが苺ジャム

長すぎる約束までのアブローチ

脇腹の傷から夜が流れ出る

クリオネを探し続けている白夜

藤井寺市 太田扶美代

黄昏れる小さな愛のかずかずと

わたしにだって牡丹の頃と百合の頃

わたしの回り私に過ぎた人ばかり

謙遜をし過ぎる人が苦手です

好きでない河内言葉に愛されて

煮っころがし無口な人とふたりきり

三原市 鴨田昭紀

老いてなお今も頻発する噴火

しがらみを噛み切れないでいる奥歯

こっそりと比べる幸せの水位

わたくしの影が時々立ち止まる

方言に呼び止められる朝の市

火だるまになった男の四面楚歌

枚方市 栃尾奏子

人を恋うときは優しい闇魔様

カルピスが出るからヤマダくんの家

家系図の人が全員来るお盆

消えるのにかかった虹は僕の恋

ひとことが伝えられずに手を握る

夏休み終わる魔法がとけてゆく

大山市 金子美千代

老人のダメ押しされた接種券

使い込んだ体軋んであたりまえ

おとなしくしてても起こるハプニング

私とシンクロさせているドラマ

スマホデビューなぜかみんながおめでとう

おだてられ今年も漬ける梅五キロ

香芝市 大内朝子

コロナ禍のオリ・パラえらいことです

北斎の男浪女浪にある祈り

ハーモニー聞こえてきそうアマリリス

貧しかった昭和を何故か恋しがる

ハンサムを見るときめきは衰えぬ

お疲れさん独り言ゆう仕舞風呂

越谷市 久保田 千代

ほどほどに踏み違えては添うている

身の丈に合った歩幅が定まらず

諦めの中で溜まっていく疲労

腕まくりして血圧と対峙する

古稀すぎて明日は明日の風吹かず

子ら近く喜怒哀楽が倍になる

寝屋川市 森

腰かけてみたいな三日月がきれい

ありがとうばかり私の小宇宙

グランマ・モーゼス描くやさしさに満ちた日々

自宅待機孫はせつせとパンを焼く

浅蜷はあぶく 私ため息暮れなすむ

雲はゆうゆう 私のろのろ点滴に

広島市 岸 本 清

カタカナ語増えて年寄り生きづらい

オンライン見えぬ所はバジヤマです

心友に何言われても苦にならず

時流れ妻との歩幅合ってきた

顔写真付きのキャベツが引き止める

総理答弁面接ならば不採用

倉吉市 牧 野 芳 光

病室の窓の向こうに僕の家

明かさない蛍飛び交う僕の川

後期高齢自堕落も良しとする

頂点と気付く頂点過ぎた頃
政治家になれず潔白な家系
友達を切って寂しくなってくる

松山市 宮 尾 みのり

いい顔が出来る血圧正常値

大切にし過ぎた末の粗大ゴミ

広辞苑で遊んだ過去を懐かしむ

難しい事は出来ないけどスマホ

久し振りの散歩近所も様変わり

ひたひたと近しい人にまでコロナ

唐津市 坂 本 蜂 朗

医の知識妻は少々姦しい

入院の度に地獄が近くなる

病院の不味い食事を待ち侘びる

入院しリハビリという名のいじめ

病院食老いの氣力を奪い取る

退院が決まり燃え出す里心

松山市 柳 田 かおる

お喋りにさせてワインのほめ上手

飾らない言葉すなおになるココロ

追いかけて的はだんだん遠くなる

ロボットの出迎えなんてお断り

多情とか紫陽花にみるエレガント

笑って笑ってわたしの老化防止法

松江市 藤井寿代

色褪せぬ恋銀のお皿に盛り付ける
チャンス下さいバラは真つ赤に燃えている
ピアスを外したら氣付いてほしいの
泥つきの長靴過疎を裏切らぬ
夕焼けを織り上げる熟年夫婦

松江市 松本知恵子

山里の生まれ蛙の音が癒やし
お隣の長唄流る昼さがり
母へ出す葉書に添える南瓜の絵
さみどりの新茶を母と飲みたいな
砂丘らつきよう亡姑の好物漬けました

出雲市 伊藤玲峰

出雲ではひと月遅れの男の節句
笹巻きを六十本巻きかあさんと笑う
神佛に粽供えて無事祈る
信じてるのね皆のほほんとよく眠る
護摩木供養延命寺さんにお参りす

雲南市 菅田かつ子

散らかして気ままたしのワンルーム
洋竈筒の中に亡夫の赤いシャツ
入歯にもしやしやしと春キャベツ
ちぎれ雲亡夫の行方知りたくて
さつと来て烏スキップして通る

島根県 伊藤寿美

見切り発車した春の電車に乗り遅れ
合わせ鏡わたしの死角確かめる
最終章わたしが入る小さな箱
蟬しぐれあの日のことは忘れよう
誘われた二次会困ったことになる

岡山市 大石洋子

マスクしてら抜き言葉も平気です
長雨にしどろもどろに日を過ごす
亀の鳴き声まだ聞いたことがない
水羊羹買ってきたぞと大威張り
卵焼き出番の多いステイホーム

岡山市 工藤千代子

安心に遠い通帳二冊ある
三叉路で選んだ道は雨ばかり
酒に逃げるなんと卑怯で蠱惑的
価値観の違う男と五十年
本心を見せているのに氣付かない

岡山市 丹下凱夫

およよよオタマジャクシが生まれている
人恋の宵待草が土手に咲く
紫陽花に隠れてしまう人の丈
傘さしてあじさい寺の人だから
緑蔭と風と深煎りコーヒーと

岡山市 前田 恵美子

洗う物あちこち探す梅雨晴れ間
紫陽花と滝とお寺を包む雨
娘の写真私のカットおかつぱだ
娘の歳を聞いてビックリ四十八
二回目のワクチン無事を願う日々

笠岡市 藤井 智史

生焼けな過去にしっかり火を入れる
こびりつく不幸は除菌しておこう
一円が千トンになる募金箱
ほぼろ焼き食わねば たまゆらの聖地
大吉の空 ももねこ様おみくじ

岡山市 高岡 茂子

草取りに早くかかれと蜂も飛ぶ
抗体が出来るまではと禁足令
作句につまり友に甘えの電話かけ
食べてくれる友がいるので焼くケーキ
雨の中あじさい咲いてでる元氣

岡山市 田中 恵

星さやか外灯消した里に住む
リメイクが好きな女の紺緋
柔軟に首をまわしてから笑う
口相撲ならば夫に負けられぬ
ハイと言う返事はするがよく忘れ

岡山市 藤澤 照代

青葉から生まれたような雨蛙
古稀過ぎて大器晩成くたびれる
人らしく生きて行くため医者通い
コーヒーが不味いスランプかも知れぬ
あのひとと渡ってみたい天の川

竹原市 岩本 笑子

カレーライスまたまた鍋を焦がしたが
蓄よつばみ今咲こうとする力
レース編む少しリッチになるために
私だけワクチンが済む一安心
電話してほしいと夫ワクチンを

三原市 笹重 耕三

老々介護薄い福祉に晒される
人肌になるまで見極める心
虫食いが絶えない七十路の記憶
満点の男は勝負などしない
背広から野良着へ競うものはない

岩国市 上村 夢香

半世紀前燃えた五輪どこへ行く
復活のヒロインそつと遠くから
コロナ禍でラジオ唯一お友達
そばにいる空気のような人がいい
止まったままの柱時計とさようなら

宇部市 平田実男

美容院心も若くしてくれる

ときめくと10歳若い顔になる

生きる糧五七五とボランティア

没句でもちゃんと句帳に載せてます

日記書き終えてぐっすり明日へ寝る

防府市 坂本加代

派手過ぎるものは自粛の良い機会

デジタル化加速してゆく良い機会

コロナ禍も自分探しの良い機会

腰を据え来し方思う良い機会

断捨離の時間たっぷり良い機会

鳥取市 池澤大鯨

場慣れないせいにしているエチケット

片肘について食事し兄に叱られ

香の物パリパリ鳴らして歯は丈夫

ドアノック返事もなしに闖入す

読みさしの頁に折り目借りた本

鳥取市 奥田由美

惣菜の値引きシールを待つ夫婦

「お若い」に心躍らぬ六十五

高齢者と国が寄越した接種券

孫も出る五分の歌に酔いしれた

二人でも弾むおしゃべり注意報

鳥取市 加藤茶人

口だけは達者何にも出来ぬくせ

人の良し悪しを決めてる金払い

手の届く範囲リモコン 酒タバコ

良き昭和描いて見せるサザエさん

ひよっとして天敵コロナかも知れぬ

鳥取市 岸本宏章

張り切ってスマホデビューをしたものの

生きたため杉も花粉を撒いている

天敵はにんげんクマもライオンも

立飲みで政治経済語れない

はつきりと改憲だけはノーと言う

鳥取市 岸本孝子

ワクチンは効き目が倍の主治医さま

真夏にはマスクが取れること祈る

無精者非常袋が泣いている

水害の心配だけはいらぬ土地

築四十五耐震基準不合格

鳥取市 倉益一瑤

まごころで語ると謎が解けてくる

今日生きているだけでよしどっこいしょ

裏鬼門わたしの無理が通らない

コーヒーカーップ我が抜け殻が浮いている

けもの道覗くわくわくしてならぬ

鳥取市 田 賀 八千代

収納をしすぎて恋も冷めてきた
握手してキューンとハート踊り出す
いい話聞いたが五分後には消え
蚊取り線香友だちにしてナスづくり
過去は過去今の私を見て欲しい

鳥取市 田 中 天 翔

柴犬が居間に入れてと眼で話す
タキ遊ぶための居室の畳替え
さあタキよ存分遊べ樹脂畳
寝そべったタキと夫は同ポーズ
紫陽花といちにち会話して暮れる

鳥取市 棚 田 大

雑草の緑俺らに元氣くれ
よく思やコロナ禍俺に活入れる
何もかも天敵にして得意顔
なぜか俺いつも天敵あつかいだ
青春と聞いただけでも元氣湧く

鳥取市 谷 口 回春子

妻の愛これもそうかと独り言
チンとピー聞いて目覚める腹の虫
A Iに負けぬ夫の意地っ張り
土手散歩雉の威嚇に疎む足
亡父と亡母足して二で割る喜寿の顔

鳥取市 永 原 昌 鼓

熱戦に一人解説テレビ前
あれ我慢これも我慢で気が滅入る
望まぬに早々猛暑もう疲れ
目も老いて夢の一字がかすみ出す
一年に一度誰にも来る祝日

鳥取市 中 村 金 祥

帰巢本能騒ぐが見えぬ壁がある
ワクチンへやつと仲間にして貰い
先ず五輪民の命に目をそらす
故郷に心に残る宝もの
古稀の坂手前勝手は直したい

鳥取市 副 井 ゆたか

真夏日は静かに籠り句を捻る
ワクチンの接種を終えて孫に会う
巣ごもりのランチ軽めに麺続く
家飲みは三杯ほどで寝てしまう
高齢化趣味サークルを流し去る

鳥取市 福 西 茶 子

素っぴんの私を玄関に飾る
トロフィーを返し紛れだったなと気付く
よれよれのゴム紐ガマンしたんだね
いつ寝ても何を食べてもいいですか
かくれんぼ飽きたら家に帰りましょ

鳥取市 前田 楓花

この村できっとみんなの世話になる
ネクタイを捨てる寂しげな顔を見た
犯人は姿見ずともカメモシだ
句作りでストレスを吐き出している
大根おろし目の覚める辛さが旨い

鳥取市 山下 凱柳

日に十句必ず作れ師の教え
師の教え守り作った五万句よ
五万句は十万句への一里塚
老いた脳むち打ち目指す十万句
十万句までは呼んでくれるな仏様

鳥取市 吉田 弘子

毎日のニュースコロナが取り仕切る
強行の五輪コロナに勝てますか
ワクチンを終えて全てに感謝です
冠婚葬祭質素になった昨日今日
生きていたらダイヤ婚です香を焚く

倉吉市 猪川 由美子

死にたいのに器械を付けられ生かされる
切り札のワクチン接種賑やか
自分ファースト他人を上手く愛せない
コロナ下で熱中症がやって来る
眞子さまの恋どんだけ騒ぎ落着く

倉吉市 岡崎 美知江

てにをはを微妙に変えた恋の詩
ろくろ回し土の吐息を聞きながら
骨折ったつもりの話流される
ふらりふらり白黒させぬ接待費
五七五ときどきルール忘れてる

倉吉市 田中 紀美恵

慕われしやさしい言葉ほとばしる
家族皆慕いしたわれ仲良しだ
親だからわざと冷たく愛のムチ
スマートだと思わせきつい服を着る
赤ワイン目盛り守りてほろ酔いに

米子市 池田 美穂

草に勝つ三日天下だったけど
御先祖が盆の予定を聞いてくる
辞世の句詠んでワクチン接種する
家守る同士となつて嫁姑
コーヒーを夫がくれたわ雨が降る

米子市 伊塚 美枝子

梅雨入りの雨音聞いて眠る朝
雨の日の読書雨音の子守唄
ブルーベリー実りムクドリ仲間連れ
庭の木も枝を下ろして夏仕様
ワクチンは終った何も変わらない

米子市 後藤 宏之

ほめられて目出たい男やる気出す
片付けが今日も出来ずに日が暮れた
黙ってるほうをここではチョイスする
大リーグ頑張っている日本産
むつかしい人の料理はまかせとけ

米子市 後藤 美恵子

果報者母の日花に包まれる
プレゼントの帽子に似合う服を買う
夢の中断捨離の靴探してる
当たり前が幸せと気づかすコロナ
ちゃん付けに童顔還るクラス会

米子市 竹村 紀の治

休業の店へ頑張れもう少し
お茶でもと誘われ酒と唄になる
朝ドラが終ったところに電話する
居るだけでホッとするけど頼りない
追加するたびに焼酎うすくなる

米子市 中原 章子

百歳の願いが叶う時代くる
これまでの成果維持する難しい
どん底まで落ちて人間強くなる
張り切ってみても作句が進まない
食品の値上げラッシュを我慢する

米子市 成田 雨奇

ウイスキー飲むならやはりストレート
別れたいお前は介護破棄罪だ
薬飲んだようだコップの水がない
詩人ほどあてにならない者はない
険しさを楽しさとする芸の道

米子市 野川 宣子

ひすい色今年も出来た青梅煮
せかせかは禁物ですと聴診器
コロナ禍も季節巡って夏衣
ナビよりもコンビニの灯が道案内
さしすせそ舌が覚えるさじ加減

鳥取県 門村 幸子

根が深い児童虐待輪廻する
蛍には会えそうもない裏の川
一人より二人それでも一人好き
年年歳歳強く意識す健康度
戦死した恋人語る母遙か

鳥取県 斉尾 くにこ

雷のサマーライブが始まるよ
あじさいの葉を行く水滴の列車
ブレーキとアクセル足に言い聞かす
電磁波でつながっている私たち
お幸せですねと根拠なくて言う

鳥取県 竹 信 照 彦

コロナ禍に馬鹿な戦争やる国よ
コロナで自肅熱中症で自肅
ワクチンが二人済んでも家族まだ
三世代ばらばら接種まともらぬ
安心は出来ぬ鳥取ゼロ行進

鳥取県 細 田 裕 花

ウエルカムが言えぬコロナ禍の五輪
カタカナ語ちゃんと調べたのにあらら
自給率100%じゃがいもを掘る
バラよりもあじさい似合う我が家です
恩人は煙たい上司だったのね

鳥取県 山 下 節 子

それぞれに天敵あつて進化する
バラ百本何年続くダイヤ婚
コロナ禍で本道さけて聖火ゆく
号外の見出し一瞬たじろいだ
昭和の子スーパーマンにあこがれた

東かがわ市 川 崎 ひかり

発熱にもしやまさかで夜が白む
だんだんと昭和の影がうすくなる
筋力を試されている瓶の蓋
ばあちゃんが光るスマホを持ってから
気取り屋の父が好んだベレー帽

松山市 栗 田 忠 士

未完成完璧を追う夢がある
傘日焼け天気予報もご親切
納戸の隅で埃かぶっていた名器
使えるが使わぬものを溜めすぎる
トンボ追う子供はどこへ消えたのか

松山市 古 手 川 光

未来という言葉はセミの辞書に無い
独りぼっちの爺の一日気忙しい
御巢鷹山思い起せと盆がくる
坂本九のあの歌唄おうこんな時
アフターコロナ大きな付けが待っている

今治市 永 井 松 柏

人流に乗ってウイルスが変異する
老春の謳歌を許さないコロナ
ワクチンに並ぶ高齢者の活気
五輪へとしゃにむに突っ走る政治
歳時記の森で詩囊を肥らせる

西予市 黒 田 茂 代

巣ごもりで増えた本代電話代
白以外のマスクはしないわたし流
お料理の舞台演出する折敷
そうだったのかみんなも同じだったのか
着物着る出番来ぬまま去年今年

西予市 西田 美恵子

北九州市 小松 紀子

ダイヤより真珠 金より銀が好き
胸の砂を流してくれる本がある
ワクチンは打ったしマスクしているし
ひと芝居打たねばならぬ深呼吸
作戦は真っ赤なバラの花束で

土佐清水市 辻内 次根

何よりも明日を信じている曆
丁寧にあたんで冬のもの仕舞う
青梅がポトリと落ちた青い空
空席のゆっくりローカル線のバス
全開の窓から山の風通過

高知県 小澤 幸泉

妹の夏を待たずに独り逝く
故郷が時々見える梅雨晴れ間
昼下がり重い頭を持ち上げる
不思議だな今日も私は生きている
手さぐりで私の居場所さがして

熊本市 杉野 羅天

老作業いい塩梅で休みとる
可愛さは我に答えて咲く花か
郭公も命領有権主張
コロナ来て粹なこと皆廃れさせ
コロナ禍の実働二輪 貨車事情

まだ八十もう八十どちらもわたし
元栓切った口に出している外出時
身の丈で背伸びはしない生きる道
お蔭さま今日も元気で生きてます
延命はしない子供に言っている

唐津市 山口 高明

コバルトの海で人魚になるわたし
夕焼けがきれいな明日を模索する
亡妻を恋うて短夜飲みあかす
世渡りが上手けりゃ君の上司だぜ
隣国の親友と未来を語り合う

札幌市 小沢 淳

温暖化旨くなったぞ北の米
満腹になると争うこと忘れ
脱炭素電気自動車追って来る
なあ五輪止めた損失いくらです
老残に夢中にさせる物がない

塩竈市 木田 比呂朗

男性も日傘を差してゆく残暑
だとしても今年もそと暑氣払い
晩酌の佳境へ数値水を差す
着メロはマーチ息子と決めてあり
娘から接種チェックのメール来る

男鹿市 伊藤 のぶよし

無駄にムダ積んで論してくれた汗

臆病も生きる知恵です今では地

何とかなるさ水と笑顔があつたなら

山びこがいいスキスキスキとい返事

夕焼け雲に母の笑顔が今日も出る

弘前市 稲見 則彦

右左ナビは教えぬ新道路

笑うのは為す術がない証拠です

砂時計が止まる外は猛吹雪

マスク美人やつぱり素顔見てみたい

納戸には片減りの靴とつてある

弘前市 今 愁女

手強い奴知恵ある人間負けられぬ

最後には人間勝つぞエッエッヤー

明け方の夢は正夢空は晴れ

人と人明るく握手交わします

夏の夜は津軽ねぶたがヤーヤードウ

横浜市 川 島 良子

有終の美飾り福岡医師へGO

聞き流すはずの話で不眠症

本題はここから寝てはいられない

干涉しない愛の形もあるだろう

可能性ゼロではないの捉え方

横浜市 菊地 政勝

自肅こそ自分磨きの時と知る

人混みが恐くて行けぬ年と知る

外出を子のお下がりが派手にする

大吉の嘘良いことが何もない

テレワーク日毎に鬱が溜りだす

上尾市 中村 伸子

何もない日がとてもうれしい今日この頃

深夜二時スマホにメモをした迷句

父の日も私の好物が届く

エラーして笑つてるよな顔に喝

出句用の封筒少し買い過ぎた

朝霞市 前田 洋子

人様の句ふんわりじわり胸に沁む

絵手紙の里イモの葉に雨やどり

思い出と遊ぶ果ごもり大あくび

老猫と今はすっかり戦友ね

ワクチンの予約ができたお茶いれる

東京都 川 本 真理子

読みたい本積み上げ自肅の醍醐味

娘の本棚漁る楽しさ密やかさ

別人格趣味も好みも似て非なる

老犬を叱つてばかり梅雨入り

ヨイシヨつと今日も地球を転がそう

東京都 まえで とよこ

愛知県 早川 遡行

つゆまぢかレインボーブリッジへ虹かかり
虹のすそ車あらわれ橋わたる

ゆつくりと歩いていこうあの世まで
健康で長生きしたい足踏み器

自衛隊ワクチン接種の虹となり

コンビニ四軒に囲まれた我が家

カーネーション老いゆく母の眼にしみる

メモにない物買ってきて叱られる

お乳たっぷり生まれきた児はしあわせに

ピンポンを始めましたと八十四

八王子市 川名 洋子

富山市 島 ひかる

うち勝つて早くあげたい大火花

昭和平成振り向くことの多い盆

寂しくて気楽でもあり独り居る

一休み仏と分ける新茶の香

引き際の美学忘れて突き進む

オリパラとワクチン接種離せない

忘れっぽい脳に時々感謝する

登山口どこも満車の駐車場

何か変イグアナや猿へビも出る

コロナ禍に考える事みな同じ

名古屋市 山本 三樹夫

可見市 板山 まみ子

巣籠りに家飲み酒の樽を買ひ

梅雨晴れに用心深い人の傘

あいさつに返事ためらうマスク顔

暑い日も日課をこなす九千歩

無理は承知男の意地が燃え上がる

挨拶の声はかけても名は知らぬ

ワクチンを打って一喜の旅が待つ

自らの言葉で語る首相欲し

擦れ違いくちなしの香を残すひと

英断を下さないのかできぬのか

大山市 関本 かつ子

神戸市 上田 和宏

しあわせな句にほっこりとするハート

買った本積んどく癖が直らない

田植えあと計ったように雨が降り

まだ戦後抜け出せぬまま八十路坂

たこやき屋の次に閉店パチンコ屋

サクサク電報今も宝物

声落とす程の事ではないウワサ

腹ペコという青春だった昭和

ダイエット茶碗のご飯減らすだけ

不器用に軌道修正して来たな

神戸市 奥澤 洋次郎

若者がワクチン打つまで自粛する
丸三日やつと出来た句こんなにか
トラブルの多い体へ夏が来る
不便さに面白いこと味なこと
自由気儘するため取っておいた今

神戸市 斎藤 隆浩

伸び代があると言われて五十年
国産と聞けば安心上うなぎ
経済か命かまさかオリンピック
新車買い免許返納また延期
開催も中止も勇気いる五輪

神戸市 敏森 廣光

ふりあげた拳が行き場さとして
ステイホーム私の仕事家事手伝い
向かい風笑顔で待てば追い風に
巢ごもりにLINEの音が心地よい
ワクチンで生きる覚悟ができました

神戸市 富永 恭子

さわやかな風も黄砂も入る窓
心配をかけまいと母よく笑う
選ぶこと楽しんでる陶器市
さくらんぼ離れていたい時もある
要介護の姉のくらしが気にかかる

神戸市 能勢 利子

私の動体視力蚊が笑う
何故かしら夫ばかり蚊に刺されてる
コロナ禍で断捨離始めまだ途中
約束はワクチン二回済んでから
コロナ禍の経験無駄にせぬように

神戸市 松倉 正美

晩学の川柳詠んで若返る
肩の力抜いて作句に立ち向かう
蛇逃げた鳥が逃げたと大騒ぎ
文春とニュースショウ見て句が浮かぶ
父の日は自分に褒美A5牛

神戸市 山口 光久

凄いなあ平均点を褒めてやる
背伸びせず自分サイズの暮らし向き
訥々と話す言葉にある重み
ユーモアのセンスで何時も座が和む
よく飲んで喋っているが寂しがり

神戸市 山口 美穂

素麺の出番よ梅雨が明けました
サングラスにマスク互いに知らん顔
もういいかいまあだ言えぬのが寿命
月明かりも邪魔と螢の光る恋
梅雨霽を慰やしてくれる新茶の香

神戸市 山崎武彦

四葩濡れそつと手を貸す母の試歩
子等巢立ち二人ぼっちになる至福
蒼天へ無罪の文字が駆け抜ける
親の世話長男と決めていた誤算
愛犬がご近所さんを連れてくる

明石市 梶谷和郎

理に沿わぬことにはノーと言う勇氣
子らへ残さねば汚れない地球
今日の負け笑って明日の策を練る
ラジオから漏れる深夜のモノローグ
玩具箱いつもひとりになれる場所

尼崎市 近兼敦子

何でもいゝそんな献立ありません
丁寧に過ごそうゆとり少しでる
行き違い冷たい空気今もまだ
はいチーズ急に伸びだす父の腰
そろばんをバチバチ父のボケぬ指

尼崎市 永田紀恵

駅ピアノ「猫ふんじゃった」弾く勇氣
人世の余白を埋める趣味と酒
恋敵共に振られて今は友
スタートラインみんないっしょのはずだった
風鈴と過ぎた日語る四疊半

尼崎市 藤井宏造

人類の知能試してくるコロナ
目付きだけで勝負のできるマスク顔
外国語消えて淋しい戎橋
人生の音を奏でる駅ピアノ
ケセラセラの気分で仮の世を渡る

尼崎市 藤田雪菜

レジ横の義援ポストに愛がある
カタログの突如と欲しい物ばかり
真つ直ぐな道にお日様味方する
ロールキャベツ孫の好物ほめられる
口紅を塗らずにいつもマスクする

尼崎市 羽奈和子

最後のアイス食べたでしようと妻怒る
ゴメンネとアゲハの卵取り除く
美川憲一のフワフワの手と握手した
アベノマスクコロナ記念に置いとこう
ちよつとくらい太めの方が若く見え

尼崎市 山田厚江

自肅中曾孫の写真を見て過ぐす
婿が来る部屋の隅まで掃除する
婿が来る刺身のランク一つ上げ
娘が嫁ぎカーネーションが家に着く
小遣いをチラチラさせて孫使う

加西市 山 端 なつみ

薔薇の花育てる人に棘はない
青い薔薇咲かせる夢はまだ消えぬ
薔薇の憂鬱薔薔開けば消えてゆく
根を張って生きよ我が家の薔薇達よ
仕事量越せば腰痛襲い来る

川西市 山 口 不 動

妻の顔目の前にいて見ていない
水張って田植は次の日曜日
硝子戸の守宮の腹に目をそむけ
友の訃に想いは遥か雲の峰
名無し草咲き競うてる梅雨晴れ間

三田市 足 立 つな子

悔し泣き父の病の幅利かず
食欲のすすみ具合の成れの果て
鏡みてわざと笑顔の私なの
若者のスマホに強い楽しさ
ぬけだして静かな日日はきつと来る

三田市 上 田 ひとみ

マイメモリー幸せだった萌黄色
風に乗りきつと届くよこのエール
誰ひとり未来を捨てていないから
とりあえずお水いっぱい飲みなさい
とりあえず前だけ向いて行きなさい

三田市 大 西 重 男

コロナ禍で巣ごもり世間狭くなる
老後設計狂いは妻に先立たれ
今日もまた逢いに来たよと仏花
飲む薬多くてどれが何に効く
夕べの夢思い出せずに頭痛する

三田市 尾 崎 一 子

大勢の手を借りワクチンも済んだ
残る命大事に生きよう朝の風
コロナの禍生きてしみじみ人の情
逝く友も親しいひとと天の川
紫陽花に宿る蛙と陽を拝む

三田市 九 村 義 徳

物忘れだけは誰にも負けません
目を覚ませいつまで寝てるうちの獅子
風呂敷に包みきれない法螺を吹く
重い荷は家族みんなで分け合った
重い口開けば軽くなりますか

三田市 多 田 雅 尚

黙食に慣れて我が家に会話消え
図書館は長居するなど椅子も除け
風呂だけが独り歌える自由圏
電動で削る鉛筆減り早い
ネット弱者置き去りされる令和の世

三田市 谷口修平

三田市 村田博

結論が早く知りたい斜め読み
ご先祖の汗と涙が染む棚田
重い荷を降ろした父の認知症
破れ傘ずっと支えてくれた妻
まだまだと喘いで登る古希の坂

三田市 野口真桜子

間が抜けた呪文で不倫相手を貶める
後はもうドアチエーンをはずすだけ
プライドが邪魔した恋がふたつ三つ
五臓六腑に凍む酒通夜の低き声
若作りですのに歳が出る写真

三田市 福田好文

病後の酒医者は少々妻はだめ
遠い耳珍問答の老い二人
少子化の余波が家にも世継なし
バブル期の飲み友達がまた欠ける
体調不良言えば何でも酒のせい

三田市 堀正和

日曜の公園テント花盛り
時刻表半日めくり旅気分
赤信号一息つけと言っている
一年も陽の目見えない黒い靴
マスクとり笑える日まで生きてやる

原点は成人式の一気呑み
黙食で旨いお酒が飲めますか
ワクチン二回打てばどんな騒ぎだろ
自動運転の車で飲めぬドライブ
梅雨明けのビアガーデンは予約済み

高砂市 松尾柳右子

ワクチンの接種済ました旅ごころ
半袖に若さ眩しくなるバスト
生き甲斐はデイサービスの笑顔よし
送迎に感謝風呂よし食事よし
テレビから貰う元氣は唄メニュー

宝塚市 丸山孔一

マスクせず生きるにや一人無人島
主語の無い妻の話に喰い付けぬ
酒粕で酔ってた頃がなつかしい
献血が済んで今夜は赤ワイン
この録画コロナ前だと但し書き

丹波篠山市 酒井健二

詮方は無いが持つて理想論
欲一つ帽子みたいに投げ捨てる
大丈夫薬の種類まだ言える
安全と言われ心が寒くなる
ワクチンを二回打ったら旅に出る

丹波篠山市 長谷川 善 輔

二刀流わが子のごとくはらはらし
五〇号画を描きあげて持て余し
さあ注射これが極め手かいつわかる
効く効かん開く開かん夏来たる
動かずに最新ニュースは気にしてる

西宮市 緒 方 美津子

ホームラン黄色い声は返らない
妻の留守遊び疲れたのは昔
マスクマスク マスクマスクあんな誰
母さんの首は360度
ちゃんらんばらんに生きて幸せ孫五人

西宮市 亀 岡 哲 子

脳トレへ三日まとめて書く日記
一人前は作りづらいついと言うレシビ
御高齢と言われる程の歳となり
ストレッチ一日休み出る元氣
ギブアップ除草剤へとタッチする

西宮市 福 島 弘 子

指紋が消える程の手洗いこの一年
「ガラスのうさぎ」平和を祈る形して
緊急事態ネオン消してもコロナ禍は
ギブアップ食べ放題のイチゴ狩り
糸通す役目の孫の高駄賃

西宮市 福 田 正 彦

客側も安全証を持参する
平坦でない人生が機知を生む
自我押さえ悔しさ仕舞い前を向く
病床で生きた喜び教えらる
独り相撲たまには違う風になれ

南あわじ市 萩 原 狸 月

方言に耳が馴染めぬ疎開の子
燃える空明石徳島和歌山も
炎昼の汗引く機銃掃射音
九歳も玉音経のように聞き
復員の父とは二年半の溝

奈良市 宇 賀 史 郎

振り返りヤトラブルばかり五十年
信念を枉げて育てた子の巣立ち
嘘に嘘重ね政治家重鎮に
鍵要らぬ里に防犯カメラ設け
にこやかに会釈互いにマスク越し

奈良市 大久保 眞 澄

ワアキヤあと下校途中のあごマスク
オレ達の季節だとゴキブリが出る
主の顔うかがってから吠える犬
植え込みのノラ猫お尻見えてるよ
耳を塞いで鳴く捨て猫をやりすこす

奈良市 加藤 江里子

接種券しつかり持つて列に付く
お疲れ様の声に心がほぐれゆく
オリンピックあれよあれよと幕が開く
テイクアウト気軽に食すシェフの味
棘のある言葉の裏にある事情

奈良市 高橋 敬子

未知の余生お手やわらかに願いたい
断りのセリフ浮かべて取る受話器
肩を寄せ手を取り合う日までですか
変異ウィルス強さを増していくばかり
阪神の嬉しい異変今年こそ

奈良市 辻内 げんえい

入院し毎食菌みがき良いクセが
介護保険ランク高さに喜べぬ
男同士孫に付き合う冒険ゴッコ
リハビリは苦しいけれど明日がある
マイ装具付けて嬉しい外歩き

奈良市 山本 昌代

早いなあ一直線に來た八十路
ギアチェンジ肅肅と行くおばあさん
楽しいこと見つけ道草する散歩
花が咲き実となり笑い出すトマト
孫來た日ピンと背骨が立ち上がる

奈良市 米田 恭昌

断捨離を僕の昭和が邪魔をする
コロナ禍の先行き見えぬ深い闇
ワクチンのチクリひと刺し待ちこがれ
今浦島に地下街という迷路
明日あるを信じおたおたなどしない

生駒市 飛永 ふりこ

潮風と波の飛沫に浸りたい
朝食にやつと戻った美味なパン
丁寧に生きなきやそれが続かない
心身は是非を問うてのスケジュール
やわらかな君の頬つべに未知がある

香芝市 山下 純子

朝一番まずはオハヨウつばめの巢
念願の古希でピアノの初舞台
来年こそ皆で見てねと桜散る
脳細胞ワクワクさせる恋心
話上手間のとり方に秘訣あり

桜井市 安土 理恵

連れ合いのブツブツスルーしておこう
探しものもうつき合いはごめんです
失語症へだんまり作戦効奏す
歩けるうちにやっておきたい一人旅
日焼け節縛 土になじんで來ましたね

奈良県 安 福 和 夫

銭金に執着の箍徐徐に解く
古希以来ステイホームに慣れている
砂時計サウナ以外に使わない
川柳の絨毯に乗り宙駆ける
百歳を越えた亡母の後を追う

奈良県 中 堀 優

池の端俺を見ている亀夫婦
打ち明けて身軽になりし遍路旅
辛いこと溜ったままのマスクとる
当たり前が当たり前ではないこの世
今日もまたお前いるから生きられる

奈良県 長谷川 崇 明

コロナ除去千手観音手を借りる
副作用あるといわれてする注射
覚悟して妻と出かける待ち時間
河床に風も味わう京料理
残高は減れど長生きする覚悟

奈良県 渡 辺 富 子

うわさ話ぱっと広がるオンライン
きみとほくのすき間は今や風ばかり
白い記憶笑い合ってる老いふたり
八日目の蟬の哀しみ見てしまう
しのび寄る老いがま横ではくそ笑む

和歌山市 上 田 紀 子

クリオネのダンス見つめている平和
季は巡る紆余曲折のその果てに
旅途上逢いたい人はみな遠い
着地する場所が段だん狭くなる
力抜く事を覚えたこの暑さ

和歌山市 柏 原 夕 胡

青く見られている嫉妬されている
信用をしてくれたので言えません
感謝する言葉大きい声になる
母の味超える味ならいただこう
秒針を刻み続けて耐え抜いた

岩出市 藤 原 ほのか

世の中を逆立ちをして覗き見る
雨の日はびたり似合いの服を着る
教えるつもりで今も教えられ
天国へ切符をすでに予約する
馴合いの二人の時間楽しもう

海南市 小 谷 小 雪

ひよろついで優しい声へ傾ける
むくむくつと山も青春模様だな
ウロコがびかりその他大勢の中
お母さん今朝咲きましたライラック
リハビリの手も足もリズムはサンバ

紀の川市 山東 日出男

大阪市 石田 孝純

政界も二世の花が咲き乱れ

6月の歌は心が重くなる

内定もぐらつくコロナ禍の人事

自粛する愚図な6月もう二度目

どちらにも転ぶファジーな言い回し

半年の途中経過を神に訊く

コロナ病棟ストレスもまる抱え

六月の六六道の六らしい

雨乞いに招待された雨男

雨雨雨いつそ6月抱いて寝る

橋本市 石田 隆彦

大阪市 磯 島 福貴子

甘い汁飲んだ後での副作用

あちこちの路上にマスク破棄の態

メイドイン日本ワクチン待っている

五輪後のコロナ拡大五波ないか

コロナ禍の年金の価値身にしてみる

ネット予約子の手を借りて落着す

ふる里のやさしい風と五年振り

洗濯物干す手順にもルーティーン

迫りくる睡魔と対峙五七五

多読多作多捨師の言葉今一度

京都市 藤 井 文代

大阪市 井 丸 昌紀

コロナに豪雨回り回って人の所為

六月より五月の雨は情深く

今頑張れば三密避けるだけでよい

最後まで飴舐め切ったことがない

足腰脳のストで迎えた八十歳

内緒やで闇で飲ませてくれる店

締切りさえあれば捗る終活も

薬が甘いきつと病氣は治ってる

不要不急ばかりの傘寿足止めに

いやなもの消してくれるよ雨降り

長岡京市 山田 葉子

大阪市 岩 崎 公誠

踏み出して違う空気に癒やされる

年金が減ると通知入れてあり

おはようと空気が和らぐ人が来る

クリニックひと月休み様子見る

昭和の歌流行った歳にすぐ戻る

メガネ消え半日探しまだ出ない

学校の楽しみ部活だったのに

都市暮し蛙の声はラジオから

着て出かけるとこもなかった春の服

辛抱し下手な漫才聞いている

大阪市 岩崎玲子

傘寿耳いいことだけを聞いてます
ボケぬよう老母に質問投げかける
コロナ禍でもしっかり作る旅企画
どなたでも病んでいますの見えぬだけ
亡母の居た実家の部屋で子に還る

大阪市 内田志津子

ご先祖に紫陽花そえて経読んで
難病の吾子はピカピカ一年生
激辛のカレーは母の応援歌
父譲り空気読めないアナログ派
お茶しましよ気軽に声もかけられず

大阪市 宇都満知子

ワクチンの予約雲間から太陽
お日様の愛熱すぎて暑すぎて
風通る日陰の場所へ夏の椅子
げんこつの腕下げたまま聞いている
ルーティーン朝の目薬仲間入り

大阪市 江島谷勝弘

自肅中レコードCD聴く余裕
雀たち あんたらコロナ知らんやろ
喜寿なので「喜寿薫風」を開いてる
努力せずくよくよしてる私です
お願いですそのまま行つてタイガース

大阪市 榎本舞夢

桜散り青葉新芽の散歩道
梅雨入りも無く一気に夏の気配する
コロナ感染オリンピック揺れ動く
のんびりを気付く締切り五七五
その内に笑顔で逢える五七五

大阪市 大川桃花

家事の順序変えてピンチを乗り越える
接種券配られボクも高齢者
廃線のニュースの中に見た我が家
国民のノーは聞こえぬ菅総理
美食家が施設の食に耐えている

大阪市 大治重信

蟻^{はたはた}が飛ぶ格好で野原見る
夜桜を彼氏に話す白兔
一粒の雨に感じる夜の桜
里帰りいつもの楠が見えてくる
頬を寄せて唇寄せて春の夢

大阪市 奥村五月

自衛隊ワクチンさえも応援に
当分は自宅勤務で妻の指揮
旅は駄目外食自肅金残る
処罰なしだけ結婚バツ三つ
人ゴミをさけて長寿は自肅中

大阪市 笠嶋 惠美

句集二冊かわりばんこに読む至福

天ぶらを届けてくれる友があり

天ぶらに元氣もらって生き返る

せっかちはせっかちなりのタイミン

がつばう着付けると元氣出る不思議

大阪市 川端 一步

嬉しいね女性教室また増えた

一人よりやっぱり酒は友がいる

富岳くんに五輪の是非を聞いてみる

雨の音聞いて『河童』を読み返す

『エミール』を読むのが少し遅かった

大阪市 古今堂 蕉子

メシまだかも一度言って欲しい日々

グータッチ握手もハグももう少し

ドンマイドンマイ絵手紙からの声

裏を読む癖で詐欺にはかららない

朝乃山帰って来いと檄飛ばす

大阪市 近藤 正

人の性まだ懲りぬかときのご雲

尾身首のバトルは菅に分が悪い

堅琴の音かき消したクーデター

死者の出る五輪開くのは無謀

ジェンダーで日本お安く値踏みされ

大阪市 坂 裕之

今日中に仕上げて明日はのんびりと

趣味の会無しは我慢も飲み会は

何時になるマスク外して話せるの

つまらない事に噛みつく人が居る

日曜は仕入れに走る新学期

大阪市 高杉 千歩

万歩計 三食昼寝車椅子

好きなもの出ない施設の朝昼晩

六月の雨を絵筆に若かりし

万歩計百歩に足りぬ車椅子

よたよたと歩けるうちは花である

大阪市 田中 廣子

大谷の三刀流が頼もしい

腰痛い姿勢悪くて情けない

五歩進み姿勢正して歩きます

痛くても出かけるプラン立てておく

二人して出かけたところを思い出す

大阪市 田中 ゆみ子

火を点けることも大切ブレッツシャー

飾られた賞状私を追いつめる

夕焼けの昨日があって今日明日

別世界へ行きたくなって開く本

小引出し海の匂いのサンガラス

大阪市 津村 志華子

押し車いとおしむかに青い風
右向いて左向く間の記憶力
アルバムに十五のわたし既に魔女
難聴のデンワ二階に筒抜ける
ニュージールランドのかばちゃ今夜のおばんざい

大阪市 寺井 弘子

疑心暗鬼払拭妻とお茶にする
日焼けした顔にマスクの白眩し
病み上がり母元気づけレモンの黄
パチパチと弾ける笑顔適齢期
振り向けばとどころに あった旬

大阪市 寺本 実

神様も悪魔もみんなお客様
割って出た私はいつも少数派
気づいたら周囲予約を取っている
一回の見合いで美女がうんと言う
口出しはするが財布はゆるめない

大阪市 原田 すみ子

上手に歳とる公式なんて無い
逃げ出した屋根裏のへびわたしかも
クレマチス地味に頑固に主張する
梅干しらっきょ今年も並べ梅雨に入る
デイスタンス噂話を遠くする

大阪市 平賀 国和

ベランダに菜園つくり目の保養
ワクチン接種かかりつけ医の有難さ
コロナ禍の中の五輪の高リスク
IOCのための五輪となりけり
曲がり角オリンピックも日本も

大阪市 宮崎 シマ子

ゆかた着てみせまわってる隣の子
窓見ても雨雲ばかり一人部屋
甘い物食べると欲しい極上茶
孫成人戦にだけはやるまいぞ
漁師の父の天気予報は確実だ

大阪市 山本 加お里

趣味があり外出自粛気にならぬ
川柳誌わたしの過去が蘇る
あんたを生んで良かったと逝った母
聴診器心の中を読む主治医
一坪の花壇わたしの癒しの場

大阪市 横山 里子

ストレスがパンクしそうな五月晴
子にまかせきり父の日のサブライズ
誕生日産んだ日のことなど吾子に
リハビリで出会う団塊元戦士
母校消え校歌の中の百合の紋

大阪市 若本 安代

ゆつくりと時計が動く自肅中

頷いてくれるだけでもうれしい日

マスク取ろう薔薇が満開香り立つ

花育て皆穏やかな顔になる

淋しいね書いて消されるスケジュール

堺市 今井 万紗子

まだ元氣言い訳だけは達者です

あの頃はいつばいあつた笑い声

コロナ禍を忘れたいけど忘れない

淋しさにシニア婚活あるらしい

孫と一緒にお子様ランチ丁度よい

堺市 奥 時雄

万歩計いつも途中で妥協する

亡き親に詫びつつずばら直さない

ナマケモノに進化してしまいました

衣替え妻の用意の懐かしさ

百均の眼鏡ピタリの有難さ

堺市 柿花 和夫

核をもって核を制すとは笑止

終活の体力補強酒二合

さっぱりやあきまへんかと先手打つ

賛成の合図がわりに杯を干す

サインコサイン解らんままで生きてきた

堺市 源田 八千代

ジューンブライド パールのリングネックレス

曾孫生まれ我が家の系譜繋がる

おしゃまさんカメラ目線の新生児

お隣の芝我が家の溝に根を降ろす

ワクチン接種すすみ五輪へまっしぐら

堺市 齋藤 さくら

コロナ禍の先がしつかり見えてない

肉魚コロナの為に残さない

いい笑顔離婚してから若くなり

あと戻りするにも年が邪魔をする

コロナ去るまでは会えない長電話

堺市 坂上 淳司

納豆は苦手だと言う孫夫婦

三歳の曾孫が好きな水戸納豆

納豆を給食に出す保育園

東西の訛りバイリンガル曾孫

春の味筍飯をあてに飲む

堺市 澤井 敏治

深呼吸ただそれだけにある至福

囀りを聞く楽しみのある散歩

わたくしの原風景におもちゃ箱

ソーシャルディスタンスでも大丈夫夫血の絆

涙に濡れたドアはなかなか開かない

堺市 遠山 唯教

家という大きな愛を子に譲る
ささやかに老いたる妻の手が温い
いざ米寿老いの力を見くびるな
切なさを忘れるために街ピアノ
趣味ひとつ物にはならず下手でいい

堺市 内藤 憲彦

そろそろか酒半分は腹六分
ちよとど合う父の残した夏バジャマ
見に行こう梅雨の色した花しようぶ
言わないと言っている間に愚痴が出る
まあまあ辛い時には演歌でも

堺市 矢倉 五月

絨毯のこのシミさえも介護歴
もう大人ですとつれない娘は二十歳
今でしょの顔水茄子の色と味
新茶入れ下戸の亡夫に柏餅
やさしさがなまじ誤解を招くTEL

池田市 太田 省三

お取り寄せ指定日時に留守にする
寝静まる家にアサリの息ひとつ
梅雨明けを待ってる白のワンピース
大股に花火へ急ぐミニ浴衣
痴漢逮捕女性刑事のシースルー

貝塚市 石田 ひろ子

わが脳をシャットアウトのカタカナ語
友達のセンスを貰う柄マスク
泣いた倍笑おう朝のハムエッグ
日本地図広げ自粛の一人旅
梅雨晴れ間家族の元氣干してある

河内長野市 大島 ともこ

物言わぬやんちゃな敵に苦戦する
大きくなれと育てた息子山となる
見送りは要らぬと自立した息子
言の葉を温めふわり送り出す
溢れ出る幸せに大小は無し

河内長野市 梶原 弘光

デスタンス メロンを置いて娘は帰る
老いの身に覚悟を迫るトリアージ
折角の歯並び蓋をするマスク
お世辞にはお世辞半分返しとく
偶数月後半サイフ緩くなる

河内長野市 木見谷 孝代

龍舌蘭六十年目に花が咲く
植えし母きつとあの世で見てるだろ
ワクチン打ち孫子と祝う誕生日
大量に食材仕入れ腕が鳴る
玉の汗畑の空気うまいこと

河内長野市 黒岩靖博

当分は終息しそうないコロナ
巣籠りで不協和音が始める
当分は旅行も自粛テレビ旅
いつからか三食ごとに薬つき
春霞五重の塔も見え隠れ

河内長野市 辻村ヒロ

怠けグセのさばってくる家ごもり
五七五コロナのせいかひらめかぬ
老夫婦囁み合わないがやすらげる
恥じらいが残っていたと若返る
老いたとて食後にそつと紅をひく

河内長野市 中島一彌

政治屋の思惑絡むおもてなし
ワクチンは打ちましたかという会話
戦えますかアベノマスクや竹やりで
パンとコーヒー洋食党の亡父だった
かなり本読んだ割には賢ない

河内長野市 藤塚克三

終電車黙りマスク船を漕ぐ
退院日白いマスクと青い空
何でだろう予定無いのに落ち着かぬ
退屈な時間を趣味の灯がともし
孫と夜空皆既月食見えません

河内長野市 村上直樹

糸切り齒きらりエクボも初夏の風
まさかの五輪永く歴史に教訓に
顔のないマスクぞろぞろ戎橋
バッカ스에感謝今宵も夢心地
まだ若い目が生きてると言う鏡

河内長野市 森田旅人

目覚めては亡夫におはようありがとう
おーいおーい飛行機雲はしらんかお
接種場流れ作業によい市民
その言葉いまわのときまで置いといて
頑張った棚田をゆらす青葉風

岸和田市 岩佐ダン吉

突っ込みが無くて大阪弁が浮く
初夏の風マスク外すと背も伸びる
梅雨晴れ間不要不急の空仰ぐ
ワクチンはやらぬ囁く友がいる
商店街チェーン店まで消えている

岸和田市 雪本珠子

最近心が寒い日が続く
音楽が萎えた心に灯をともし
夕映えに病んだところが癒される
生きる知恵小さな虫に教えられ
幸せを運んでくれた猫と居る

吹田市 太田 昭

寂しくて絡んでほしい時もある
切るものを聞いてから貸す裁ち鋏
遊びなはれにやすやす乗ったキリギリス
妻の縫う絆解けることは無い
待ち針をそのままにして母は逝き

高槻市 片山 かずお

去年の今頃なにを着ていたかと迷う
動かない手足に焦れているやる気
ご苦労をされたと分かる掌の厚み
転けるなど念押す声を背に受ける
ワンコインランチ恋しいテレワーク

高槻市 島田 千鶴子

立ち上がるヒント見つけた川柳誌
零歳がカメラ目線の笑顔見せ
日曜は夫が作る朝ごはん
洗濯は二回目今日は上天気
雨だれがぼとりと小言呟いた

高槻市 初代 正彦

また今朝も元気をくれる目玉焼き
まんざらでもない顔つきの自粛馴れ
にわか雨助けてくれたエコバッグ
目をつぶったり凭れ合いして五十年
なにくそと生きるお方に学ぶもの

高槻市 富田 保子

食べ過ぎを許してしまふゴムベルト
ハンカチに入る位の夢を持つ
情という太い鎖につながれる
城下町いずれ劣らぬ手打ちそば
失敗の話でいつも盛り上がる

高槻市 原 洋志

お荷物にならないようにフィットネス
お見舞をかねて病院下見する
空きベッド待てず自宅で見送られ
平均の寿命あたりを今日も生き
逆縁の哀しみ進む高齢化

高槻市 松岡 篤

バッグにはマスクの予備と水と鉛
ウグイスに歓迎された梅雨晴れ間
町名で歴史がわかる城下町
前掛けがまた新しい地藏さん
賽銭箱監視カメラが守ってる

高槻市 安田 忠子

ステイホーム近くに娘いて嬉し
コープの日沢山買って何食べよ
数字が出れば直ぐに計算してしまふ
アイディアはふとした時にぽんと出る
並んだのに私の前で品切れに

豊中市 池田 純子

末っ子の特典だった父の膝
大らかな母が作った丸い庭
車イス愛する人を乗せて押す
マンションの息抜き出来ぬ密閉度
補助輪をはずし今日からお兄ちゃん

豊中市 上出 修

争わず和を尊んで談合す
コロナ禍めシニアライフが吹っ飛んだ
コロナ五輪貧乏クジを引いてもた
初任給やっと大人の顔になる
古希迎えや々と返せたローン0

豊中市 きとう こみつ

座高が高く恥ずかしかった幼い日
お茶漬けの素あらればかりが先に出る
リスク管理ちゃんと家計簿つけている
紫陽花を想えば梅雨もまたよろし
格闘技してるな耳が盛り上がり

豊中市 藤井 則彦

朝刊を逆めくりしてリフレッシュ
お気の毒なんてはじめて言うた妻
ぶら下げた名札を人は信じ込む
回想から今日も抜け出す八十路坂
たもつさんに負けじ片足立ち二分

豊中市 松尾 美智代

一日だけの命を愛でる沙羅双樹
友と再会みんなマスクの目で笑う
今年も会えた幻の花ヤマボウシ
なつかしい友が訪ねて来てくれる
お茶入れて楽しい話花咲かす

豊中市 水野 黒兎

淀川の無料の渡船風薫る
初夏の日にまぶしいイチゴさくらんぼ
トーストがこんがり焼けて梅雨明ける
どうしても解けぬ数独またあした
ソーメンの白さが初夏の風を呼ぶ

富田林市 片岡 智恵子

地下街で出口わからず立ちつくす
遅々とした歩みになった齢なり
家族全員コロナ感染聞くテレビ
両極の色読んでからする返事
自分史に女結びを締め直す

富田林市 中村 恵

人の通らぬ道に咲く赤い花
出来たての愛をあなたに届けます
折節を畳む女のひとりごと
善し悪しを超えて丸ごと子を包む
解ってはいてもただ一人の日暮れ

富田林市 山野寿之

万緑の山が返してくる訝

赤い薔薇飾ろう自分史の余白

空振りはホームランへの試金石

また一人飲み友達が旅立った

人間を殺める武器のないコロナ

寝屋川市 伊達郁夫

自粛中遊び心と言う余裕

勝ち組の中で負けてる人がいる

二回目で不死身になっている気分

ためらった音がポストの底で鳴る

記憶力薄れ昔が美化される

寝屋川市 富山ルイ子

市役所で予約してくれワクチンを

ワクチン注射ついて来てくれ助かった

会場で老友や柳友と会う

肘で挨拶元気な顔を見て笑う

ワクチン注射ホッと安心でもマスク

寝屋川市 平松かすみ

マスクしてモグモグこれがエチケット

コロナ禍の悩み出産率低下

計算が早い戌年の親子

新聞はこの一頁で代えられず

一番の姉のスナップ真知子巻き

羽曳野市 宇都宮ちづる

なんとなく不調コロナ禍でのヒト科

リモートでキャンパスライフ知らぬまま

診察日にときめく暇なカレンダー

コロナ禍に隠れて増える防衛費

ペイペイも仮想通貨も無縁です

羽曳野市 徳山みつこ

五輪へ引き金バンデミック最中

緑陰に十葉の花清々し

花梨の実漬けて人待つ父だった

足どりに軽く年金日の記帳

朝ドラで知る山の声海の声

羽曳野市 藤原大子

子と往き来したくワクチン接種する

妙案は風呂でぼんやり浮かばせる

追いつめてやっと始動の脳回路

交際費減ってモヤモヤ溜めている

感動の鈍りが恐い自粛中

羽曳野市 三好専平

コロナ禍に拳国一致の声踊る

マスクから貧富の格差知るコロナ

春立ちて廃炉も遠くなりけり

心よりカネとモノとが幅きかせ

菜の花は人を選ばずまた媚びず

羽曳野市 吉村 久仁雄

七十路で今ふつふつと知識欲

青年臭消えて男気増した子よ

喧嘩もうよそう幸せはここにな

どこからでも突ける首相の隙だらけ

多忙でも暇でもなくて日々が満ち

東大阪市 佐々木 満作

中折れ帽銀行マンの父の粹

定年を迎えゆつくり背広脱ぐ

カルガモの引つ越し癒やされるドラマ

湿原の丹頂戯れる優雅

コロナ禍で会えない中に喪のハガキ

東大阪市 西村 哲夫

蟬時雨コンダクターもタクト置く

生き方は問わず兎に角盆踊り

矯め直ししすぎて元に戻れない

初盆にあの日流した涙なし

四面楚歌如來大悲は裏切らず

枚方市 谷 英也

人生もいろいろあった立ち泳ぎ

久しぶり孫と湯船で水鉄砲

いそいそとワクチン接種やつと行け

スマホ増え車中の痴漢減りました

猿回し人の文化の知恵ですか

枚方市 藤田 武人

アタックもフェイントもある片思い

夢をあきらめた瞬間なのか泡

虎の威を脱いでサバサバ自分色

阪神が負けると塩辛いおかず

ガス栓が気になり旅を切り上げる

枚方市 山口 弘委智

朝採りの露も目方の秤売り

目出度さを輪ゴムに束ね届けられ

行間に本音を埋めて日記果つ

上を向くことを忘れず青い空

言い足りぬ言葉押し込むマスク裏

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

感情線の細いところにある病

ごろんと横に身体が棒切れのようだ

シャワーより湯舟やさしく身を癒す

食欲にちよつぱり爽快な気分

近よりません遠くて好きをつづけます

藤井寺市 鈴木 いさお

季語だ切れ字だとうるさいなあ俳句

盆踊りの時だけ腰がシャンとする

おおきにと有難うとの微妙な差

何のための付箋か思い出せない

瘡蓋が剥かれるように梅雨明ける

藤井寺市 吉田 喜代子

コロナ一年体力気力老いている

感染者減って私も畠仕事

接種した人の話に安堵する

マスクにも眉ずみだけはくつきりと

しんどいが川柳という命綱

箕面市 大浦 初音

強面が優雅に弾いた駅ピアノ

雨やどり隣合わせも縁のもの

ホームランエアータッチでお出迎え

青い空悲しみうすめ立ち直る

青もみじ目にやさしくて風さそう

箕面市 酒井 紀華

昼の月ステイホームの秘密主義

ゆるやかな嘘であなたを包みこむ

手足腰伸ばしてジムでギャル気分

湯上がりにひととき伸びる顔の皴

服装に合わせて付けるマスク柄

箕面市 出口 セツ子

子供だけ覚えてくれている誕生日

ブレゼント無しで借金だけ夫

あと何度迎えられるだろ誕生日

幸福は優しい子らの元気で

自粛でも金が無くても湧く元氣

箕面市 中山 春代

春うらら道を外れた路線バス

んの字があっち向いてる「おげんきで」

おしゃべりでつなぎ止めてる記憶力

不要不急雨を見ている万歩計

ワクチンを終えておしゃれな布マスク

箕面市 広島 巴子

蝸牛君も巣籠もり出ておいで

ワクチンを打って食欲取り戻す

葛餅がつるんと別腹に

ミニトマト自給自足の第一歩

紫陽花の真似をしないで変異株

八尾市 寺川 はじむ

瀬戸際の粘りを知った初夏のトラ

小指立て缶コーヒーを飲んでいる

気取らないゼッケン八に癒される

朝明けの素顔つやや夏野菜

虫喰いへ最後は孫の知恵を借り

八尾市 村上 ミツ子

大切な友とはずっと会えぬまま

もう一度かがやきたいと辞書を繰る

おしゃべりと沈黙いつも仲が良い

痛み止めそろそろ効いてくる頃だ

聞き違い思い違いが多過ぎる

大阪府 米澤 俣子

剃りあとの青に魅せられたはむかし
テレビ体操うつとりと見とれるばかり
ちよつと奮発プチ贅沢の昼御飯
平成の自家製梅酒まろやかに
思い出をせつなくさせる雨の音

水煙抄

(つづき)

高知市 三谷 松太郎

母の日のあとは毎日妻の日に
今日よりはさらに明日を楽しめと
ワクチンの予約だけでも死ぬ思い
デコボコの道は果てなし蟻の道

第7回詩歌文学館館長賞受賞

新家完司川柳集(七)

『令和元年』

定価 1000円+税+送料

お申込み先 新家完司

TEL 0858-52-2414

FAX 0858-52-2449

第70回 東北川柳大会

日時 令和3年9月26日(日) 午前9時30分開場

会場 東京エレクトロンホール宮城 6階

仙台市青葉区国分町3-3-17

参加費 2500円(昼食・発表誌呈)

記念鼎談 『東の川柳 西の川柳』

木本 朱夏・熊谷 岳朗・雫石 隆子

宿題 (各題2句・自由吟は2人選で同一句禁)

「間 隔」 三浦 蒼鬼 選

「すつきり」 大石 一粋 選

「ポイント」 熊谷 岳朗 選

「助ける」 山口まもる 選

「宴」 小林左登流 選

「自由吟」 木本 朱夏 選

「自由吟」 雫石 隆子 選

席題 (1題2句詠・3人選) 発表 午前10時

3人の選者にそれぞれ別の句を出しても同一句でも可。

出句締切 午前11時

欠席投句 投句料1000円。用紙自由。作品と同一用紙

に住所・氏名・電話番号記入の上、左記に郵送

して下さい。

締切 9月10日(必着)

〒981-8007 仙台市泉区虹の丘1-6-3

田村 富雄 宛

主催 河北新報社 川柳宮城野社

川柳塔の

川柳讃歌

◎

上方芸能評論家 木津川 計

滑舌は悪いし舌はもつれるし

古今堂 蕉子

そうか、蕉子さんの舌がもつれ始めたのか。これはいかなあとなが身に置き替える。私は毎週NHK大阪放送局で「ラジオエッセイ」(関西エリヤ)を担当して四十年を超えたがロレロレ言い出したら降りると決めていた。笑福亭仁鶴も「生活笑百科」の司会を務めたものの呂律があやしくなり、降りた。滑舌だけではない。私は物忘れし始め、隣の名前が出てこず、家内に訊くと「誰やったやろ」、ええーっ!? 蕉子さん、共に頑張りましょう。

あほやなあと言われホンマやと思う

梶原 弘光

「今日電車にのりましたらなア、なんや人が皆にやにや笑うて、わての顔ばっかり見てまんね。けつたいやなア思うて氣イついたら、ズボンのボタンの間からさる股の紐が垂れてましてん」というあほな男がいた。さる日、

ちつとは栄養つけんと、と一人で鰻丼を食べた私だがレジで払う段になって、財布を忘れたあーっ! この顛末を小学生の孫娘に話すと「あほやなア」。それを「ホンマやと思う」ことが増えた。弘光さん、私と同じです。

ほめるしかる 子犬の母になりそうで

小松 紀子

私の見るテレビ番組はニュースの他に大相撲、高校野球にボクシング、ことに動物番組だ。朝、朝刊の番組で、あるかないかを先ず探す。あるっ! という日のよろこびと、ない日の落胆。少年時代、犬を飼っていた。それから猫と暮した。その猫が死に、いまでも飼いたいのが最期を取れないので動物番組で子犬の「父」になっている。犬は賢い。紀子さんは「ほめるしかる」で「子犬の母」になった。ええお母さんになってやってく下さい。

五七五の欠片探している詩囊

宮尾 みのり

躍動する文章に引きつけられるのは内容もさりながら語彙が豊富だからだ。金持ちには誰しもなりたいたいが言葉持ちの魅力である。フローベルは「ふさわしい語は一語しかない」と真剣にその語を探したという。ポキヤブラリーを増やすには文学に親しむに限る。早いと越したことはないがいくつかからでも運くは

ない。親しむほどに表現が豊かになる。あの人のは中身がある面白いと言われるようになりたい。みのりさん、詩囊をお大切に。

遺言に墓石に一句刻んでと

北澤 稠民

人生は切ない。誰しも容易ならざる道を歩んできた。その証を川柳家も残したい。麻生路郎は「一句を残せ」を残した。生涯に詠む何千句ではあるが、光る句は一句でしかない。その一句のために研鑽を積む。なんと辛酸であろう。楽しみに詠む川柳は知らず、道究めるとは墓石に一句刻むための道程だったのだ。路郎はまた「いのちある句を創れ」とも言い残した。稠民さん、ご家族はあなたのいのちある句を必ず刻んでくれますよ。

コロナ禍が酒ない花見せよという

福田 好文

牛肉のないすき焼がないように酒のない花見もない。桜を愛でながら酒を飲む。それが長年の風習だった。私より三歳上の小沢昭一は海軍兵学校に入学した夏、敗戦で命を長らえた。「同期の桜」に憧れて成長した私も難関の海兵を目指した。合格すれば特攻として散る運命だった。もし、散華。していたら川柳讃歌を書くこともなかった。好文さん、酒のある花見のできる平和をこそです。

白選集

小島蘭幸

アイラブ大阪とんぱ返りをするマスク
父の日よ長女は長女二女は二女
再放送の中にいるのは僕ですか
表面張力するまで注いであげました
十八番歌うといつも大合唱になる

松本文子

葉桜の下であの世と語り合う
湖の向う ふるさとが見える
遺言のように書いているノート
私を迷子にさせた交差点
哀しみの日は紫陽花寺が待っている

三浦強一

人間を卒業の歳来てしま
休んでは童話にならぬ亀の轡
頭の体操寿限無寿限無を唱えます
ヒロシマ ナガサキ八月の閃光
夜明けの歌コロナワクチンから聴こえ

三宅保州

思い止まらせてくれた子の寝顔
幸せに気づいていない不しあわせ
人類の特権笑顔だと思
禁酒禁煙減塩無糖ダイエット
マスクすらせず立ち向かうボランティア

村上玄也

安心安全説得力がない
人命と五輪の重さ比較する
五輪命と思ってるかのような総理
ワクチンが政府不信に火を点ける
恐ろしや中古原発再稼働

森山盛桜

蛮勇の欠片がこびりついたまま
天命と悟り切れない処方箋
おとないは夜風門は緩めに
密になる覚悟の中で伸びる蔓
呼び水は無駄足なのか青春よ

八木千代

瞬間
あの一瞬踏みそこった一人道
廊下での転倒それからの悪夢
即手術身動きならぬ四ヶ月
リハビリに耐える痛みに泣きながら
その一瞬ずっと繋いで戻り道

山 本 希久子

守るべき家族と歩く茨道
歩き慣れたこの道命尽きるまで
敗北のゼロ勝利のゼロもありこの世
安心のマスクだ四季を使い分け
雨あがりやつとワクチン注射終え

板 尾 岳 人

山の峰父のリユックに数珠がある
此岸から手を振る父は山姿
母に逢う約束だった無人駅
木から猿落ちて携帯離さない
転がれば坂だとわかる不眠症

居 谷 真理子

嘘つきな舌を時々囁んでやる
廃屋を看取る光が降りそそぐ
鳥たちが歌えば木々たちが太る
目の奥が乾いて世の中が歪む
学徒出陣いつも雨いつも雨

川 上 大 輪

私の隙間に埋めておく笑顔
昔なら疾うに私は死んでいる
ポップコーンにも言い分はあるだろう
サヨナラを言ってしまうえば楽なのに
目的地周辺ですと放つとかれ

北 野 哲 男

今のとこマイナンバーの一番なし
福耳にメガネ補聴器マスクまで
儲からぬことに汗かく老いの意地
野の草も鎬削って花咲かす
暦とはリズムの合わせぬ温暖化

木 本 朱 夏

夜明けを待つ静寂に耳を澄ませつつ
傘をたたんで此の世の雨を視ています
来るはずのない人を持つ待ち時間
トンネルの向こう微かに陽の光
コロナ明けの街を夢みる鼓笛隊

新 家 完 司

生ゴミの置き場カラスの始発駅
離乳食うどんで今もうどん好き
芋食って飛び跳ねていた少年期
逞しい野武士のようなダンブカー
酒浸り海の深さも知らぬまま

高 瀬 霜 石

カロリーゼロほんとかな ほんとかな
この印籠が目に入らぬか視聴率
1グラムほどは抱いてる正義感
人気投票1位はきつと聞き上手
さよならとくしゃみは不意にやってくる

竹 治 ちかし

人間の勝手 果実の季を盗む
時は夏至 寢床で夕陽見て眠る
今俺が消えても自転する地球
世の流れ老いもラインに乗り生きる
もうとまだ連れて私の生きる今日

津 守 柳 伸

注目の五輪いよいよ近くなる
スマホにもイヤホン追加思いやり
ワクチンもマスク騒ぎに似て非なり
季節感うすれた餅のアラカルト
ワクチンへ痛し痒しの列の中

都 倉 求 芽

知らしむべからず依らしむべしにはまる
天気予報全く関係ない部屋並ぶ
部屋は快 廊下は寒い車椅子
七十二時間のうち三〇分の風呂
散髪を頼むのに二た月半かかり

西 出 楓 楽

ときどきは拗ねて存在感見せる
思えば大バクチだったな見合い婚
傘寿越え待つて五体になガタが来る
後ろめたいから言い訳がくどくなる
逝った子が呼んだ気がする虎落笛

仁 部 四 郎

やはりその長幼の序は美德です
やはりその恥知らずとはつきあわぬ
やはりそのかたがが大事見舞客
うぬぼれはやはりそのだがエネルギー
やはりその九条じやまにしてならぬ

福 士 慕 情

桜咲く浮かれておれぬ新コロナ
八百万の神もコロナは知らんぶり
コロナ禍の非日常に耐えている
変異株コロナも脱皮するらしい
コロナ禍の自粛 孤独死ふと思う

麻生路郎語録

私の「俺に似よ俺に似るなと子を思ひ」
の句はよく、引用されるが、近ごろでは新
仮名遣いで「思ひ」を「思い」に書くことに
しているが、揮毫の場合には「思ひ」や「お
もひ」と書くこともある。最近、「親に似よ
親に似るなと子を思い」と引用された柳人が
あったが、ここまで来ると滑稽だ。

（「川柳雑誌」NO・415より）

森の集句



『夢』

松山芳生

灯籠流し点になるまで語り合う
父無念胸部貫通銃創記
病院の廊下が僕の散歩道
人間を脱ぐと一番安らげる
好きだからあなたの傘で半世紀
薄れゆく昭和を背負う父である
失意の日母の位牌に辿り着く
少年の夢が嵐の中を発つ
落書きの絵本は子らの置手紙
時刻表開くと発車ベルが鳴る
ひまわりに号令などは無用です
賑やかな音符を消してから眠る
ふんざりをつける深夜の虎落笛
夕焼けを吞んでしまった無人駅
そしてまた冬の吹雪に慣れていく

(平成二十四年三月十日 発行)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

亜欧の旅(五句)

足るを知る暮らしか包の老夫婦
砂塵舞うキヤラパンの夢の跡
ギリシヤ語の蟬しぐれ降る丘の道
ワイン眠る倉で静かに飲むワイン
円ドルリラフランで狂う計算機
伴奏は気にしていない黒田節
秘仏より僕にやさしい野の仏
草の芽が出ると妻よみがえる
人それぞれ仏さまま古都の秋
カルダンのハンカチ一点豪華主義
ゴールまで走るほかなき競走馬
書き上げて部屋いっぱいいの年賀状
はからずも妻の命日 啄木忌
小糠雨まためぐりくる連翹忌
一寸の虫たらんとす多喜二の忌
千羽鶴 あめにしおれて原爆忌

西尾葉句集『水鶏笛』くいなぶえ

「晩酌」

二次会で土産の鹿の角がとれ

お互いに中毒ですなど酌ぎこぼし

劣性遺伝と彼もみとめたはしこ酒

酒仙とも言われ中毒とも言われ

おごられる方がトコ姐さん酒もってこい

酒の勢いで墨痕淋漓たり

晩酌の一杯だけは妻が酌ぎ

馬あいというは一杯いける仲

豆もろこ三日つづいた猪口を置き

会葬の帰り死んだらあかん酒を酌み

またしてもタイミングのあわぬ妻の酌

ビール壺の露のままなる酌うれし

茶屋酒がだんだん旨い地位になり

二日酔いものに動ぜぬ姿なり

誘惑はおみきを入れてからのこと

健康法きけば盃もつ仕草

飲める身のケちな雪とはおもえども

彼は酔いマダムマダムを連呼する

酒仙とは良きかな一本提げてくる

お銚子をかえて今夜は帰さない

遺伝でんなアと盃の手がふるえ

ひとり酌めばいみじくもまた秋の雨

飲み友達飲むまでケちなことを言い

「紅灯の夕べ」

半玉に男ざかりの手をひかれ

姐さんの苦勞すなおに舞妓きき

男はんの悪口舞妓もついて言い

腹違い舞妓になっているという

ワテが通りまっせという歩きぶり

鏡台へ西陽のきつい屋形にて

蜜柑の皮もおちよやん握らされ

スタンドの出物があつた妓の電話

狸寝と女将はどうに知っている

英語 de Senryu ⑪⑥

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

昔とは父母のいませし頃を云ひ

the past

means the time

father and mother lived

錆びついた針のようでも生きんとす

looking like a rusted nail

I want to live

for my family

the past 過去 *mean* 意味する *the time* 時代 *look like* ~ のように見える

a rusted nail 錆びついた針 *want to live* 生きたい *for my family* 家族の為に

～リバーウィローのため息～世界の詩歌⑤ 土地の心象風景を詠む、岩井昭の世界

20代から詩を書き始め、岐阜県多治見市に暮らす岩井昭さんは、個人詩誌『詩食』を小冊子、チャップブック形式で出しています。『詩食』は、年に2回、各240部発行されています。陶器・タイル製造で名高い多治見で生まれ育ち、多治見から出ることなく住み、詩を書き続ける岩井さんの詩の抒情性と社会性、そして『詩食』という詩のタイトルに潜む内容に私は魅了されています。詩を食っているのか、詩に食われているのか、詩と寝食を共にしているのか、読者に多様なイメージを与え、読者は彼の詩に食われます。「思い出」という題の短詩を英訳してみました。

川底には / 陶土が / ある

その下で / 泳いだり / 魚を釣って / いる

The pottery clay remained / at the riverbed.

We swam / and fished there.

「湯呑」

湯気が揺れながら消えていく

忘れない記憶がある / やりなおしたい過去がある

握りしめても / 形を変えようとしないで / 手のなかに



西 出 楓 楽 選

貝塚市 吉道 あかね

自粛して過ぎて行く日が惜しまれる

髪伸びて生きる力が湧いてくる

古稀過ぎて実年齢は遠ざける

人生は雨のち晴れが丁度いい

ガラスの器出して一気に夏が来る

昼顔に挨拶をする散歩道

神戸市 長川 哲夫

春の川の水きそうだがすぐ暴れ

首を出す蟬に地上は騒々し

生い立ち記真綿の雪はしめやかに

名を呼ばれ起立礼して接種受け

ワクチンが詩囊の泉創り出す

麗しく句会始まるコロナ明け

神戸市 輿水 弘

朝のかがやき心を透かすいい予感

腹の虫耐えて擦り切れ尾は残し

困るんだすべてコロナのせいにする

老い二人声の大きさを意地を張る

腹かかえ笑ったことはいつだったけ

きつといいことあると言う爺嫌いじゃない

横浜市 加藤 佳子

紫陽花の海に引かれて一休み

台湾へワクチン贈る助け合い

失点の中で放ったホームラン

まん防でマンボウ気取る気の緩み

誌上句会続きぎっくり腰誘う

リハビリは朝の散歩でカバーする

倉吉市 伊藤 嘉昭

パソコンの雀卓楽し一人酒

この機会心身充実我が家にて

出張もコロナ地域はそつと入り

孫達もコロナ気にして近寄らぬ

五輪ならテレビで見ると国挙げて

夢でない月へ往復試算出た

大阪市 今村和男
紫陽花はすこしお酒を飲んでゐる
にわか雨急ぐ女に待つ男

雨降れば帰らぬ傘を思い出す
部屋干しに強い味方の扇風機
朝顔の鉢に柱の梅雨晴れ間
雨乞いの作法を知らぬ予報官

生駒市 饗庭風鈴

糸電話どうかつなげて向こう岸
手を伸ばし宇宙の無音さわりた
魂はどこへ行くのか蟻の列
こんなにも儚いものが多すぎる
寄り添った夜更けもあつた忘れない
大木を支える根っこ目に見えぬ

泉佐野市 檜葉良子

どうなるか一か八かのオリンピック
親が子に管理任せるパスワード
愉快な句笑えるうちは平和です
訃報欄好きな俳優また一人
高熱者外で診ますと開業医
チャンづけで呼べる友いる幸福度

三次市 伊藤寿子

傘寿坂まさかの病魔とりつかれ
ど根性ガエルの四股名ピツタリだ
三人の孫を残して死ぬもんか

柳友のハガキへ若き日を重ね
少少の障害生きてるあかしかも
残された日目を愛でてよろこばん

石川県 堀本のりひろ

母ちゃんは正邪見分ける閻魔様
ニコニコと妻の言うままお父さん
マイホーム私の居場所ありません
私にも光合成要るのです

我妻をよくよく見れば観世音
愛は続く三途の川の向こう岸

神戸市 青木公輔

バレットの白様な案を練る
薄味の医者だが芯は炎えていた
受付へ謎の名刺のふたつみつ
心配の欠片崩して見たものの
口八丁手は四丁の一寸前
この指に止まってくれた五人衆

鳥取市 大前安子

家の内時に白旗和が生まれ
自惚れはもうどこか消え素の楽さ
散歩道話題三つ四つ拾いつつ
決めましたでもねだけどね言わぬこと
人の波泳ぎさざ波楽しもう
綱渡り揺れた身体が合わせだす

宮崎県 黒木 栄子

逝った母はほえみかける夢の中
コロナ禍の終息待つもすりガラス
ほつこりの母さん皆に愛される
見た目より心やさしい人が好き
没も良しプラス思考に切り替える

佐賀県 真島 久美子

雨音は常に新曲なのですね
全員がマスクで人で妖怪で
南無南無と過ぎたる父の誕生日
灯をともし顔を仏に見せている
月の影誰か攫ってくれないか

黒石市 石澤 はる子

エプロンに催促される重い腰
手土産に添えられていた依頼状
足腰にしわ寄せが来るやせ我慢
多数決根回しだけは抜かりなく
今日の予定居眠りタイム削れない

黒石市 北山 まみどり

風だけが気ままに木々を揺らして
木漏れ日も一緒に連れて来たらしい
お誘いを受けても弾まないころ
いつまでの自粛でしようかしらむ羽
突破口きつとあるはず探し出す

青森県 月波 与生

しあわせはエンドロールをみる映画
徘徊と言われぬようにウォーキング
テレワークのまま明日は退職日
マツチングアプリで探す茶飲み友
老いたなあラーメンチャーハンを残す

東京都 高岡 弥生

言動を子供にダメ出しされる日々
お薬を飲みすぎてまた薬処方
定年後家事の分担生きたため
ワクチンの接種を終えて飲み会だ
酒提供お店も客も望んでる

浜松市 中田 尚

ワクチンの予約とれない黒電話
タブレットメール昭和を悩ませる
トクホンで今日の痛みが取り切れず
舌打ちで心が重くなるばかり
いつか読む本が少しずつ増える

豊橋市 小松 くみ子

コロナ禍に物狂おしい好奇心
さざなみのイメージ壊す失言が
梅雨入りに待ってましたと花や草
非常食チラシ見るたびほしくなる
わかっててもいつも躰く憎い石

京都府 北野クニオ

竹の子がコロナを真似て顔を出す
巣ごもりも限度を過ぎてストレスに
ワクチンを打って一服一人酒
早梅雨に蛙驚き声からす
愛情の掛け方次第も進化

大阪市 東 敏郎

とばけ癖周りは惚けに気付かない
一粒を十と数えて豆食べる
香具山は畝傍耳成伸を裂く
ビザ無しで地獄の門は通れます
あれば出し無ければ付けで飲んだ酒

大阪市 岡田恵子

ぷくぷくと出てくる邪念おとし蓋
許されぬ恋に遮断機おりたまま
ポケットの奥で蠢く嫉妬心
振り向きはしない女の意地がある
息つきが下手で渡れぬ向こう岸

大阪市 近藤風羅

夏服に袖を通して明日晴れ
遠足へ靴揃え寝る一年生
カレンダー付けた赤丸ついに明日
リモートでいつも元氣と母に言い
逝きし父長く会わぬと母の愚痴

大阪市 阪井恵子

溜め息も涙も溶けていく湯船
頼らない私を造る骨密度
このままでいいのかと問う雨の音
気がつけば膝折り四つ葉探してる
晴天にいきいき呼吸する更地

大阪市 阪本秀子

梅雨入りでお日様すぐにかくれんぼ
紫陽花は心やんわりしてくれる
口角を上げて不快を畳みこむ
街の灯のささやき不意に耳すます
夕映えに父母の温和な影ゆれる

大阪市 柴本ばっは

足腰はあかんけれども口達者
長々と毎日横になつてます
笑っても泣いてもいつもひとりです
冥土行きコロナ禍以前良かったね
七回忌無事終えましたほっとする

大阪市 中村峰子

欲ばりであればこれもとあせつてた
川原まで夕日求めて散歩する
ひとりぼち子供のころはつらかった
猫と犬おしゃべりしない真の友
ひまわりを活けてすっかり夏を待つ

大阪市 樋口 眞

なやみ事ひとつ消えたがまた一つ
ウォーキング雨で休んで知る効果
転ばないうちから杖は持てぬもの
キーボード三十分で痛む肩
寂しいなあ端正な友星になり

大阪市 松田 聰

神仏に手を合わせると心満つ
知らぬまにひと傷つけている言葉
接種ではまさか感染しないだろう
喜びと悲しみ分かち合う夫婦
天気よしけれど黄砂が来る憎さ

大阪市 降幡 弘美

隣人が飼ってちややだなは虫類
リモートでのぞき見しちゃう私生活
川柳で国語ギライが治ったよ
飼ってないのにゴキちゃんに住んでいる
動くのが億劫になる休みの日

大阪市 森 廣子

七人漕ぎのボート真っ直ぐ初夏の川
楠の葉のこの上もない濃い緑
赤く喘いでノウゼンカズラ垂れ下がる
小玉西瓜も老いの手に余る
待っていると小さなチャンスやって来る

池田市 上山 堅坊

皺をも愛す広い心で老いの恋
するりつと入り込みたい君の胸
浜に立つあれこれ夢が湧いてくる
忘れられぬ恩をしつかりラッピング
ワクチンで嘲笑したい新コロナ

池田市 倉本 一弥

大阪弁馴れなれしくて遠慮ない
後期高齢昭和の歌に熱くなる
上目づかいそつと窺う妻の口
男の性が男集まりやすぐ群れる
帽子にマスクどなた様かなご無礼を

泉大津市 助川 和美

傘立てに日傘と杖が加わった
想定外喜寿過ぎてなおときめける
たのみごとたくさん言うて暮参り
錆びぬよう手足も脳も磨いとこ
大きな靴玄関にある孫来てる

交野市 山野 双葉

ドクダミの十字折りの庭となる
題目も百合の香に酔う初盆会
留守電に繰り返し聞く母の声
金継ぎし形見の杯で酔う夕べ
毎日が新細胞の誕生日

吹田市 岩 口 のぞみ

家飲みで増えた会話もいつまみ
テレワーク通勤時間に散歩する
もどかしい届けられないおもてなし
京の街賑わい去って風情増す
年一度小鮎の苦み確かめる

吹田市 西 沢 司 郎

暇潰し飛沫気にせず長電話
大谷の出番テレビに驚りつく
おもてなしそっちのけでの五輪です
裏の裏読まれそのうち包囲網
茶柱が立つのに未だ来ぬ知らせ

高槻市 鳥 居 宏

雨の日は句を練りながら部屋歩行
遠足のようにワクチン待っている
チャンネルはグルメとスポーツばかりなり
ミヤンマーに何もできない情けなさ
成長の意外に早い髭と爪

寝屋川市 川 本 信 子

ふる里の新茶に添えて友の文
丹田の呼吸覚えて医者要らず
まだ笑みも元氣もあつた終戦後
独り飯コンビニの品膳飾る
大阪弁田辺聖子を丸裸

豊中市 貝 塚 正 子

更年期二度目は膝に腰にきた
ありがとう連発してる老いてゆく
泣いてる子に愛犬そっと添い寝する
もめぬよう右に同じと言っておく
地下足袋が粹に整う人力車

豊中市 齋 藤 奈 津 子

黙食で団欒ならぬ夕ご飯
自粛中怖くて乗れぬ体重計
目が合って家族にしよう小犬
出不精もコロナ自粛に飽きがくる
ディスタンス痴漢が減った電車内

豊中市 松 田 蟻 日 路

紫陽花も日傘欲しかる五月晴
オニヤンマ暑熱の午後を悠然と
明けガラス子供は無事に巣立ったか
杜若背骨伸ばせと俺に喝
儂さなど飛ぶ揚羽蝶知りもせず

大阪府 高 木 道 子

何せんと納屋に行つたのこの私
夏大根を下げて裏口まわる声
何事も無しと老鷲の谷わたり
人住まぬ屋敷自然の好き勝手
身の丈で暮らし辣非も梅も漬け

神戸市 近藤 勝正

接種日にハートマークのカレンダー

我慢せず努力もせずに待つワクチン

かかりつけないから困る息災で

日記帳今日も日付けと天気だけ

異常気象こよみ頼らず衣替え

神戸市 みぎわ はな

スッピンにマスクブライド消えてゆく

知らんぷり出来るマスクと黒眼鏡

咎めまじ男の強弱うらおもて

亭主関白昭和の遺物いまは逆

マニユアルの敬語の意味も様変わり

神戸市 米田 利恵子

町内の普通の人がコロナとは

自粛中の洗濯機までマイペース

大根をおろすひととき無になろう

一日中地球洗うか大豪雨

保存食のラーメンばかり減っていく

明石市 瀬島 流れ星

使い分け出来る仮面が底をつく

過信した一服の間に蚊帳の外

探す振りだけで結局出さぬ金

羞恥心何処へ独りの熱帯夜

「何でやねん」大阪弁の潤滑油

尼崎市 清水 久美子

恋心未だに消えぬ人が居る

絵心が無くて響かぬ抽象画

ブライドの所為か弱音を吐かぬ姉

トラキチを連日連夜酔わすV

オムレッツを反しユーミン口ずさむ

伊丹市 延寿庵 野鶴

任されて人の器がよくわかり

飛花落下風と遊んで地に還る

合掌の指に感謝の念光る

新型コロナモデルチェンジが早くなり

込み入った話はしない苺パフェ

小野市 田中 辰夫

過疎村に棚田を守る老夫婦

良い天気手術は無事の予感する

取り説は「WEBで見よ」とご親切

俺もほしいこんな友ならドラえもん

じわじわと孫が追い越す背くらべ

三田市 幸田 厚子

アベノマスク封まま眠る薬箱

夕煙古民家宿の竈飯

脱ぎ放し後を追っ掛け二十年

差し芽した鈴生りたわわミニトマト

明珍の風鈴出番夏は其処

三田市 辻 開子

作りすぎポイントカード苦労種

雨不足紫陽花雫見たいけど

孫見てて自分の癖と瓜ふたつ

予定ない早い目覚めがさす二度寝

太字のみ朝夕刊を走り読み

三田市 中山 昭美

身の丈の暮ししたいが丈もない

断捨離に心痛めるものもある

草むしり時間潰しがムキになる

ばあばでも言うよ痛いの飛んでけと

万年筆恋文つづり今遺言

三田市 森 玲子

孫二歳知恵がついたか泣き上手

寝言ふえきつと遊びの夢の中

孫の世話夜中何度も布団かけ

泣きじゃくる孫とばあちゃん根比べ

「おいしそう」孫の一言頑張れる

三田市 馬場 貴美江

独り言応答無しの孤独感

リセットへ一歩前進美容室

自粛中希望の光接種する

友見舞う勇気倍増付度す

耳遠く排尿近い米寿です

宝塚市 太田 としお

守るべき家族があつて強くなる

NHKばかり観ている堅い人

自虐的そんな気がする日本人

コロナでも利益上げてるところがある

どうしても自分自身に甘くなる

宝塚市 岸田 万彩

強かな気配だきつと外来種

とりあえず電話できればよいスマホ

廃業の告知見ぬ日のない通り

哲学者増える気配の自粛中

変異株に見合う変異をせにやならぬ

丹波篠山市 藤井 美智子

コロナ禍に勝つかワクチンためし打つ

またコロナ句会の流れ止められる

今もなお続く振り込め詐欺の怪

視て聴いて卒寿をめざす八十路坂

孫娘ひいばあちゃんにしてくれる

西宮市 高橋 千賀子

はらぺこあおむし蝶になつて空へ

チューハイとカツオがあればパラダイス

待ちわびた春も過ぎれば入梅に

惚けぬよう孫と張り合う謎ゲーム

嵌つてみようかあなたの甘い罠

奈良市 仲 西 賛 郎

オリンピックはまだ「やれ、やめろ」 姦しい

早々梅雨入り真夏の暑さ思いやる

まだ早いのに虎の首位の座気が抜けぬ

久しぶり友の誘いにいそいそと

買い物にまだ自転車に乗って行く

生駒市 児 玉 規 雄

もう傘寿亡父の年までまだ十年

十六の孫に傘寿を自慢する

私も地球の塵の一つです

命ある限りは自分失わぬ

病歴は五指に余るが生きている

奈良県 室 田 行 久

夕方の数字気になる天気より

被害者の笑顔を貰うボランティア

貧乏でも長屋にあった助け合い

神様は敢えて未完の人産んだ

目薬の半分類の保湿液

和歌山市 定 松 宏 枝

食欲がこんなに戻る里の味

幼名で呼び合う友と医者通い

接種日は敢えて神無しスタンバイ

腕枕うでの痺れに君の顔

○×に△付けたアンケート

和歌山市 西 川 千 鶴

昨日まで出来ていた事今日出来ぬ

ワクチンの熱に貰った休息日

小細工が絡み合ってる永田町

脇甘く祭り上げられビエロ役

幸せの一片見つけ千切れ雲

鳥取市 吾 郷 天 遊

不協和音まとめ切れずにいるタクト

青春の夢はシャボン玉の如く

愛と憎ころろの中にある踏み絵

あの頃の若さよシェーンカムバック

日めくりをめくると近くなる冥土

倉吉市 宮 田 風 露

変化するコロナ変化のない私

コーヒーを紙コップでは味気ない

遠い耳内緒が出来ぬ老い仲間

新聞にちよっと貰った豆知識

頑固者一人居るからまとまらぬ

倉吉市 若 松 由 紀 子

歳重ね母にそっくり太い指

金はない腹に贅肉ためている

茶柱が立った独りの朝ごはん

幸せは自分の事が出来る今

百均で小さな夢をかう暮し

米子市 川 本 美津子

ばらの花風呂に浮かべて至福時
ストレスを発散出来るすいか割り
竹を割るそんな性格憧れる
雑草の強さが欲しい喜寿も過ぎ
終活を始めて顔も老けて来た

米子市 妹 能 令位子

年金で今朝の贅沢セブンカフェ
野菜にはグルメの舌を持ってます
猫にだけ財布が許すグルメ缶
猫ちゃんに芸を仕込んで小半日
うろたえて否定するから図星でしょ

松江市 中 筋 弘 充

小百合さんに似た人も来る泌尿器科
島津亜矢と握手ができたコロナ前
2で割って余りジャンケンする二人
余白まで黒塗りにして出す役所
親孝行する気なかったかぐや姫

出雲市 黒 目 ひでお

受け身より能動的な私生活
不干渉他国の政治気にかかり
バイデンがアクセル踏めば世が回る
島根から未来に向けて植樹祭
大谷の光る活躍二刀流

美作市 岡 本 余 光

転ばない用心もして暮らす古い
ゆっくりと急がず暮らすのが願い
イライラを解す珈琲カステラと
コロナ禍に影響受けぬ酒の量
コロナ禍を西鶴翁は何と書く

広島市 田 桑 恵 子

梅雨寒にうどんが浮かぶ昼メニュー
梅雨晴れ間空気に初夏の匂いあり
青息吐息もう限界と店主泣く
また消えた昭和が残る喫茶店
父の日のお酒早々届いてる

広島市 松 尾 信 彦

ローギアが自分らしいとマイウェイ
歳月が過去を美化して傷隠す
古日記夢も希望もそのまんま
ざっくりと生きた結果の風まかせ
不自由のもとで簡素化自然流

尾道市 小 川 道 子

新しい朝の光にあるパワー
基本からはみ出すキミの暮らし向き
長寿国さみしい人の吹きだまり
一切合切うばう悲劇だ戦争だ
露骨より言わぬが花の信用度

福岡県 本田 さくら

沖縄県 宮 すみれ

世はコロナそれでも花は裏切らぬ

コロナのせい息子倒産職さがし

散歩せよ医者は言うけど「あしたから」

「おかえり」と言えどこたえぬ何かある

唐津市 前田 廣幸

連休はコロナにとってゴールデン

ネットでの問いはことばのジエスチャーで

ジオラマの如く春山汽車ポッポ

コロナ禍もオオタニ選手の遠花火

宮崎県 恵利 菊江

流木に腰かけて見る初夏の海

味噌汁のうまさに笑顔足しておく

休耕の田畑に虫が居候

降る雨に紛れて蛙自己主張

沖縄県 あら さくら

気まぐれの天気予報に傘パッパ

よく寝たとエンジン吹かし立ち上がる

こぶし上げ免疫アップいちにさん

恋人として逢いたいな来世は

沖縄県 禱 モモト

幼児の残したおかず母の分

レジ係覚えてくれたマスク顔

花の香に蝶や蜜蜂飛び回り

川柳を友のお棺に別れ告げ

筋トレに三疊狭しヨガボール

ラジオ聞き作句出来ない二刀流

コロナ禍で赤字黒字の決算書

しんどいよワクチン急ぐ高齢者

白河市 鈴木 たけし

分譲地進み蛙も遠く鳴く

隣保にも一人住まいが増えてきた

緊急報客のケータイみな騒ぐ

休校へ一人っきりの卒業式

富士見市 中島 通則

巣ごもりで僕のお腹もりバウンド

ワクチン打って母は元気に百二歳

座ったら覚悟を決める齒科の椅子

やれば出来るはやらない人の言い逃れ

横浜 巖田 かず枝

遠い夏泳いだ後のおにぎりよ

雨の日の孫のラインを待つ夫

腰痛くなっても好きな草むしり

コロナ禍にサギが元気に飛び回り

南アルプス市 小林 金剛

魔神とも貌とも言われ人となる

この苦こそ神の授けたパズルです

視線なぞ私の肩に止まらせろ

世の謎に仁王しばしば病んでいる

岐阜県 喜多村 正 儀

八幡市 武 田 悦 寛

雨の日はあめの匂いの服を着る
日めくりは嫌いめくれぬ日がたまる

欲深い街で迷子になる初心
隠れ住む仏を探し出す影師

静岡市 渡 辺 芳 子

大自然流れのままをさからわず
何も彼も受け入れて生き幸せに

山の中小さき滝あり一休み
清水市は山あり海あり気候よし

名古屋市 富 田 末 男

母さんの答の中に愛が見え
気配りで途中話しをチェンジする

力抜くことも考え本気出す
放物線期待している外野席

江南市 脇 田 雅 美

台本を見ずトップの意思で答弁を
あちこちと年取ることに痛み来る

国民を守り守って当たり前
本心は言わない空気読めるまで

豊橋市 西 郷 紀美代

寝る前は蹴蹴くものを片づける
誕生日当てにされてる軍資金

農婦だとわかってしまう手の日焼け
出る腹がエアロバイクで形変え

お裾分け満天の星過疎の村

いい人ね言われたいけど無理しない

ストレスの2つや3つしゃばん玉

電線の影すがりつく夏の道

大阪市 大 沢 のり子

学らんのボタンひとつの恋がある
娘が焼いたシフォンケーキの恋の味

心配は無用くらしは身の丈で
あと少しの我慢ひかりが見えてます

大阪市 尾 崎 文 子

人減らし会社の敷地草だらけ
オリンピック見栄ばかりでやるらしい

辞書の角少し貫禄ついてきた
ITをすいすい使う娘のそばに

大阪市 折 田 昭 子

空にして詰めなおしたい脳の中
あといくつ歳の残りを覗きたい

から元氣出して歩けば元氣でる
今更に生活の知恵子に学ぶ

大阪市 中 村 民 子

白シャツが似合う青春真っ盛り
思い込み一人で不安抱え込む

補聴器で会話が弾む快い
泣き所女房に突かれ脂汗

大阪市 前川 善之

人は皆苦痛あつての生きる道

老人も健康一番明日の朝

健康に散歩一番一万歩

今の世も老いを遅らす五七五

大阪市 宮本 千恵子

巢作りか鳥が宅る庭簾

尾身会長の真摯な言葉伝わった

ほど遠い断捨離の道日が暮れる

ワクチン予約心の重荷軽くなる

河内長野市 穂口 正子

川柳があつて耐えてる異常事態

夫婦喧嘩互いに晴らすコロナうつ

孫の祝い続き家計が音を上げる

同じ道行きと帰りで別世界

堺市 古川 光雄

盤寿まで生きた次は米寿待つ

コロナ来て日本モタモタ二等国

ユーモアも過ぎればいやなおちよくりだ

ステイホーム続いてお尻しびれてる

高槻市 三谷 白黒

人類は満腹知らぬ生物だ

一緒だと夫婦喧嘩も多くなり

健康は食べて動いて寝ることだ

昼寝して早朝夕方畑仕事

寝屋川市 廣田 和織

コロナ鬱ふわりふわりと生きる日々

おばちゃんに黙食せよというイジメ

白髪染めやめて外出自粛する

マスク越し笑顔が上手く作れない

羽曳野市 黒木 ひとみ

山で飲むコーヒー一杯命延び

新緑の色彩やかに山肥える

水田で機械働く米作り

接種終えコロナの恐怖薄れゆく

豊中市 荒木 郁子

初物のチェリーに和む古い二人

巣ごもりに気力失い暮らす日々

お互いにひと頑張りと言いきかせ

巣ごもりに冷凍物が幅きかす

八尾市 田邊 浩三

笑顔だなマスクしてても素敵だな

腰痛が守ってくれた外出令

さざ波が思わぬところで大波に

三人では密では無いと缶ビール

大阪府 大浦 福子

コロナ禍も棚田に蛙ラブコール

身心の老化アップの自粛中

ジェラシーが沈む心に活入れる

ねんごろにじっくり焼くはレアな恋

大阪府 奥野健一郎

そうだねと言えず反論してる老い

断髪式終えた力士の若い顔

切札は見せるとみせて見せぬもの

渓谷の風もごちそう夏料理

神戸市 青山ひろし

アスリート時に井の中恋しくて

多機能のトイレにすくむお年寄り

捨てきれず筆筒の奥に居るビキニ

兆の上あるのか辞書を引いてみる

神戸市 石川克美

玉手箱開けた太郎の気分です

要りません要りませんもう歳なんて

何となく過ぎゆく日々の速いこと

アレやコレ年をとらねば解るまい

神戸市 櫻井崇史

赤ワインカレーにうまく隠れてる

おにぎりがいつもウドンのお供する

救急のサイレン耳が追いかける

朝顔が夏の足音知らせてる

芦屋市 新阜義明

暇つぶしスマホのお陰事欠かず

百は無理なまな損人生を

値切れないあの顔見たら分かります

そろそろかマスク残数数えてる

尼崎市 宗和夫

我慢の限界妻にも私にも

いくつになっても妻には実家あり

巣ごもりは差しつ差されつ夫婦酒

総理の品格昔はあったよね

伊丹市 岡村風琴

耳だけは不思議にいつも凝りません

大声で歌ったらモヤさつと晴れ

だからなにさと小石を蹴って見る

天窓へ今朝の光があふれ出る

伊丹市 平井富夫

ワクチンを打った腕だけ大丈夫

ふと浮かぶ五七五と指を折る

買物へいつも同じの造り買う

宮参り婆ちゃん今日はハリキッて

三田市 生田えい子

嫁ぎ先慣れぬ私に温い義母

タクシー乗り豆腐一丁母が行く

ちゃんづけで叱られている犬と猫

ドアチャイム息を殺して覗く穴

三田市 稲角優子

胎動は神が奏でるコンチエルト

古傷にふれずにそつと傘をさす

恙ない暮しときどきかがり縫い

鉛筆をけずれば匂う郷の森

丹波篠山市 澤 良子

庭の花それぞれ咲かせ巡る季節

梅シロップ飲んで夏バテ吹き飛ばす

留守の間畑のエンドウ食べる猿

夫婦仲たまのお出かけ潤滑油

丹波篠山市 横溝 安子

仏壇の夫にグチを言っている

足痛め電話鳴つても出られない

コロナさえなければ旅に出る季節

傘寿だよピンクの服を着る勇氣

西宮市 高瀬 照枝

風邪引いてきびしい祖母の粥する

警察に世話にはなるな祖母ことば

道の草強い気持で根を伸ばす

今日の無事心からです ありがとう

三木市 山口 ヨシエ

コロナ禍に負けてならじと拳上げ

何事もなかったように季は巡る

思考ゼロアフターコロナ待ちわびる

東山魁夷の青に埋もれる

奈良市 東 定生

ふる里の香りが届く一番茶

今宵また呂律回らぬ縄のれん

飛び立つと振り返らない渡り鳥

燃費悪し食べても痩せる高齢者

奈良市 尾畑 なを江

おばあさん知恵袋出し孫の世話

梅雨晴れ間洗濯物が手にあふれ

後悔が追いかけて来るベッドまで

実を付けぬ柿の木今年目かくしに

和歌山市 北原 昭枝

ほおずきのあかい実熟れて孟蘭盆会

コロナ禍で行けぬふるさと墓参り

盆おどり夜なべでゆかた縫った母

揚羽蝶ちよつと知らせにやってくる

和歌山市 倉橋 悦子

終息を祈る最初に何しよう

日々読書楽しんでるまだ自粛

面倒見良すぎて粹なお節介

マスク越しうつされました大欠伸

和歌山市 佐藤 まき

アララとこりり尻餅踏ん張れぬ

スクワット泥縄式で直ぐばてる

登山家の勧めるサブリ気には掛かる

籠る日の多いCM迷わせる

和歌山市 鍋嶋 澄子

すずらの陣地へ紫蘭サバイバル

歌にダンス世界へひびくロックフェス

心折れ初夏の青空眩しくて

ていねいに作ったギョウザ娘から

和歌山市 福島 一雄

アマリス可愛さよりも美しい
早々とワクチン打って日本晴れ
過去のこと思い出すたびVサイン
川柳を一句読むたびボケ予防

岩出市 村中悦男

肅々と高齢の日々あなどらず
マスクをはずしつつじの庭の深呼吸
ブコブコとマスクが動き目が光る
それ程にうまいものかと見るテレビ

和歌山県 三枝 眞智子

ボンボンボン菌切れの良さに救われる
ローカル線馴染みの顔が姦しい
生き方を今こそ見つめ直す時
太陽は神だと思ふシャボン玉

和歌山県 森下 よりこ

魅力的だった「古畑任三郎」
家までの坂はアシスト自転車
親の歳越えて先祖の供養する
私流に行くしかないと知る老後

鳥取市 上山 一平

体感を去年に問いかけ梅雨の入り
梅雨空に雨傘ほしいトマト果実
砂まみれ白く磨いてラッキョ漬
大砂丘素足でびびる八十の夏

鳥取市 山野 すみれ

目の前を時はスピード上げて行き
今は夏桜の事はもう忘れ
本当の自分はどこに居るのやら
幸せと心配いつも半分こ

倉吉市 大羽 雄大

抜菌するコロナマスクがありがたい
終活の仕方人から書物から
お互いが忘れておれば喧嘩なし
立場上今はちよつとと茶をにごす

倉吉市 堀 かずこ

杖二本人の目なんて気にしない
蛍火がひと夜の命ありがとう
忘れてた歩けなくても歌がある
プロ野球いつになったら笛太鼓

境港市 中井 虎尾

年寄りの年金さげて医費をあけ
一人居て声はかすれて唄はさび
老婦人よく見りやなんとほれた女
辛党が菓子のうまさを評価する

境港市 藤原 久直

生きる術心は広く開けて居る
幸せを包んでくれた母の愛
絶好調今日も快便ありました
楽な道選び過ぎたか良くこける

鳥取県 下田 茂登子

松江市 山根 邦代

マスクして誰が誰やら見えて来ぬ
今一度旅に出たいと亡夫に告げ
お隣りも何かあったか息子の車
父母の墓何年行っていないやら

意地張つてゐる訳じゃないが我慢です
老々を朗々にかえ友やさし
じっくりと向き合えばいい案に合う
コロナには心安まる時はない

鳥取県 田中 重忠

雲南市 永見 安子

九十四歳主治医が誉める骨密度
老骨の人生だから味がある
リースした晴れ着に落ちた鳥の糞
菖蒲湯に浸り老骨に活いれる

負うた孫今はスマホを教えられ
元気でぬ友の声すら遠のいて
老夫婦ドリンクだけの冷蔵庫
若き日の自信の体どこへやら

鳥取県 橋谷 静江

安来市 原 徳利

時々自分を誉めて暮してる
ちぐはぐな話になった老い二人
穏やかな老いを生き抜く夢を持つ
順調に暮せる日々を待つ我が家

果籠りのジャージのゴムの大欠伸
梅雨入りを歌って聴かす雨蛙
手刀を切ってATM操作
濃密なキスに満足薔薇と蝶

鳥取県 本庄 汪

瀬戸内市 宮宅 比佐恵

ほどほどの意味を忘れてすすむ酒
暑すぎる冬が恋しいあまのじやく
同じてつ踏まぬ様にと親心
短くも輝く時が人にある

絵手紙に一気に夏がとんでくる
青い空心の夢は無量大
ワクチンを待つてるスベアない命
のみ忘れゴミ箱さがし安堵する

松江市 相見 柳歩

津山市 高橋 由紀女

情熱の風を贈って励まして
諦めず夢のまた夢追いかける
立ちあがる天からちゃんと見ていてね
人並みであれば幸せなのですか

十億屯も海洋ごみを積もらせぬ
ひと眠りしたら思案の逆戻り
ただ一つ詠めぬ言葉を探索する
鬼灯も柿も我が家の守り神

広島市 常 國 喜 好

府中市 岸 田 武

百歳の笑顔に学ぶ生きる術
風船がしほんだような老いふたり
手つかずの幕が上がっていく舞台
平凡を生きても芯はくずさない

尾道市 小 畑 宣 之

我傘寿コロナに負けてなるものか
大臣や知事の力量問うコロナ
場の空気読む人まるで読まぬ人
入社式椅子取りゲームの始まりだ

尾道市 村 上 和 子

三密を謳歌している庭雀
コロナにサブリ与えるような国の策
接種終えひと安心の旨いお茶
締め切りが迫ってや々と急ピッチ

竹原市 若 年 幸 子

魔除けの保険まさかの福の神
梅雨しとどアジサイにある物思い
潮騒へ裸足駆けたい杖と靴
人恋し夜明け待ってる杜鵑

竹原市 土 井 輝 恵

趣味の会コロナ休みが続いてる
アジサイが笑顔をくれた誕生日
身長が下降腹囲は上昇
私もいく道だろう認知症

ほどほどの自粛はクスリかも知れぬ

こみ入った話にマスク寄ってくる

二枚目が隠し通した私生活

後列で義理の拍手をせずにすむ

阿南市 小 畑 定 弘

後期です犬を飼うのを止めました

追伸におまけのような褒め言葉

無観客どうなりますのオモテナシ

補聴器が聞いてしまった嫌なこと

松山市 大 内 せつ子

順番を守って消える波の花

引き返そうかまだ点線にいるうちに

点描の自画像やけに温かい

すべり台の角度ゆるくゆるくゆるく

松山市 郷 田 み や

忘れ物一つとタンポポの綿毛

虎の尾を踏む片足がまだ出ない

もやもやの空気漂う会議室

切り替えは得意なんですピザを焼く

大洲市 花 岡 順 子

人間の自粛へ野生町に出る

法螺を吹く時は視線を合わさない

プライドが戻るどん底でも笑う

誹風柳多留二三篇研究 12

小栗清吾・細井龍夫

伊吹和男・高野範雄

山田昭夫

清 博 美

91 なんだなどかべ士はたきくよみ

小栗 漢の景帝の時、魯の恭王が孔子の旧宅を取り壊したところ、壁中から多くの古文書（古文尚書）が出てきたとされる話を詠んだ類句多数の一。川柳ではもっぱら左官が首を捻りながら読んでいることになっている。

なんだかと左官ろんごをめつけ出し

一〇六

清 賛 よめねへ本か出やしたと左官いひ 拾五九

92 きやうさんにはつかりけくわハおこされる

小栗 外科医は、いつも仰山に（大げさに）起こされるといのである。突然の怪我など

の急患が多いからだろう。

外科の戸ハせハしく斗りた、かれる

三三

細井 賛。多量の出血で大騒ぎ。

清 賛。

93 つき出しをおじやうさまたとたれかい、

小栗 突き出しは、遊里語。禿からでなく、素人女（い）きなり女郎となった者。また、初めて女郎として客を取る者（「江」）。

吉原の張見世に出ている突き出しを見て、見物の中の誰かが「あれはお嬢様だ」と言ったのである。例えば、旗本のお不勝手のために娘が身売りして見世に出たところを、以前に奉公していた下男が見つけたとい

うようなケースを想定すればいいのであるう。

つき出しのおやハ人參たんのミ

明三礼2

細井 賛。雨譚註では「よい衆の娘」となっている。

高野 賛。②として堅苦しさが取れず、緊張した姿勢で座っているのがよい衆の娘に見えるという解釈はないでしょうか。

山田 右説賛。この突出しは禿立でなく素人上りの突出しで、すれていないから、そのように見えるのでしょうか。

清 同。女郎としては初々しい。まるでどこかのお嬢様のようなだ！。旗本などの御不勝手により娘が身売り、それが俄に突出しで、というのに現実味が感じられないのだが。フィクションではあるが。

小栗（再説）成る程、そういう解もありたちますね。それに比べると礎解は少しストーリーに過ぎる気もします。

ただ、情景を考えるに、格子に群がっている大勢の見物人の中で、誰か後ろの方から「あつ、お嬢様だ！」とすつとんきような声を出した、という方が、「誰か」が生きる気がします。下五が「皆な言い」とかなっているれば、「誰れの目にもそうみえるね」という

ことになるが、「誰か言い」では、見立てに
ならない気がします。

94 後家のおしきせもりそだてますといひ

小栗 お仕着せは、「お仕着せ台詞」の略。
決まり文句（日）。

後家は決まり文句として「残されたこの子
を私が立派に守り育てます」と言うというこ
と。それだけの句だが「お仕着せ」と表現し
たあたりが少々臭い。表向きはそうは言うけ
れど、それだけが生き甲斐というわけにもい
くまいというニュアンスを鑑賞すべきか。

若後家のふしやう／＼に子にまよひ 初33

伊吹 賛。言う言葉は皆同じだが、心情は人
それぞれ。

高野 賛。川柳の世界はそういうことなんで
しょうね。

清 賛。

95 北くてきのために遊里にとらハれる

小栗 ご承知の通り、吉原はその所在地から
北国・北里などといわれたが、また、「東夷・
南蛮・西戎・北狄」になぞらえて、「北狄」（北
方の野蛮人）とも表現されることがあった（東

夷＝深川、南蛮＝品川、西戎＝新宿）。

主題句は、息子が吉原に嵌りきつてい
ることを斯く表現したもの。ただ、「遊里」に
「^{あや}美里」を通じさせたところが技巧かもしれ
ない。「美里」は「日国」に、「（中国、殷代
の地名で、周の文王が一時紂のためにここに
幽閉されたところから）獄舎。牢獄。」とあり、
「遊里（美里）に囚われる」で、一つの趣向
とはなる。ただ、それを狙ったとすれば、「遊
里」ではなく「ゆふ里」とするべきところだ
から、あまり拘らなくてもいいのかもしれない。

北国のゆふ里にむす子とらわれる 九42
むつかしむす子美里にとらわれる

傍一44

伊吹 賛。美里にまで考えが至りませんでし
た。

高野 中国故事をふまえてに賛ですが、囚わ
れるの解釈に「桶ふせ」の刑に遭っている息
子と解したい。

山田 礎賛。「桶ふせ」までは考えない。

清 「文句取辞典」には「遊里に捕らわれる」
で立項し、「史記」を援用、と記しておきま
した。

「桶ふせ」は関係なし。

96 物さしで二ツぶたれる迄くどき

小栗 裁縫をしている女性を口説く男。し
つつこすぎて、ついに物差しで二つほど叩か
れる羽目になる。

ものさしでふたれた上にたごんされ

安六桜1

清 賛。その位の押しでないと、女性はなか
く「ウン」とは言わない。

97 くねへひつuitをじしうもきはなし

小栗 くねは、くね垣の略。垣根。生垣（江）。

高師直横恋慕の句。「太平記」（巻第二十一

塩冶判官讒死の事）によれば、塩冶判官の

妻に横恋慕したものの思うようにいかない高
師直が、仲立ちをした侍従局を脅したりする

ので、困った侍従局が妻の湯上がりのスツピ
ンを見せて諦めさせようと計画、侍従の手引
きで師直が「垣の隙よりうかがえば」という

場面。予期に反して師直がますます逆上して

見とれているので、心配になった侍従局が「師
直が袖を引きて」連れ戻すことになる。

遙拝をさせて侍従ハもてあまし

清 賛。

愛染帖

新家 完司 選

(投句270名)

権原市 居谷真理子

七十年いぶりがつこの味になる

(評)秋田名産の「いぶりがっこ」は燻製乾燥させた漬け物。嘔むほどに香ばしい旨味が出てくる。燻製風味の老骨を指さそう！

神戸市 上田 和宏

まめにお茶まめにトイレが夏仕事

(評)熱中症対策としては「喉の渴きを感じなくともこまめに水分補給すること」が大切。トイレ通いが増えるぐらいはガマンだ。

大阪市 柴本ばつは

動物は好きになるより好かれよう

(評)強引に「好き！」を押しつけても迷惑になるだけ。そつと好意を示すと受け入れてくれる。人間関係にも当てはまりそう。

神戸市 山口 光久

着飾ればまだまいける自己暗示

(評)「どうせ何を着ても一緒……」等と自信を失くしては益々老けるだけ。チャンとしたものを着こなせばまだまだイケル！

大阪市 大川 桃花

蕨薙ゼリーより慎重にお吸い物

(評)喉を詰まらせて窒息する恐れのある蕨薙ゼリーは要注意。だが、誤嚥性肺炎で死ぬこともある「お吸い物」はより慎重に！

池田市 太田 省三

登校の列が過ぎれば過疎の路地

(評)登校する子どもたちの賑やかな声が行き過ぎると猫がアクビをしている静かな路地。その子どもたちも年毎に減少している。

東京都 川本真理子

小さな子小さい傘でしのぐ雨

(評)お父さんお母さんが守ってくれるのは傘を差せない幼児の間だけ。これからは自分の傘で凌いで行かなければならないのだ。

鳥取市 岸本 宏章

戦力は二流でいいよ自衛隊

(評)核戦争が起これば地球が壊滅する時代に戦力などナンセンス。ワクチン接種で発揮した平和パワーで世界に貢献してほしい。

大阪市 小野 雅美

盗撮のスマホないかと振り返る

(評)階段やエスカレーターの下からスカートの中を盗撮する不埒な奴等。逮捕のニュースを見るたび「またアホが……」と思う。

豊中市 齋藤奈津子

消毒液ハエが擦り擦りするように

(評)何処の入り口にも置いてある感染予防

の消毒液。付けた後に両の掌をスリスリする姿はまさに「ハエのすりすり」である。

松山市 栗田 忠士

タケノコは生で貰うと一苦勞

米子市 妹能令位子

茹でである筈ならば貰います

富士見市 中島 通則

万歩計三千歩では不満そう

河内長野市 大島ともこ

不器用だがいつもベダルは漕いでいる

羽曳野市 吉村久仁雄

食事療法酒がつくなら続けるが

香芝市 山下 純子

娘のグチ聞かされ歳を五つとる

高槻市 片山かずお

寝過ぎたらアホになるよと起こされる

鳥取市 田賀八千代

充電中孫がドタバタやって来た

藤井寺市 鈴木いさお

じいじじゃなくグランパと呼べ孫達よ

八王子市 川名 洋子

次の世はセレブに生まれ月に住む

米子市 後藤 宏之

名前忘れたがなんとかごまかした

貝塚市 吉道あかね

五年後はやはり老ける免許証

土佐清水市 辻内 次根

エイエイオー朝は闘牛士のマンボ

佐賀県 真島久美子
父さんが遺した固定資産税

大阪府 坂 裕之
表札に人柄にじむ楷書体

弘前市 小山内真由美
六月の雨ひとりの時間とらげる

川西市 山口 不動
おはようと園児に言われうろたえる

鳥取県 斉尾くにこ
鬱の字にすこし余白が足りません

三田市 北野 哲男
卒寿から弔吟捧ぐこと三度

尼崎市長 清水久美子
バックカスが無聊の胸をノックする

トイレットペーパーがすぐに減る家ごもり
鳥取か鳥根にしますお取り寄せ

鳥取市 副井ゆたか
内視鏡私の過去を精査する

果ごもりで交際減ってちよい黒字
大阪府 谷口 義

玉の奥に乗るはずだったおばあさん
角力ある日は献立がすぐ決まり

三原市 鴨田 昭紀
前置きが長いお金の無心だな

ハングリーで育った起き上がり小法師
道訊けば「百坂」の読み教えられ

岡山県 藤澤 照代
大好きなアボカドの種大きすぎ

米子市 竹村紀の治
長穴になっても耐えているベルト

香芝市 大内 朝子
おだやかに蟹穴主義で生きてます

香南市 桑名 孝雄
自己主張強い徒長枝から切除

大阪府 島田 明美
トマト大好きトマトジュースは大嫌い

弘前市 稲見 則彦
夏の夜の津軽火祭りねぶたなく

大阪府 宇都満知子
葱生姜オクラもいいね冷や奴

青森県 月波 与生
広島にこだわる焼酎のレモン

ラジオ体操逆からやってボケ防止
忘れぬよう宴会芸をテレワーク

大阪府 平井美智子
とりあえず乾杯という妥協案

半額の寿司半額の味がする
大阪府 江島谷勝弘

マイカーが電柱擦る喜寿の腕
金持ちになった子は一人もおらず

岡山市 大石 洋子
通販に好みはこれと決められる

果ごもりに段ボール箱よくたまる
住んでいるのに土地売れとは何事

堺市 奥 時雄
不要品高く買うとはご奇特な

大阪府 高杉 千歩
地中海八回 自慢話になる止める

無為無策施設に馴れて九十五
ハイハイと機械の声に逆らわず

尼崎市長 山田 耕治
このドラマ見ていないのか電話鳴る

三木市 山口ヨシエ
無印で大手を振ってただ歩く

松江市 石橋 芳山
自由ってこれかあ独りで過ごす夜

松山市 大内せつ子
針の穴から覗けばみんな罪深い

弘前市 高瀬 霜石
ゴミ屋敷淋しい人が住んでいる

鳥取市 山野すみれ
カラスって中身は黒でないらしい

熊本市 杉野 羅天
大自然剛力彩芽発芽する

神戸市 富永 恭子
収穫のお手伝いならまだできる

大阪府 石田 孝純
安心の老後をネット予約する

倉吉市 岡崎美知江
元気だね私の鮮度皮肉られ

大阪府 藤田 武人
博文も重信もみな偽に見え

神戸市 米田利恵子
ライバルが笑顔で追い抜いて行つた

川柳が前頭葉を刺激する
米子市 池田 美穂

雨の日は雨の詩を詠むトタン屋根
大洲市 花岡 順子

巢籠もりで無気力作句あきまへん
箕面市 広島 巴子

入院中雑詠一句詠めぬまま
大阪市 井丸 昌紀

継続の力が分かる十年目
防府市 坂本 加代

分らないどうでもいいや難解句
大阪市 平賀 国和

螺子捲かれ休み損ねた古時計
岡山市 田中 恵

童謡に夢をもらっていた世代
神戸市 奥澤洋次郎

エミちゃんは今もエミちゃん八十歳
西宮市 福島 弘子

イライラがつのるシャープがよく折れる
大阪市 高杉 力

歳月に鍛えられてる強情つ張り
黒石市 石澤はる子

痒いとこ嘴届いたかい雀くん
京都市 都倉 求芽

走っては駄目ペースメーカー指図する
長岡京市 山田 葉子

お願いと主夫押しつけて食事会
河内長野市 村上 直樹

食欲をもぐらたたきのダイエット
笠岡市 藤井 智史

太陽と仲良し骨密度は自信
大阪市 古今堂蕉子

真夏日に除草剤まき墓掃除
鳥取県 竹信 照彦

食守れちちははからのメッセージ
大阪市 内田志津子

大層な活かす殺すと開基仲間
美作市 岡本 余光

門を掃く隣の前もちよつと掃く
神戸市 みぎわはな

ベチュニアの鉢植え済ませ冷や奴
豊中市 水野 黒兎

失恋の話でなぜか盛り上がる
高槻市 島田千鶴子

マンゴーの種子鉢植えに挑戦す
鳥取市 上山 一平

遺産なく生きた証は子三人
岡山市 高岡 茂子

特売日いつもの顔が並んでる
豊中市 上出 修

クラス会青い欠片を拾い合う
米子市 後藤美恵子

本物になるまで力溜めておく
名古屋市長古屋市 富田 末男

湯上りにひととき伸びる顔の皺
箕面市 酒井 紀華

4Kだろか胃カメラの綺麗すぎ
男鹿市 伊藤のぶよし

聞こえない振りも上手になりました
桜井市 安土 理恵

地下道の庇で騒ぐ燕の子
枚方市 丹後屋 肇

むかしむかし蚊帳の中にもホタル舞い
米子市 野川 宣子

お蔭さま乗ったことない救急車
南あわじ市 萩原 狸月

証人台ど忘れをした人ばかり
藤井寺市 太田扶美代

大山をよいしょしている撫林
岡山市 丹下 凱夫

父の日を忘れぬように二重丸
大阪市 田中ゆみ子

インスピレーションつるりソーマン食べるとき
生駒市 饗庭 風鈴

何処からか麦茶の香り夏が来た
大阪市 阪井 恵子

湯むきたしたトマト気品をただよわす
松山市 柳田かおる

指示されてもポーズがとれぬレントゲン
橋本市 石田 隆彦

今年こそ本物であれタイガース
鳥取市 永原 昌鼓

大阪はトラ嫌いには住みにくい
宝塚市 岸田 万彩

西予市 黒田 茂代

三十年使い細身になった出刃
河内長野市 梶原 弘光

地下街に方向音痴試される
大阪市 森 廣子

目薬が口まで流れ妙な味
三田市 堀 正和

今週の外出予定散髪屋
宮崎県 恵利 菊江

野良猫も態度で示す好き嫌い
伊丹市 延寿庵野鶴

泣き言を一切いわぬ土踏ます
大阪市 折田 昭子

愚痴小言飲み込みすぎて過食症
島取市 山下 凱柳

高齢者置いてきばりのデジタル化
島取市 田中 天翔

デジタル化石となったブリタニカ
枚方市 谷 英也

世間なみスマホ中毒八十路です
丹波篠山市 酒井 健二

お付き合い気楽になった家族葬
寝屋川市 長尾 千賀

姑の留守優曇華の花笑う
大阪市 東 敏郎

雨漏りの音は我が家の子守歌
松江市 中筋 弘充

無理すればMが着られる試着室

越谷市 久保田千代

シャワーの如くコロナのニュース浴びている
朝霞市 前田 洋子

巣ごもりに必須ネコとビールと本
羽曳野市 徳山みつこ

巣ごもりを癒すミミズに団子虫
塩竈市 木田比呂朗

巣ごもり後ヘルスメーター新品に
和歌山市 柏原 夕胡

巣ごもりのせいでサイズになった
大阪市 今村 和夫

ウイルスは見えればもつと怖ろしい
松山市 郷田 みや

ワクチンの話題で朝のゴミ置場
尼崎市 宗 和夫

秋までの辛抱だよと接種受け
富田林市 中村 恵

流行りものの好きでワクチン打ちました
寝屋川市 伊達 郁夫

ワクチン二回目持病も完治した気分
豊中市 池田 純子

マスク越し顔半分のお付き合い
大阪市 枋尾 奏子

おりひめのマスクなかなか新鮮だ
沖繩県 あらさくら

すっぴんでマスクするのが楽になる
尼崎市 藤田 雪菜

別れ際「お気をつけて」が合言葉

札幌市 三浦 強一

休肝日明けてファイトが湧いてくる
鳥取市 谷口回春子

旨い酒汗の向こうで待っている
尼崎市 永田 紀恵

気は合わぬ酒の好みは合う夫婦
大阪市 岩崎 公誠

錆の出た老脳に効く熱い酒
岡山市 永見 心咲

アルコール駄目だが名だけ知る伊蔵
倉吉市 大羽 雄大

認知検バスして今日は酒盛りだ
黒石市 北山まみどり

一杯で酔えるだなんでもつたない
名古屋市 山本三樹夫

家飲みもちよつと足りない酒屋まで
堺市 村上 玄也

酒止めた言うがビールは飲んでる
大阪市 樋口 眞

おいしいなあビールに冷酒カルピスも
米子市 成田 雨奇

格差社会ウイスキーにもありありと
豊中市 松尾美智代

十年物のやさしい味の梅酒飲む
豊中市 藤井 則彦

目くばせでいつもの人と三代会
弘前市 福士 慕情

泥酔の足も我が家へ辿りつく

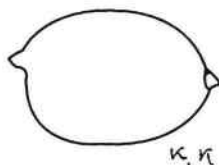
共選欄

檸檬

抄

(薫風書、カットとも)

(投句350名)



「縫う」 石橋 芳山 選

袋縫いしたはずの口はつれだす
闇を縫い螢が乱舞するロマン
カギ裂きを被って隠すアップリケ
油断した隙間をさっと縫っていく
残り布縫い合せした様な服
ミシンさえあればへっちゃらアツパツバ
夏風邪の袋の口を縫いしほる
五針縫う転倒段差一センチ
ほころびを縫う針と糸それに酒
曇ってる鏡を縫って回遊魚
梅地下も人縫うほどの人出なし
返し縫いしても解れてゆく記憶
普通に縫うだけでは効かぬ人と居る
むらさきの日々縫い合わす肥後菖蒲

神戸市 富永 恭子
河内長野市 中島 一彌
羽曳野市 黒木ひとみ
芦屋市 上野多恵子
三田市 北野 哲男
大阪市 津守 柳伸
海南市 小谷 小雪
池田市 倉本 一弥
米子市 竹村紀の治
大阪市 石田 孝純
大阪市 近藤 正
津山市 高橋由紀女
大阪市 岩崎 玲子
神戸市 長川 哲夫

「縫う」 古今堂 蕉子 選

返し縫いかわいげのない女です
マスク縫うついでに口も縫っておく
千人針今は幸せ縫うマスク
本音と嘘あわせ縫いした刺子布
ジーンズの破れは縫わぬ娘の闊歩
村雀の口を縫いたい塞ぎたい
仮縫いもあつた震災後の治療
母という家族の太い仕付け糸
しつけ糸取つてと蝶に囁かれ
縫うて縫うて縫いたおしての今がある
昼寝用布団に刺繍よい夢を
雨が降る縫わんばならん屋根の穴
嫁入りのミシンオブジェになりました
縫い目から機密が漏れるガバナンス

松江市 藤井 寿代
米子市 池田 美穂
奈良県 長谷川 崇明
大阪市 折田 昭子
弘前市 福士 慕情
鳥取県 田中 重忠
丹波篠山市 酒井 健二
寝屋川市 廣田 和織
香南市 桑名 孝雄
大阪市 岩崎 玲子
吹田市 岩口のぞみ
生駒市 饗庭 風鈴
米子市 妹尾令位子
今治市 永井 松柏

手術跡こんなに腹を切ったのか
 山裾を縫う私一人の田舎バス
 やもめには辛くてできぬ針仕事
 人混みを縫って助走を繰り返す
 大空にパッチワークのうろこ雲
 縫う様に追い越して行く高級車
 傷口を縫うのは温かい言葉
 縫いしろが浅くほつれやすい私
 つぎはぎの堪忍袋穴があく
 口縫っておけと夫の独り言
 人混みを縫う時息を止めてます
 父さんが縫ったゼッケン風に舞う
 断ち切った筈の未練を縫い合わせる
 縫い目から機密が漏れるガバナンス
 どの糸で縫おうか倦怠期の破れ
 県境を縫うようにして小旅行
 病いづけ切る縫うだけはせぬつもり
 傷口を縫ってくださいとお月さま
 まだ途中前半戦は縫いぐるみ
 誰よりも目立つようにとマスク縫う
 ホッチキス縫うより早い外科手術
 軽そうに言われる盲腸の縫い目

伊丹市	平井 富夫
大阪市	津村志華子
堺市	奥 時雄
米子市	中原 章子
尼崎市	藤井 宏造
大阪府	高木 道子
黒石市	北山まみどり
香芝市	山下 純子
生駒市	饗庭 風鈴
大阪市	横山 里子
奈良県	安福 和夫
広島市	羽城 裕子
大阪市	岡田 恵子
今治市	永井 松柏
鳥取市	倉益 一瑤
鳥取市	副井ゆたか
奈良県	中堀 優
弘前市	高瀬 霜石
鳥取県	斉尾くにこ
豊中市	貝塚 正子
横浜市	加藤 佳子
大山市	関本かつ子

山裾を縫う私一人の田舎バス
 真四角のあなたまあるく縫いましよう
 運針も自信崩壊する八十路
 縫い跡がきれいきれいと言う外科医
 縫い針出土縄文人が好きになる
 初孫に夢を縫い込むアップリケ
 ほころびを縫う針と糸それに酒
 手術跡こんなに腹を切ったのか
 縫合の傷痒くなり治癒はそこ
 人波を縫えば地獄に辿りつく
 疫病は気の間隙を縫うて来る
 空に星間縫を縫うてとぶ蛭
 ダメージパンツ綻び縫って叱られる
 人波を縫ってスマホの闊歩する
 ゆつたりの縫い代残し孫に着せ
 綻びた笑い袋を返し縫い
 口縫っておけと夫の独り言
 忙中の合間を縫うてする浮気
 プライドも隠すかのような機微を縫う
 若葉マークヘアピンカーブ手に力
 千人針縫った時代に戻さない
 独り居を和ます蛭間を縫う

大阪市	津村志華子
松山市	大内せつ子
高砂市	松尾柳石子
大阪市	島田 明美
橿原市	居谷真理子
堺市	内藤 憲彦
米子市	竹村紀の治
伊丹市	平井 富夫
羽曳野市	藤原 大子
富山市	伴 よしお
三田市	馬場貴美江
大阪府	米澤 俣子
倉吉市	牧野 芳光
貝塚市	石田ひろ子
大阪市	岩崎 公誠
羽曳野市	徳山みつこ
大阪市	横山 里子
三原市	鴨田 昭紀
広島市	松尾 信彦
大阪市	磯島福貴子
札幌市	小沢 淳
米子市	後藤美恵子

アナタって仮縫いだから興味わく
縫うように今朝のコラムを斜め読み
綻びた笑い袋を縫っている

仮縫いの戦闘服で前線へ
亡父母よ許せ四ヶ所手術跡
バスポート柵の窓に縫いつける

返し縫いかわいげのない女です
ちちんぶいぶい孤独の裂け目縫い合わす
デザインはシンメトリーを指示しない

ゆるキャラが競い合ってるぬいぐるみ
縫い方は知ってる糸が通らない
針持つ手は要らぬITバスポート

縫い合わせた瑕疵がひょこり顔を出す
空に星闇間を縫ってとぶ螢
口を縫うためには足りぬお饅頭

仮縫いじゃないさここまで生きたんだ
切腹の傷は縫わずの辞任劇
五十五年お前と縫ってきた時間

有名なミシンを部屋に飾ってる
飛行機雲一直線に空を縫う
人生の綻びを縫う結跏趺坐

縫い針出土縄文人が好きになる

弘前市 稲見 則彦

鳥取市 加藤 茶人

藤井寺市 鈴木いさお

大阪市 今村 和男

河内長野市 穂口 正子

大阪市 東 敏郎

松江市 藤井 寿代

鳥取県 門村 幸子

広島市 松尾 信彦

高槻市 原 洋志

東大阪市 西村 哲夫

松山市 宮尾みのり

堺市 村上 玄也

大阪府 米澤 俣子

岡山市 工藤千代子

青森県 月波 与生

枚方市 藤田 武人

米子市 成田 雨奇

神戸市 櫻井 崇史

大阪市 阪井 恵子

安米市 原 徳利

榎原市 居谷真理子

断ち切った筈の未練を縫い合わす
人波を縫って探した青い鳥
傷口を縫ったグラスがまだ重い

綻びを縫う口裏を合わせつつ
返し縫いしたのに漏れていた噂
縫い物と料理できぬと妻が言う

大小の波打つ縫い目男針
仮縫いのような人生にも誇り
和裁洋裁平気だったに今この手

果籠もりの刺繍たのしむ鼻メガネ
縫い目からチヨロチヨロ本音漏れてくる
こころの傷縫って欲しくて友と飲む

縫っても縫っても解ける愛の傷
彦星に縫ってあげましょ雨合羽
今日までを語る手首の縫った痕

不揃いの縫い目が語る倦怠期
穴騰り丈上げをして三姉妹
傷口を縫っては恋にまた走る

梅雨晴間木々縫う老母の車椅子
渋滞を縫って粹がるヘルメット
リメイクの縫う手を待っている着物

小さい夢縫い合わせたらでかい夢

大阪市 岡田 恵子

神戸市 能勢 利子

岩国市 上村 夢香

大阪市 近藤 風羅

松山市 柳田かおる

大阪市 奥村 五月

三田市 生田えい子

豊中市 藤井 則彦

大阪市 宮崎シマ子

高槻市 初代 正彦

三田市 堀 正和

大阪市 平賀 国和

尾道市 村上 和子

大阪市 宇都満知子

寝屋川市 長尾 千賀

和歌山市 西川 千鶴

寝屋川市 川本 信子

羽曳野市 吉村久仁雄

鳥根県 伊藤 寿美

大山市 関本かつ子

奈良市 高橋 敬子

高槻市 松岡 篤

ボロ雑巾ですが私が縫いました

縫い目からチヨロチヨロ本音洩れてくる

話すのは堪忍袋縫ってから

裁縫はばあばの出番まかしとき

ちくちくと縫われてるよなバツシング

ばあちゃんのバツチワークが笑えない

マスク縫うついでに口も縫っておく

失恋をザツクリ縫っておきました

九合目ジグザグに縫い頂上へ

雑踏を縫って孤独を紛らわす

今の世のほころびを縫うショータイム

抜け道をもう縫っている核のゴミ

思い出を縫う七色のリリアンで

嫁入りのミシンオブジェになりました

裾上げの時間をつぶす珈琲屋

しっかりと返し縫いする罪な口

お経の合間縫って煩惱燃やして

入院のバジャマにマエと縫っている

忙中の合間を縫ってする浮気

秀句

想いでの裾をバツチワークする

ブローケンハート何針縫ったことだろう

真四角のあなたまあるく縫いましょう

奈良市 大久保真澄

三田市 堀 正和

神戸市 奥澤洋次郎

大阪市 若本 安代

奈良市 加藤江里子

佐賀県 真島久美子

米子市 池田 美穂

阿南市 小畑 定弘

大阪市 樋口 眞

宮崎県 恵利 菊江

豊中市 水野 黒兎

三原市 笹重 耕三

和歌山市 倉橋 悦子

米子市 妹能令位子

大阪市 高杉 力

岡山市 永見 心咲

鳥取市 山野すみれ

大阪市 小野 雅美

三原市 鴨田 昭紀

松山市 柳田かおる

桜井市 安土 理恵

松山市 大内せつ子

夏風邪の袋の口を縫いしほる

台ふきん渦巻に縫う母でした

オリバラの意義ワクチンのまつり縫い

目立たぬよう妻の袂を縫い付ける

綻びにもつたいないを縫うた母

五針縫う転倒段差一センチ

腹巻きに大仏さんの守り札

大空にバツチワークのうろこ雲

いい仕事してると亡母の針の跡

ふるさとが縫い付けてある身上書

バスポート枢の窓に縫いつける

ちちんぶいぶい孤独の裂け目縫い合わす

ちくちくと縫われてるよなバツシング

縫いつけてやりたい孫の減らず口

親父との不仲を縫ってくれた母

抜け道をもう縫っている核のゴミ

わたくしの堪忍袋継ぎだらけ

むらさきの日々縫い合わす肥後菖蒲

三姉妹おぼろの記憶縫い合わす

秀句

愛されている返し縫いされている

ずっとまだ仮縫いのまま私たち

ブローケンハート何針縫うたことだろう

海南市 小谷 小雪

大阪市 大沢のり子

枚方市 藤田 武人

唐津市 坂本 蜂朗

河内長野市 坂野 澄子

池田市 倉本 一弥

奈良県 中堀 優

尼崎市 藤井 宏造

寝屋川市 伊達 郁夫

大阪市 平井美智子

大阪市 東 敏郎

鳥取県 門村 幸子

奈良市 加藤江里子

横浜市 菊地 政勝

堺市 坂上 淳司

三原市 笹重 耕三

弘前市 高瀬 霜石

神戸市 長川 哲夫

奈良県 渡辺 富子

鳥取市 倉益 一瑤

三田市 上田ひとみ

桜井市 安土 理恵

「声」

稲見則彦選

(投句 250名)



アンコール頼んでみたい読経聞く
空耳か小鳥の声が母になる
留守電に残りし母の声を聞く
近く順が違うと祖母の涙声
わだつみの声衍する八月忌
還暦の小田和正に癒される
かすれ声染み入る喜寿の小椋佳
声援と鳴り物ないが強い虎
近付くとビタリと止まる話し声
あぶないよの声にいつしか老いを知る
どなたですマスクの中の含み声
責任は取らぬ評論家の批評
声掛けるとより美しく薔薇は咲く
電話口よそ行き過ぎる妻の声
愛してる言ってくれなきや分らない
いい声と思った時は恋に落ち
良心の声を時々聞き漏らす
君の声聞くただけに生きている
滑舌は歩きながらのアイウエベ
声を出せ誤嚥防止と言う女房

芦屋市 新早 義明
生駒市 饗庭 風鈴
交野市 山野 双葉
大阪府 小野 雅美
奈良市 米田 恭昌
大阪市 江島谷勝弘
大阪市 島田 明美
河内長野市 穂口 正子
尾道市 村上 和子
越谷市 久保田千代
西予市 黒田 茂代
三原市 笹重 耕三
松江市 中筋 弘充
高槻市 松岡 篤
大阪市 高杉 力
橿原市 居谷真理子
土佐清水市 辻内 次根
三田市 上田ひとみ
神戸市 近藤 勝正
米子市 成田 雨奇

無責任声だけかけて知らん顔
ソプラノとバスの喧嘩はいま佳境
国民の声もさざ波なのですね
いつてらっしゃい自販機からのご挨拶
声の出る家電にまたも叱られる
子らの声老いた団地に花が咲く
産声が響いて泳ぐ鯉のぼり
呱呱の声夢を握っている拳
トントンと叩き西瓜の声を聞く
天の声だと気付かず追い払う
ここだけと言うひそひその出す力
飛び切りの美声の次にマイク来る

佳句

背後から終活急かす声がする
喜怒哀楽を毎日に紡ぐ「声」の欄
村中に接種知らせる拡声器
コロナにも言い分がある変異癖
妥協してばかり不織布越しの声

人

地

天

軸

声だつて地にも潜るし空駆ける
ウケイスも音痴が一羽居て楽し
泣き声のかゆいところに母の愛
声色を真似て恩師を偲ぶ会

鳥取市 谷口回春子
富田林市 中村 恵
奈良市 大久保真澄
奈良市 長谷川崇明
青森県 月波 与生
大阪市 平賀 国和
三原市 鴨田 昭紀
弘前市 福士 慕情
松山市 栗田 忠士
岡山市 丹下 凱夫
唐津市 坂本 蜂朗
堺市 奥 時雄

三田市 九村 義徳
豊中市 藤井 則彦
唐津市 山口 高明
弘前市 高瀬 霜石
佐賀県 真島久美子
鳥取県 竹信 照彦

和歌山市 柏原 夕胡
堺市 遠山 唯教

「引く」

倉 益 一 瑤 選
(投句 246名)



天性の笑顔が人を引き寄せる
引くことは攻めることより難しい
開運は引き算よりも足し算で
引き際を失くした鬼の立ち泳ぎ
二本線引いても消せぬ想う人
引き立て役にそろそろ飽きたピエロ
信頼してた妻が突然弓を引く
栄光の過去引きずって頭が高い
後悔がしきり引き金引いてから
失敗を引きずったまま一日終え
我子にも一歩引く娘と二歩出る娘
引き算がとてもし上手な預金帳
一歩引く事を覚えてから大人
外交は国と国とが綱を引く
顎を引け腰が曲がると顎が出る
あの時のあの喝采が引き金に
一線を引いた男の身の軽さ
天引き貯金こつこつとウフフフ
あみだくじ自分で引いた線に泣く
もういやだ百引く七に蹴蹴く

横浜市	菊地	政勝
三原市	鴨田	昭紀
鳥取市	谷口回春子	
大阪市	石田	孝純
池田市	上山	堅坊
藤井寺市	太田扶美代	
鳥取市	山下	凱柳
堺市	村上	玄也
富田林市	中村	恵
鳥取県	山下	節子
堺市	矢倉	五月
鳥取市	岸本	孝子
香芝市	大内	朝子
豊中市	水野	黒兎
鳥取県	竹信	照彦
大阪市	柴本ばつは	
東大阪市	佐々木満作	
尾道市	村上	和子
大阪市	古今堂蕉子	
鳥取市	田中	天翔

引力のせいだ茶碗が割れたのは
引き当てたのはあなた返品できません
大八を引いて鍛えた土性つ骨
食い付いた鯛と掛け引きするリール
鏡拭く昨日へ線を引くように
くす玉を引いて眠れぬ日が続く
引き際を忘れたニッポンの炬心
良い方へいつも向いてるあみだくじ
きのうは「へ」今日は三日月眉を引く
押し引く旬心得ている器
囁いていますドン引きする台詞
男いっぴき引き際を見極める

佳 句

引きずって歩くほかないあれやこれ
間引く手がためらう朝顔の新芽
一瞬の静寂そして引き潮に
引き算が好きで淋しい影を持ち
草を引く命の叫びききながら

人

訃報また朱線の滲む住所録

地

引き金を引く一瞬にある迷い

天

斜線引く体たらくだという過去に

軸

干乾びた影引き摺っている日暮れ

米子市	成田	雨奇
大阪市	小野	雅美
倉吉市	牧野	芳光
堺市	坂上	淳司
鳥取市	大前	安子
黒石市	北山まみどり	
三原市	笹重	耕三
岡山市	丹下	凱夫
鳥取市	福西	茶子
富田林市	山野	寿之
佐賀県	真島久美子	
弘前市	高瀬	霜石

東京都	川本真理子
大阪市	平井美智子
橿原市	居谷真理子
越谷市	久保田千代
鳥取市	田賀八千代
神戸市	みぎわはな
奈良県	渡辺 富子
岡山市	永見 心咲

初歩教室

題一 空 氣

居 谷 真理子

暑中お見舞い申し上げます。

厳しい気節ではありませんが暑さを心の熱さに変えて、レッツ・川柳！

さて、「空気」の題で圧倒的に多く詠まれたのは「空気を読む」、次に「深呼吸」でした。始めに「空気を読む」の中から幾つかを。

（原は原句 参は参考句）

原 連れ合いに空気読んでと目配せしひとみ
それから後を知りたい

参 目配せも空気も読まぬ連れ合いで

原 場の空気よめずに間合恥をかく ゆき

参 場の空気読めずに外すタイミング

原 まんえんの空気を読んで身を守る 照枝

一般的には「まん延」の表記です

参 まん延の空気の中で身を守る

原 ほとんどの空気読める歳至る 義明

参 たいがいの空気は読める歳になる

原 K Y と揶揄した部下が今専務

参 K Y の部下がほとんど出世する

原 得意だった空気読みやや陰り出るひでお

参 空気読む技も少々陰りだす

原 会議室少し下げましょ空気圧

参 このままでも面白い句ですが、今の状況を

取り入れて

参 会議室換気で下げる空気圧

原 児の絵書き空気の色は薄黄色

参 おえかきの空気の色は薄黄色

原 いい天気冷えた心を干している

参 ペランダに冷えた心を干している

参 きのうまでの冷えた心を干す日和

原 いつからか社会に空気流れない

参 いつからか空気のとどむ世の中に

原 窓を開け朝日と空気に深呼吸

参 窓を開け朝日とともに深呼吸

参 窓を開け今日の空気を深く吸う

原 ありがとの笑顔でかわる空気感

参 ありがとこの笑顔が変えていた空気

原 四十九日空気動いた気配する

参 四十九日何か動いた気配する

参 四十九日空気の中に居るあなた

原 飛沫避け風上選び朝散歩

参 コロナ下の散歩は風上を選ぶ

原 青空を泳ぐ鯉見て深呼吸

参 青空の鯉を見上げる深呼吸

原 泳ぐ鯉にならって深呼吸

参 むせるよな木立のみどり深呼吸

参 むせるよな緑みどりに深呼吸

原 恋人の周りの空気水色だ

参 恋の句です。ロマンチックに決めましょ

原 水色の空気まとして恋人よ

参 肉焼いてうまい空気がお腹鳴る

原 ああ肉、食べたくなりました

参 肉を焼くうまい空気に腹が鳴る

原 朝起きて空気吸うよに君がいる

参 目覚めれば空気のように君がいる

原 海であり空で空気でありし母

参 海で空で空気であつたお母さん

原 K Y の視線にめげすマイベス

参 「めげず」ですね。こういう小さなミスは

とても残念です。

参 K Y と視線は言うがマイベス

勝正

（豊）良子

千代

睦子

ミヨノ

のぞみ

双葉

行久

原 冷氣浴び左右確認くしゃみする あぐら
ちよつと説明過多

参 右左だれもいませんハイくしゃみ

原 空気がって喜怒哀楽を知っている 一 平

参 空気がって喜怒哀楽で変わる色

原 カーテン変えて部屋の空気は春になる (藁) 廣 子

参 カーテンで部屋の空気を春にする

原 もめ事の空気察して逃げ出したい 光 雄

下六は避けたいです

参 もめそんな空気の中を逃げ出せず

原 気まずさを変えるタジャレを磨いてる 弘

参 気まずさを変える駄洒落の駄を磨く

原 あの街のよむ空気に魅せられて 不二夫

参 あの街のよむ空気にある魔性

原 里の空気解するウグイス谷わたり 道 子

「げする」「かいする」、どうよんでもこの

句には不似合いです

参 谷わたり里の空気にとけこんで

原 マスク取り新緑の中深呼吸 紀美代

参 新緑にマスク外して深呼吸

原 慕参り優しい空気感してる

参 慕参り優しい空気感じつつ

参 優しさに会いたくなって慕参り

原 明るい嫁が家の空気を丸洗い (H) 和 子
参 嫁の声家の空気を丸洗い

原 張り詰めたワクチン予約取れた午後 厚 子

参 息を吐くワクチン予約取れた午後

参 空気が変わるワクチン予約取れてから

原 春が来たやさしい空気ふあふあと 智恵子

参 春が来たやさしい空気連れて来た

参 ふわふわの空気だ春が来たようだ

原 雷鳴にその場の空気破られる 裕 子

参 雷鳴にいい雰囲気破られる

原 ビリビリの空気産ぶ声知らげる (川) 信 子

参 ビリビリの空気破った呱呱の声

参 ビリビリの空気産声待っている

原 空気が吸い青いため息はく暮らし 由紀子

「青いため息」：素敵な表現です

参 暮らしする青いため息つきながら

参 世の中を吸えば青色のため息

原 はやぶさ帰還燃えつきて任果たす 風 鈴

独特の視点です

参 はやぶさ帰還任務果たして燃えつきて

原 幼児の泣き声空気を震わせる 次 郎

参 赤ちゃんが泣いてる大気を震わせて

原 窓開けよ五月の風が邪気祓う のりひろ

まさに五月の気分！「祓う」は「払う」で
もいいでしょう

参 窓全開五月の風で払う邪気

原 ミーティング空気の変わるおやじギャグ (澤) 良 子

参 ミーティング空気くずれるおやじギャグ

原 吐き出した空気の中に嘘ひとつ くみ子

参 さきほどの呼気にまじった嘘ひとつ

参 吐き出した嘘がブカブカ浮く空気

原 会議室ボチボチ時間換気する 崇 史

参 会議室ボチボチ換気をする役目

原 空気感染変化続けていくコロナ 風 露

ここはやはり「空気読み」を使いたい

参 空気読み変化続けていくコロナ

【佳 句】

コロナ慣れの空気漂う繁華街 通 則

土日祝空気を運ぶ路線バス 貴美江

父さんは居間でひっそり雨の午後 蟻日路

【今月の推せん句】

過疎の村空気と水でおもてなし 中村 民子

単線のここからちがう空の色 有田 澄子

現金の話をすると重くなる 中田 尚

川柳塔鑑賞

同人吟 伊達郁夫

一七月号から

この穿ちが素晴らしい。

とうさんが茶碗を洗う音がする

山田耕治

どんな経緯で、父が茶碗を洗っているのか興味深々です。あの茶碗を洗う音は確かにとうさんです。

ワクチンを整然と待つ蟻の列

永井松柏

大規模集団接種が自衛隊により開始。東京・大阪の会場では、長蛇の列。皆さん整然と並んでいます。従順な蟻のように。燃えるもの欲しくて買った赤い薔薇

大内朝子

歳を重ねても、心の奥には、まだ燃える情熱を抱えている。この情熱が赤い薔薇に手を伸ばすのですね。

背伸びした影をライバルたちが踏む

石田隆彦

背伸びして、やっと手にした目標をライバル達が踏んでいく。その悔しさとライバル達の嫉妬が滲んでいます。

バースデー空いっぱい星を撒く

岩崎公誠

私の誕生日が来た。大空いっぱい星

久し振りに、川柳塔同人吟をじっくり鑑賞させていただきました。素晴らしい句ばかりでした。その中から私の心に残った句を上げてみました。

お褒めいただきありがとうございます

西田美恵子

コロナ禍の自粛中、やっと夏には逢える期待。その思いがひしひしと伝わってきます。

重心が定まってきたランドセル

森原道夫

馴れないランドセルが、歩く度背中で揺れ動いている新一年生。もう6月を過ぎてやっとランドセルが背中に収まって来た情景が、ほほえましく詠まれています。

水は流れてワクチンの接種券

谷口義

ワクチン接種券の配布の地域差が生じて、混乱しています。高齢者から、水の

流れるように、澁みなく行き亘ることを願っています。

マスクして口は充分休ませた

鴨谷瑠美子

いつもお喋りな私。コロナ禍でマスクが離れません。これ以上無口は無理。口元が痒くなります。

頁繰るたびに広がる海がある

山岡富美子

一冊の出会いに、素晴らしい世界が広がってきます。ページを繰る毎に、広い海と空が舞っています。素晴らしい発想ですね。

慣れてきて時間がかかるようになる

川本真理子

何事にも、慣れてくると時間・無駄がなくなるのですが、作者は反って時間がかかるかと詠んだ。慣れてくると、欠陥が分かり、より完璧を目指すのですね。

を撒いて祝おう。この大らかさと明るさに拍手。

あれこれもコロナ明けたらしてみせる

岩崎 玲子

旅行も句会も食事会もなにかも中止。この欲求不満のストレス。コロナが収束したら、すべてやってやる。同感です。

ポストまで廻り道して春を見る

榎本 舞夢

ポストに投函するのに、途中廻り道して道草の春の息吹を探します。この心の余裕がうれしい。

喋らない今日は半分落けている

古今堂 蕉子

饒舌な私がコロナ自粛で、寡黙。ああもう耐えられない。もう私半分落けてます。

老人になったと思うこの二年

澤井 敏治

私も今年83歳つくづく80歳を過ぎると気力・体力ががっくり落ちました。でもまだ頑張らなくちゃ。

五月晴れ両の手広げ腕まくり

村上 直樹

さあ五月晴れ。大空を泳ぐ鯉に負けず

に両の手を広げて、元気に生きます。まだ若いつもり。

人間が好きで裸足で会いにゆく

太田 昭

見栄も外聞も捨てて、裸足で会いにいく。本心を曝け出すから、人が寄る。この距離感こそが人の道。

ところてんあの頃母は若かった

水野 黒兎

夏の午後母と庭先でところてんを食べた。もう何年前だったかな。あの色白の母の肌。若かりし日の母の思い出。

目隠しの指の隙間で見える世間

中村 恵

正眼で見るより、目隠しの隙間から見ると、世間の裏側がよく見えます。この穿ちが素晴らしい。

巣籠りをするには空が青すぎる

鈴木 いさお

巣籠りの外は、青い広い空。なのに自粛の鎖に縛られて。ああ両手を広げ飛び回りたい。

巣ごもりへ蝶やスズメが会いに来る

北村 賢子

自粛、自粛と騒がしい。誰とも会わずただ、じっと籠の鳥。そんな淋しい私に蝶や雀が遊びに来てくれる。もはや童話の世界です。こんな生活も楽しいです。

母の部屋ちよつと覗いて出かけます

緒方 美津子

介護の母を寝かせて、ちよつと外出します。母の体調を気遣いながら。温かい句ですね。

花びらのひとつひとつにものごと

前田 楓花

一輪の花の花びらに、一枚一枚の物語と思いが詰まっている。この着想が堪らない。

形見分け涙しながら手をのばす

後藤 宏之

亡母の形見。涙ぐんでいるが、そつと手を伸ばして頂く。愛と欲の葛藤が上手く表現されています。

巣ごもりの今しかできぬことがある

初代 正彦

巣籠で溜るストレス。でも普段出来なかったことがいっぱい。コロナがくれたチャンスと思い、この時こそ挑戦するのも。

水煙抄鑑賞

— 7月号から

大久保 眞 澄

妻の愚痴伸びたウドンが聞いている

岡 本 勲

この愚痴はいつ終わるのか。せっかくのウドンも伸びてしまった。後はウドンに任せましょう。

吠えなくてウチの番犬ほめられた

本 庄 汪

名ばかりの番犬が、吠えないいい子だと撫でられる。飼い主としては微妙です。

三密も二密もうつる新コロナ

横 溝 安 子

そうです。一密でもうつる時はうつる。これ以上どうせよと言うのでしょうか。

思春期のぶつきら棒が譲る席

喜 多 村 正 儀

いいことをするのは照れ臭いしカッコ悪いのが思春期。困惑する老人。ぶつきら棒の一語で場面が目には浮かぶようです。

会いたくて猫の真似して鳴いてみる

山 野 双 葉

恋猫は切なく艶っぽい声で鳴き、おねだりは猫撫で声という語を生みました。会いたい時は猫になりましょう。

あかんもんはあかんとまっ白なマスク

坂 本 星 雨

花柄も黒も見慣れてきたマスク。僕は一徹に白。何物にも揺るぎません。若者よスマン年金ちゃんとする

岸 田 万 彩

コロナ禍で多くの方々が収入の道を絶たれ、弱者であった年金族は低くとも低収入で安泰。老人でゴメンナサイ。

家出用に大風呂敷をとっておく

中 筋 弘 充

日頃は大法螺程度にして、いざという時のために大風呂敷は畳んでおくのがよろしいのでは？

突然のことでお辞儀ばかりする

岸 田 武

急な計報に「この度は」の次が出ないのでしょうか。「結婚するよ」と婚約者を伴って子供が帰省したのでしょうか。言葉に窮してモゴモゴひたすらお辞儀…

手の温み忘れそうですオンライン

郷 田 み や

このご時世、オンライン様さまですが、息遣いや体温までは伝わらない。会って話してこそ響き合うものがあるのです。さみしい人に肩たたき券届く

月 波 与 生

誰にも会えず淋しい時に、いつかはと優しい贈り物。まさか淋しさに追い討ちかける退職勧奨ではないでしょうね。

それも良し買いかぶられてそのまんま

穂 口 正 子

買い被られるのは辛いものです。抗ったところで返ってくるのは誉め言葉。お好きに言わせておきましょう。

手も足も出さず過した五連休

児 玉 規 雄

毎日が日曜日の身でも、なぜか連休は血が騒ぐ。なのにコロナ相手に手も足も出ず仕舞い。言い得て妙、拍手です。

まだボクにこんなにえぐい灰汁が出る

小 畑 定 弘

丸くなったつもりで事ある毎に口も手も出てしまう。自分をイヤな奴だと思いう時も。年をとるのは難しいものです。



追悼

くろだよしこ

黒田能子さんの逝去を悔やむ

山口 光 久

コロナ禍で三密を強いられている最中、黒田能子さんの三女、近兼敦子（同人）さんから、母（八十三歳）が、4月4日亡くなりましたと電話がありました。葬儀は家族葬で、身内だけで済ませましたとのこと。訃報に接し驚くばかりですが、病魔には勝てなかったか、と残念で仕方ありません。

能子さんはここ数年来、原因不明の難病に悩まされ、あちこちの病院で診てもらっても解決できず、病状は悪化するばかりで、入院生活を余儀なくされました。だんだんと歩行が困難となるどころ、句会に行くのが楽しみると、敦子さんの肩を借りて頑張つて来られました。しかし、それも長続きせず、歩行どころか、立つことさえ出来ず寝たきりになりました。

能子さんは何時もにこにこ、笑みを絶やさぬ淑女という言葉がびつたりの方でした。能子さんの自慢は、娘三人の家族ぐるみのお付き合いがよく、お婿さん同士も大変仲がいいという事でした。何時も一緒にゴルフへ行かれるのですよと、嬉しそうに話されていました。

ガラス珠のように初孫抱きとめる足踏みをして片方が待っている寄り添って一つの傘にあるドラマばあちゃんも厳しいとこはあるのです青い鳥わたしの中で孵化させる

能子さんは阪神淡路大震災に遭遇され大変な苦勞をされました。しかし、頑張り屋の能子さんは挫けませんでした。

いつもの道いつもの家がないのです何はともあれ今わたし生きているからつぽになつて一から始めます今日を今日をと丁寧に生きていくあの日には見えないものが今は見え

能子さんは川柳塔の常任理事として、編集に携わつてこられました。また、六甲川柳会の設立に尽力を賜りました。寒風吹き荒ぶ中、JR六甲道に立ち、通行人へビラ配りもされました。その甲斐あつて現在の六甲川柳会の盛況となつたのだと思います。

いい笑顔美人でなくていいのです飾らずに私はわたし白い風好きだから一緒にご飯食べているしょんぼりのあなたに点火してあげる幾つになつてもあなたの母である舞い終わる日まで女の白い足袋

能子さんご冥福をお祈り致します。本当にお世話になりました。合 掌

『麻生路郎読本』余滴 (65)

「商業之大日本」の頃 ①

棄原道夫

『麻生路郎読本』の「麻生路郎年譜」大正8年の項に、(この年「商業之大日本」主幹を務めるが、11月限りで退社し、外国為替の研究に没頭する)と記したが、「商業之大日本」について、今まで調べるゆとりがなく、また、現存しているとも思わなかった。ところが、国会図書館に所蔵されていたのである。



国会図書館に所蔵されている「商業之大日本」は、大正8年7月号(創刊号)から11月号(8月号欠)までの4冊である。

上段の写真は、創刊号の表紙。「工業之日本社」の社屋の写真があり、横書きで「工業之日本社出版物」として、左記の出版物が記載されている。

月刊 工業之大日本 一日発行(六十銭)
週刊 少國民新聞 日曜日發行(一ヶ月廿銭)
年刊 日本工業要鑑 年末發行(六圓)
月刊 商業之大日本 十五日發行(五十銭)

同号掲載の「工業之日本社の事業」を一部引用する。

「工業之日本社は大阪密株式會社大阪貯蓄銀行等の重役にして兼ねて大阪商業興信所の相談役たる法學士*1外山捨造氏の經營するものにかゝり現に次の如き*2諸種の事業を営み居れり。」

*1 外山捨造は、外山脩造の三男。脩造は衆議院議員、官吏、実業家。日本銀行初代大阪支店長。阪神電鉄初代社長、阪神タイガース生みの親とも言われる。捨造は京都帝國大学法学部卒業後、大阪貯蓄銀行、大阪瓦斯、浜寺土

地、阪神電気鉄道などの重役や工業之日本社社長などを務めたほか、羽衣高等女学校の創立も支援した。

*2 定期出版部の出版物として表紙に記載されているもの以外に、大正8年に新たに刊行するものとして『Industrial Japan』(「工業之大日本」の英語版)と『日本商業要鑑』を紹介している。また、圖書出版部と印刷部の案内もしている。

工業之日本社は明治37年創業で、「工業之大日本」を発刊した。東京に、実業之日本社という今も続いている出版社がある。明治30年創業で、「実業之日本」を発刊した。「工業之大日本」は、東京の「実業之日本」に対抗しようとして発刊されたものと思われる。そうして、「工業之大日本」が軌道に乗ったので、「商業之大日本」を発刊することになったのだらう。

「商業之大日本」について、東野大八は「麻生路郎物語」で、次のように触れている。「童謡関連の編集に当たる以前にも「商業之大日本」主幹として一時期を過ごし」(余談だが、さきの「商業之大日本」主幹時代

「同じ社に机を並べていた『工業の大日本』主幹、風見章が第二次近衛内閣の司法大臣になる。二むかし前の仲を思えば……」と昭和十五年の頃の山雨楼メモにある。(同一の社が経済関連のシリーズ刊行物を数種発行していたらしい)

風見章(卓)は誤りについて記しておく。風見章は明治19年生まれで、路郎より二歳上。明治42年早稲田大学政治経済学部卒業、国際通信、工業之日本社、朝日新聞記者などを経て、大正12年から信濃毎日新聞主事。昭和5年衆議院初当選。

路郎は、「川柳雑誌」昭和15年8月号「川柳横町」の「主幹と主幹」の項で、風見章の思い出話を記している。

〈*1近衛内閣で内閣書記長に、*2第二次近衛内閣で司法大臣の椅子にドツカと腰を下した風見章クンと路郎主幹とは、二タ昔ほど以前に同じ社に勤めて机を並べてゐたことがある。そのころ風見クンは「工業之大日本」の主幹で、路郎主幹は「商業之大日本」の主幹であつた。ある時、この二人がまさになぐり合ひの喧嘩をオツぱじめやうとしたところ、最近満洲へ砂金をどうとかすると云つて出掛けた*3三好正明

クンが、あの義足で、しかもキリギリスのやうな身体で、二人の間へ飛び込んだので殴り合はずに済んだ。そして談合つて見たら突込む奴があつて風見クンの誤解だと判つた。判つて見れば釋然として舊の如くなつたので路郎主幹はこの時以來風見クンが好きになつたといふ話。〉

*1 昭和12年6月4日発足。

*2 昭和15年7月22日発足。

*3 三好正明は、明治27年生まれで、路郎より六歳下。「商業之大日本」の記者で、毎号編集後記を書いている。

退社後は大阪毎日新聞記者として、大正12年9月1日に起きた関東大震災被災の様子を、陸軍の飛行機に同乗してスクープした。大正14年12月、川柳雑誌社同人、号は革郎。昭和2年7月、塚崎松郎・石賀(林田)馬行退社後、編集局入り。昭和4年4月をもつて、勤務先の「経済評論」の編集事務が多忙のため退社。

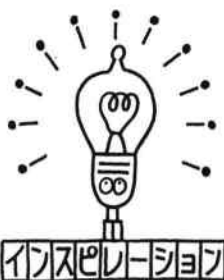
大正8年「商業之大日本」の記者をする前の路郎の様子を確認しておく。

路郎は大正4年から古書店「葵書店」(北

区上福島。5年に西区江戸堀に移転)を営み、「雪」(大正4〜6)、「土圍子」(大正7)を発行した。大正7年頃、道頓堀へ進出しやうとしたのだが、蔑乃の父の姉を家庭の事情で預かつていたので、川沿いの家は老人に不便だろうということで、転宅を中止した。また、三人の娘を産んだ蔑乃の母体がちかねるということで、古書店を廃業することになり、西成郡今宮町へ一時仮寓、その後、大阪市外萩の茶屋三日路に落ちついた。

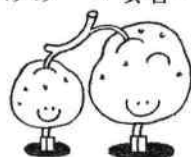
大正8年6月15日に、川上日車、木村半文銭と「後の葉柳」を創刊するが、それ以前には「商業之大日本」創刊号を出すために、工業之日本社に入社していたと考えられる。どのような機縁で工業之日本社に入社したのだろうか。はつきりしたことは言えないが、母校・大阪高商の同窓生の紹介により入社した、あるいは、古書店を営んでいた時期に工業之日本社とのつながりができたのではないかと、と推測する。

路郎は「商業之大日本」で、比較的短い軽妙な記事も書いている。そのような記事の紹介を中心に、「商業之大日本」を見ていくことにする。(次回に続く)



(投句220名)

雨が続き、またまた災害
が起きていますが、この頃
は「明日は我が身」という
思いがしてなりません。



そのような雨も紫陽花の
青色が一段と鮮やかなるの
を見れば、降らなければ困る自然の恵み、
まして田畑にとっては日照り続きではと
んでもないこと。太陽の恩恵を受け、ほ
どほどの雨量が作物を豊かに実らせる、
そんな穏やかな自然ならいいのになんて、
バクゼンとした夢のようなことをこの雨
の中で考えています。では、ナビを。

兄ちゃんはアホや彼女ができてから
(評) 妹から見ればホネヌキにされたよ
うな兄ちゃんもどかしい。別に、彼女
のことがキレイな訳ではないけど…。

メロン五切れあれが我が家の全盛期
(評) アハハ、思い返せばってことです

インスピレーション
ナビ
印象吟
大西泰世選

ね。可笑しいけど何かしらしみじみと哀
しくなってきましたワ。

その昔とても仲良くしてたとさ
(評) まるで日本昔話のよう。だったら
今は「とても仲が悪い」のでしょうね。
まあ、よくあることと言えるでしょう。

ライバルのお蔭で背筋伸びている
(評) これはホント、ライバルが居なけれ
ばついつい自分を甘やかしてしまいます
もの。

他人から見れば小さな幸だけど
(評) いえいえ小さなことではありませ
んよ。基準はご自分が決めることですも
の。その幸を噛みしめて下さいませ！

似ていると言われビミョーな顔をする
(評) 似ていると言われても誰に似てい
るかが大事、あまり嬉しくない人ではム
ムムという感じ。

ジャンケンで勝って大きい方を取る
(評) これは正しい権利でしょう。ジャ
ンケンにしろ勝ったんだから、恥じるこ
となく大きい方を取ってトーゼンです。

鑑定書などは用ないほんまもん
(評) ナントカ鑑定団に出なくても、と

にかく「ほんまもん」に間違いないんや
から、と私が言うております。

戦争は止めよう同じ地球人
(評) 人間ってバカですよねえ。戦争なん
て何ひとつ利の無い愚かなことを今もど
こかでやっているんだもの。

自由とはこんなものかと妻の留守
(評) 本当の自由が目覚めてしまったの
ですね。その自由を日常的なモノにする
には不屈の精神あるのみです。

懐の大きい方がお母さん
大阪市 江島谷勝弘

なんとなくエッフェル塔を想い出す
河内長野市 穂口 正子

あら嫌だ顔が似てきた金婚式
尾道市 小川 道子

名医だわ顔見ただけで治ったよ
松江市 石橋 芳山

目的地チロリン村に着きました
大阪府 岡田 恵子

マヨネーズかけて不満を食べている
米子市 八木 千代

枇杷の木に枇杷 梨の木に梨が生る
東大阪市 佐々木満作

漫才師はけつつこみの泣き笑い
寝屋川市 平松かすみ

不揃いのおにぎりだけど父の愛

大阪市 今村 和男
拾われぬファールボールに陽があたる

松山市 宮尾みのり
肚の底までは知らない方がいい

津山市 高橋由紀女
取合いのゆすら梅いま花盛り

弘前市 高瀬 霜石
気が合って困る貧乏神とぼく

森屋川市 森 茜
帰って来ふる里の土ぬつくいぞ

藤井寺市 太田扶美代
芋拔きの戦後史なんてありえない

生駒市 飛永ふりこ
無理しない励まし合ってどっこいしょ

佐賀県 真島久美子
地球外生命体がいる地球

大阪市 平井美智子
逢う朝の左右の眉が揃わない

大洲市 花岡 順子
ともかくも笑って此の世生きていく

松山市 郷田 みや
キーパーソンあなただつたと知りました

倉吉市 牧野 芳光
一郎が転ぶと三郎も転ぶ

尼崎市 藤田 雪菜
ふる里の少女のようなさくらんぼ

大阪市 古今堂蕉子
くいしん坊の青虫に会いに行く

三原市 笹重 耕三
性格の不一致そんな筈はない

松山市 柳田かおる
幸せてこんな近くにありました

大阪市 石橋 直子
猛暑日のアイスとビールすぐに切れ

笠岡市 藤井 智史
エネルギー補給に愛を差し上げる

箕面市 酒井 紀華
透明なマスクの中で遺産分け

岩国市 上村 夢香
雑魚でいいコツコツ生きて実らせる

男鹿市 伊藤のぶよし
神は神仏は仏不干渉

奈良市 山本 昌代
介護する妻と楽しむ散歩道

枚方市 栃尾 奏子
この味とハートで勝負無農薬

堺市 内藤 憲彦
引き際を子らにきつちり見せておく

黒石市 北山まみどり
元気です心配無用とも言えず

青森県 月波 与生
三兄弟兄は女性になりました

大阪市 田中ゆみ子
腹いっぱい食べて本物の笑顔

今治市 永井 松柏
舞ちゃんか真央ちゃんかまだわからない

尼崎市 近兼 敦子
笑顔でも隠すことあるわだかまり

大阪市 高杉 力
墓だけは少し離れたところがい

藤井寺市 鴨谷瑠美子
うちも隣りもそのお隣りも老夫婦

富田林市 片岡智恵子
役者だな九回裏の大見せ場

尼崎市長 山田 厚江
困った時だけ仏壇開けて手を合わせる

豊中市 水野 黒兎
じゃがいもになりたかつたとサユリスト

熊本市 杉野 羅天
わが流儀小粒キリリの味を取る

朝霞市 前田 洋子
初物でちよつと寿命を延ばします

河内長野市 中島 一彌
杯をかわし今日から義兄弟

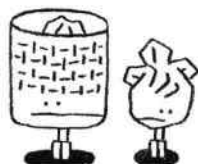
三田市 谷口 修平
ノーベル賞取れてワクチン出来ぬ国

丹波篠山市 酒井 健二
ゆつくりと呼吸ができる人とい

豊中市 松田蟻日路
メイクイーンは高嶺の花と知りました

西宮市 高橋千賀子
輪になって踊ろ今宵は満月だ

10月号発表 (8月15日締切)



(平本 霧石人 画)
柳箋に2句

川柳塔社各賞選考規定

- ① 川柳塔社には、路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞の六賞があり、毎年10月に表彰する。
- ② 自選集の作者は、すべての賞の対象としない。
- ③ 各賞とも、原則として同一人に同一賞を授賞しない。
- ④ 路郎賞・川柳塔賞については、準優秀作の場合、上位は差し支えないが、同位または下位には授賞しない。
- ⑤ 二賞の選考委員は、その任期中は賞の対象としない。
- ⑥ 路郎賞・川柳塔賞の選考要領については、下記の通り定める。
- ⑦ 愛染帖賞は選者が決定し、主幹の承認を得るものとする。
- ⑧ 檸檬賞は二名の選者がそれぞれ5句ずつ選出した10句中から主幹が決定するものとする。
- ⑨ 一路賞・各地柳壇賞は、常任理事会の委嘱を受けた選者が受賞句を決定し、主幹の承認を得るものとする。

(備考)

この規定は、現行の選考規定を一部改定したもので、常任理事会で承認の上、平成二十七年から実施するものとする。

二賞選考規定

- ① 路郎賞 川柳塔欄の入選句から5句
川柳塔賞 水煙抄欄の入選句から5句
昨年9月号から今年8月号までの一年間の入選句の中から自選し、8月号に刷込みの応募用紙を使用の上、8月15日必着で本社宛郵送する。
- ② 第一次選者は主幹・理事長・副主幹・副理事長・編集長とする。各賞15編ずつ選出し、第二次選者へ郵送する。
- ③ 第二次選者は折り返し、路郎賞、川柳塔賞の各選考結果を本社宛通知する。選考には順位をつけ、第一席(5点)、第二席(4点)、第三席(3点)、第四席(2点)、第五席(1点)の五編の番号を予め本社で用意したハガキに記入のこと。
- ④ 第二次選者
本社関係 主幹・理事長
地方関係 【4】≡ブロック (11) ≡選者数
【東日本】 (2) 北海道・東北・関東・信越・北陸・東海
【近畿A】 (4) 大阪
【近畿B】 (2) 滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山
【西日本】 (3) 中国・四国・九州・沖縄・海外
合計13名
- ⑤ 地方関係の選者は、適宜交代制を取り、均衡をはかることにする。
川柳塔欄・水煙抄欄に6ヵ月以上出句した人に応募資格を認める。

令和三年 二賞選考委員

第一次選者（5名）

小島 蘭幸・新家 完司・川上 大輪・木本 朱夏
内藤 憲彦

第二次選者（13名）

本社関係（2名）

小島 蘭幸・新家 完司

地方関係 【4】 ≡ ブロック （11） ≡ 選者数

【東日本】（2）北海道・東北・関東・信越・北陸・東海
稲見 則彦・川本真理子

【近畿A】（4）大阪

江島谷勝弘・鈴木いさお・谷口 義・平井美智子

【近畿B】（2）滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山

大久保眞澄・藤井 宏造

【西日本】（3）中国・四国・九州・沖縄・海外

鴨田 昭紀・斉尾くにこ・永見 心咲

昨年九月から今年八月の間に

誌友から同人になられた方へ

「路郎賞」「川柳塔賞」のいずれか月数の多い方を選
択して応募下さい。

ただし、「路郎賞」には川柳塔欄作品から、「川柳塔
賞」には水煙抄欄作品からの応募となりますので、間
違いないようにお願いします。

令和三年 各賞選者

愛染帖賞 新家 完司

檸檬賞 石橋 芳山 古今堂蕉子

一路賞 初代 正彦 久保田千代

各地柳壇賞 藤村 亜成 山本希久子



シニアパワー（１）

新型コロナウイルス禍による自粛続きで鬱々とした日を過ごされている方も多いことでしょう。このようなときこそ我々が「川柳」の出番です。友人や知人そして諸先輩の元気な句からエネルギーを吸収して前進する力にしましょう。

なお、作者それぞれの年齢を精査していませんので「私はまだシニアじゃありません」という方はご容赦ください。

単純に好きな明けていく空が

一日を楽しく生きるのが仕事

朝の陽にもらう勇氣と鳥の声

おはようのようあたりからトツギア

元氣に呼んでる元氣に振り返る

ハイという大きな返事まだ出来る

ゴミ出しが今日の元氣の糧になる

快適な一日のスタートは爽やかな目覚めから始まります。

理屈抜きに好きな「明けていく空」を眺めているとき、その心もまた明け方の空のように澄んでいるのでしょうか。

あつという間に過ぎ去ってしまった二十四時間。楽しく過ごさなければ損です。「楽しく生きるのが仕事」と思っていたら

鳥の声も友達の声も嬉しく響いてきます。また、ゴミを出すという些事でさえ「出来る！」楽しさが湧いてきます。

爺さんになりきらせない好奇心

通勤の流れに乗って若返る

ルンルンを結めたバッグと中之島

八木 千代

平井美智子

前田 楓花

小谷 小雪

黒田 能子

田中 恵

上山 一平

北野 哲男

加藤 肇

徳山みつこ

フラダンス今日が一番若いから

ランチして歌って今日はバラダイス

数独で消しゴムがすぐ減っていく

在宅編集してます金魚侍らせて

持病などなくても、ほんやりする時間が増えてくると心が

病んできます。高齢になると何をしても面倒くさくなり

がちですが、そこが我慢のしどころで、「楽しいルーティン」

になれば「生き甲斐」となって長寿の薬にもなります。

その楽しいルーティンは、街歩きやフラダンスや女子会と

いう能動的なものだけではなく、数独や在宅ワークなどでも

同じです。何事も積極的によればビタミンになります。

八十歳の遊び盛りが止まらない

デバ地下のこのうちよろが堪らない

爺ちゃんはナンバ気分の子ケア

友だちはあの世へ僕はキャバクラへ

暴飲と暴食はく健康法

食い足りぬ飲み足りませんまだ米寿

胃薬と眠剤だけはいりません

元気な高齢者は例外なく「頭が柔らかい」ようです。年寄

りだななどと俯かず「まだまだ遊び足りない！」という子

どものようなハートが元氣の元になるのでしょうか。しかし、

デバ地下をうちよるとか「ナンバ気分」位ならいいですが、

キャバクラに嵌まり込むと家族から総スカンです。

食欲は元氣の源ですが、暴飲暴食は「食べ放題、飲み放題」

のときだけに、普段は控え目にしておきましょう。

北村 賢子

谷 久美子

池澤 大鏡

木本 朱夏

山岡富美子

伊達 郁夫

加島 由一

丹下 凱夫

吉村久仁雄

三浦 強一

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

尾崎 一子

二〇二一年（令和三年）

六月本社誌上句会

投句者312人

兼題「泣く」

富永 恭子 選

優しさにめつぼう弱い涙壺

奈良 安土 理恵

ウソ泣きのうまい女にメロメロで

大阪 井丸 昌紀

弔詞読む涙が喉に絡みつく

青森 福士 慕情

思ひ出を反芻しては泣く女

大阪 廣田 和織

コロナ禍に泣き泣き下ろす縄のれん

佐賀 仁部 四郎

文案の恋三味線に泣かされる

大阪 美馬りゆうこ

ドア締めて涙を拭うランドセル

兵庫 能勢 利子

先に夫泣くから事が納まらん

大阪 穂口 正子

泣くだけの努力したかとはぞをかむ

大阪 澤井 敏治

泣くばかり解決策のない老婆

京都 北野クニオ

コロナ禍に耐える世泣ける周五郎

大阪 水野 黒兎

ブルドッグの顔になるので泣きません

奈良 大久保眞澄

淋しくて毛布引きあげそつと泣く

大阪 森 廣子

泣いてなどいられぬ岐路にいる日本

鳥取 山本ふみ子

後輩の為なら今日は泣くとする

大阪 坂 裕之

何故嘘をつくのとの子の目見てポロリ

大阪 古今堂蕉子

汗と涙混せて泣き顔消しておく

奈良 高橋 敬子

悔し泣き見込みがあるぞこの男

大阪 平賀 国和

火の消える残高に泣く老い支度

愛媛 尾崎 静山

泣いたのは何だったのか元のさや

大阪 安田 忠子

泣きながら算盤弾く保険金

大阪 川本 信子

泣いて泣いて涙が尽きて立ち直る

大阪 鈴木いさお

カタカナ語ついてゆけぬと泣く後期

大阪 片山かずお

老母の涙都是るみを聞きながら

大阪 田中ゆみ子

間違いを論してくれる泪声

愛知 三好 光明

泣きごとと歳月流れ家族の輪

兵庫 澤 良子

寄せ書きのやさしい言葉涙ぐみ

大阪 山口弘委智

田んぼ道泣いて別れて五十年

大阪 内田志津子

ワクチンの予約電話に泣かされる

神奈川 加藤 佳子

泣き寝入りなんかしません野のすみれ

兵庫 西 美和子

ヒロシマをずっと泣かせる核の傘

広島 笹重 耕三

涙はらはら背の手が温すぎて

なぜ何故と質問形で泣くオンナ

あの歌はキライわたしを泣かすから

我慢した涙溢れる母の膝

言葉にすると泣いてしまいそうな朝

高い木を降りて来てから泣くタイプ

潤いが減ったわりにはよく泣ける

荒廃の地に立ちつくす棒になる

二男逝く涙のかわくことはない

泣き虫になってしまった膝小僧

絶妙な話術の詐欺に踊らされ

幸せでした母の言葉にもらい泣き

辛いこと有っても私泣かんとこ

断髮式大横綱の目が潤む

ブラゴミの放棄に海も泣いている

笑いたくて見た吉本に泣かされる

面会も叶わぬままに重症化

海鳴りは沈んだ舟の鳴咽だろ

泣きたくて一人で入る映画館

大阪 小川賀世子

岡山 永見 心咲

和歌山 木本 朱夏

大阪 藤田 武人

大阪 太田扶美代

兵庫 今津 美幸

大阪 渡辺たかき

大阪 竹原 春江

兵庫 吉村めぐみ

鳥取 新家 完司

愛知 山本三樹夫

愛知 山田 初男

香川 大高 正和

兵庫 福田 好文

大阪 石田ひろ子

兵庫 米田利恵子

大阪 丹後屋 肇

島根 伊藤 寿美

大阪 横山 里子

泣き顔に似合う帽子をさがしてる

ごめんねに涙の川の堰が切れ

佳

断った私の方が泣いている

泣き所ふわり見守るのは遺影

ゆつくりとあのねの続き待ちましょう

もう泣くなど抱くから涙せきを切る

憎むのを止める泣くのはまた明日

人

僕が居るだから泣いても良いんだよ

地

よう泣いたもう笑うしかない余生

天

泣きながら情性の中で米を研ぐ

軸

強いねと言われごくりと涙のむ

兼題「急ぐ」

急ぐほどだんだん足がもつれだす

北海道 嶺岸 柳舟

和歌山 小谷 小雪

大阪 鈴木 栄子

奈良 飛永ふりこ

兵庫 上田ひとみ

宮崎 黒木せつよ

兵庫 江尻 房子

大阪 栃尾 奏子

広島 半田 知弘

大阪 小山恵美子

古久保 和子 選

兵庫 吉村めぐみ

スローライフ急がば回れ実施中

急いでもカレンダーにはかなわない

花びらの綺麗なうちにと逝き急ぐ

杖捨てて先着順の仲間入り

急ぐなとエンマが言ってくれている

急ぐ程隠した場所のキーが無い

焦るなと赤信号に止められる

加速度がついた猛威の変異株

急ぐとき不思議信号みんな赤

急がねば昨日の場所に戻れない

急ぐ家路赤ちようちに蹴蹴く

急いでも社長のイスは一つだけ

警報が出た頃峠越えている

短針に急ぐ私を置いとかれ

救急車マンション中が覗き出す

終電のホームへ駆ける二段跳び

階段を二段跳びして急ぐ足

急いだら途中で転ぶクセがある

短針がせっかちにして生き急ぐ

大阪 佐々木満作

島根 増田のぼる

兵庫 中岡千代美

奈良 大久保眞澄

大阪 片山かずお

兵庫 幸田 厚子

大阪 阪井 恵子

広島 村上 和子

鳥取 門村 幸子

鳥取 田賀八千代

大阪 澤井 敏治

大阪 松岡 篤

和歌山 三枝眞智子

大阪 太田 昭

大阪 丹後屋 肇

大阪 太田 省三

宮崎 恵利 菊江

兵庫 今津 美幸

大阪 山口弘委智

追い抜いて信号待ちで追いつかれ

午前九時あの店たしか特売日

ワクチンが済めば済めばと予定表

急いだから残り時間が減っていく

年寄りの時の流れが速すぎる

速達で僕もあなたが大好きと

せっかちがああそのこのでわからない

あたふたと時が流れて喪が明ける

生き急ぐこともあるまい砂時計

急がねば消印有効締切日

取り急ぎで始まる友の長い文

追い越した車と並ぶ交差点

古稀すぎてやけに短針急ぎだす

踏み切りの手前で急ぎ足になる

その昔電報だった一大事

ケータイが急ぐ仕事の邪魔をする

急がねば彼の心の戸が閉まる

取り急ぎカラのメールで返事する

急ぐまい余生には無い出勤簿

山口 坂本 加代

大阪 近藤 北舟

大阪 美馬りゅうこ

奈良 山下 純子

大阪 穂口 正子

大阪 榑尾 奏子

岡山 大石 洋子

宮崎 黒木せつよ

和歌山 木本 朱夏

鳥取 新家 完司

大阪 今井万紗子

鳥取 成田 雨奇

和歌山 石田 隆彦

大阪 川端日出夫

大阪 川本 信子

大阪 富田 保子

大阪 岡田 恵子

兵庫 櫻井 崇史

大阪 柿花 和夫

急ぐ日は急ぐ形の目玉焼

目的があるかのように生き急ぐ

横顔に急ぐ理由が書いてある

ラッシュアワーの森で迷子になっている

年寄りが急ぐとアラームが響く

赤信号になる直前のフライング

あのバスに乗り遅れたら次がない

消えそうな虹だ急いで渡らねば

温暖化地球がしびれ切らしてる

急がねばもう山の端へ日が落ちる

急ぐほど大事な景色見失う

急ぐのにのつべり続く登り坂

御破算で願いましては次の恋

佳

特急が風だけ残す無人駅

特急ですと縄電車にはとつかれ

急がぬと青い地球が立ち枯れる

急いだらとても淋しい顔になる

首のない群れがせかせかと歩く街

大阪 伊達 郁夫

東京 伊藤三十三

兵庫 野口 修

愛知 青砥 和子

大阪 山岡富美子

和歌山 三宅 保州

兵庫 萩原 狸月

山口 中前 幸子

青森 高瀬 霜石

大阪 鈴木 栄子

大阪 原 洋志

大阪 澤田 悦子

奈良 居谷真理子

大阪 きとうこみつ

大阪 宮崎シマ子

愛媛 栗田 忠士

大阪 太田扶美代

奈良 渡辺 富子

人

突っ走る若さに句読点がない

地

急がねばわたしの匂が消えてゆく

天

結論を早くから海が時化て来る

軸

小走りの母のエプロン濡れたまま

兼題「ムード」

阪神よ戦勝ムード突っ走れ

追伸の一言ムードぶち壊す

出来ている仲に違いないムード

なんとなく冷たい空気団子虫

友達は卒業したいと言うムード

豪快な輝の一打がムード変え

あの感じ間違いないあの二人

栄一が徐々にお札に見えてきた

裕ちゃんもドロンも私酔わせたの

岡山 藤澤 照代

愛知 沢田 正司

大阪 吉村久仁雄

竹村 紀の治 選

大阪 川端 一步

広島 羽城 裕子

大阪 村上 玄也

石川 堀本のりひろ

兵庫 中岡千代美

大阪 油谷 克己

奈良 大久保眞澄

兵庫 岸田 万彩

兵庫 幸田 厚子

おほろ月その気にさせる赤ワイン

大阪 伊達 郁夫

ウィルスも夜のムードが好きらしい

千葉 堺 忠弘

半券の形で残る藤圭子

愛知 青砥 和子

夕暮れの肩が微かに触れるとき

大阪 藤田 武人

ムード歌謡恋を捨てたり拾ったり

大阪 原田 すみ子

目立たないひとだがふわり座が和む

兵庫 みぎわはな

ノンアルで酔った気分の休肝日

大阪 岡 野圭

寝たきりの視線に飾る四季の花

奈良 笹倉 良一

雨宿り泊りですかと聞く仲居

大阪 澤井 敏治

いいムード突如スマホが鳴るまでは

兵庫 瀬島流れ星

デイスタンス取れとムードに釘を刺す

大阪 山岡 富美子

葬式のムードに合っているお経

島根 中筋 弘充

グレン・ミラーのインザムードがまだ続く

東京 植竹 団扇

サックスのなげきにオンナよみがえる

兵庫 西 美和子

路地裏の昭和が香る喫茶店

大阪 中島 一彌

ひょうきんなあいつのおかげ頑張れる

奈良 饗庭 風鈴

酔いしれて恋のバカンス ウフフフ

兵庫 澤 良子

出し抜けに明かりを消してどうするの

広島 半田 知弘

底辺で振った旗にも色はある

大阪 片岡 智恵子

巢ごもりはフランク永井君恋し

大阪 津守 柳伸

サ克蘭ボのひと粒づつにあるオーラ

大阪 美馬 りゅうこ

君と月あとはお酒があつたなら

兵庫 梶谷 和郎

ほの暗いラウンジ包むスロージャズ

大阪 坂上 淳司

黒黴になつてしまった引きこもり

奈良 菱木 誠

大喝采浴びて余韻の幕下りる

大阪 佐々木 満作

酒二合言えるムードにしてしまう

大阪 鈴木 栄子

ピンチでもムードメーカーなら成れる

兵庫 多田 雅尚

ムードなど後回しだとカニの鍋

大阪 平井 美智子

テナーサックス恋のムードを盛り上げる

鳥取 田賀 八千代

デュエットの彼のムードに泳ぐ腰

大阪 古今堂 蕉子

何となく解る受信器の向こう側

大阪 阪井 恵子

青もみじ一緒にワルツ踊りましよ

大阪 鶴田 寿子

ローソクを消してアダムとイブになる

宮崎 黒木 せつよ

残り火を風が煽りにきて悩む

大阪 柿花 和夫

ムードメーカー輪の真ん中でひとりぼち

大阪 岡田 恵子

コロナ禍のムードに慣れてきた世間

広島 笹重 耕三

ムードたっぷりマヒナ特集聴きたいな

兵庫 青木 公輔

やわらかき光たばねて春の絵師

北海道 嶺岸 柳舟

雰囲気丸みに溶ける角砂糖

大阪 山野 寿之

いいムードだったあの日のティー・フォー・トゥー

京都 清水 英旺

たこ焼きの中で発酵したムード

島根 石橋 芳山

二人にだけ分かるスマホの着信音

兵庫 斎藤 隆浩

飲み会のムードの好きなウーロン茶

奈良 大内 朝子

佳

モナリザの前に男が居る気配

兵庫 永田 紀恵

大阪のムードを作るタイガース

大阪 平賀 国和

今宵だけ薄紅色に月見草

大阪 竹原 春江

ハッピーエンドあなたが側にいてくれる

青森 高瀬 霜石

月の雫のこぼれる音かノクターン

愛媛 栗田 忠士

人

全身に音符を浴びているホール

大阪 矢倉 五月

地

藤棚の下で女優になってみる

大阪 島田 明美

天

青い空行ってらっしゃい聞こえそう

京都 山田 葉子

軸

ドクターも酒好きらしい鼻の色

兼題「泡」

植竹 団扇 選

ジェネレーションギャップ言葉が泡になる

岡山 大石 洋子

ひと言で苦勞がすべて水の泡

大阪 伏見 雅明

言い訳をせずにパチンと消えた泡

兵庫 北山はくら

バブル知る服がタンスの奥にある

大阪 高杉 力

ボソボソと父はバブル期語り出す

宮城 木田比呂朗

バブル期を映すディスコのお立ち台

埼玉 中島 通則

母の服バブルの名残り肩パッド

大阪 松島きよみ

バブルで儲けてバブルで破産した

大阪 鈴木いさお

御法度です口角泡を飛ばすなど

大阪 源田八千代

石鹼の泡の中にも小宇宙

奈良 木嶋 盛隆

口角の泡がマスクに引つかかる

奈良 大久保眞澄

口角に泡そんな青春ありました

大阪 川端 一步

口角泡を飛ばすことなく机上論

和歌山 木本 朱夏

良心に恥じては逃げる泡銭

大阪 藤井 則彦

職人の辞書になかったあぶく銭

兵庫 萩原 狸月

血税があぶく銭へと変わる時

兵庫 山田美春日

初恋はミントグリーンの泡と消え

兵庫 中岡千代美

飲む毎に泡を透かして見たラムネ

混ぜすぎたクリームソーダ泣き出した

シユワシユワが良いサイダーも初恋も

ラテアート儂き泡で描くハート

梅酒にプシュツと強炭酸が効く

お抹茶の泡にストレス消えてゆく

泡立てて消えぬ間の夢カプチーノ

発泡酒慣れとは怖い旨くなる

百均で手軽な泡を買ってくる

ノンアルがけなげな泡をたてている

シャンパンもビールも要らん休肝日

生ビール泡の美味さが髭になる

ビヤホールの泡を届ける缶ビール

泡の出るものは拒まず飲んでいる

本物のビールは泡もほんまもん

蹴躓き路上泡ふく缶ビール

ビール党泡がこの世の隠し味

泡沫の夢は未完の千の風

海水汚染蟹は抗議の泡を吹く

大阪 米澤 倭子

兵庫 上田ひとみ

大阪 栃尾 奏子

大阪 阪井 恵子

山口 坂本 加代

愛媛 黒田 茂代

大阪 岡本 悠

鳥取 大羽 雄大

大阪 平井美智子

奈良 居谷真理子

兵庫 斎藤 隆浩

大阪 原田すみ子

神奈川 加藤 佳子

福井 西谷 公造

和歌山 定松 宏枝

兵庫 生田えい子

島根 山根 雪代

大阪 山野 寿之

大阪 石田ひろ子

わが庭を泡だち草が占拠する

洗濯の泡で落とせるほどの罪

石鹼は固形が馴染む80年

満月に朱の海蟹の産卵日

うたかたの恋に微笑む心太

前例が無いとアイデア泡となる

大臣に泡をふかせた地方記者

泡立てて洗い直すか春のうつ

くねくねと体ねじってジェットバス

鳩尾に溜まるばかりの泡を吐く

シャボン玉屋根を越えたらプロポーズ

風船の夢を見ていたシャボン玉

うたかたのごとく消え去る流行語

忍耐はもう限界と鳳仙花

左遷地にうまい地ビール待っていた

泡の無いビールのような人でした

佳

看板のビールの泡は悪い奴

あんさんもバブルはじけた口でつか

愛知 沢田 正司

大阪 小野 雅美

兵庫 近藤 勝正

兵庫 野口真桜子

大阪 初代 正彦

兵庫 上野多恵子

佐賀 仁部 四郎

大阪 今井万紗子

兵庫 羽奈 和子

大阪 中村 恵

兵庫 梶谷 和郎

大阪 太田 昭

大阪 中島 一彌

大阪 鶴田 寿子

兵庫 堀 正和

兵庫 西 美和子

大阪 松岡 篤

兵庫 山田 耕治

マンネリにちよつかい出して泡立て器

広島 半田 知弘

シャボン玉の中にいるよう宇宙船

富山 伴 よしお

かつ消えてかつは結びて変異株

大阪 渡辺たかき

人

手洗いの軍手が誇る黒い泡

兵庫 瀬島流れ星

地

泡盛で語り尽くせぬ沖縄忌

大阪 田中ゆみ子

天

「シャボン玉」野口雨情の親ごころ

奈良 大内 朝子

軸

水飛沫あげぬ飛び込みのミラクル

兼題「勇 氣」

小島 蘭幸 選

ワクチンの実験台になりました

兵庫 清水久美子

自分史に本音を遺すのも勇氣

大阪 柿花 和夫

正論を若い勇氣が押し通す

宮城 木田比呂朗

勇氣ある人だボツンと一軒家

鳥取 新家 完司

四コマ目免許返納決めました

鳥取 大前 安子

ブライドを捨てるとグンと出る勇氣

大阪 内藤 憲彦

他人の子叱る勇氣を持っている

鳥取 伊塚美枝子

優先席で寝てる若者起こそうか

兵庫 山田 耕治

Noと言う勇氣練習しておこう

三重 青砥たかこ

内部告発した勇氣光さす

兵庫 緒方美津子

竹槍を捨てて戦車の前に立つ

大阪 渡辺たかき

重症のコロナ患者に医師が添う

愛知 山本三樹夫

銃弾を恐れぬ民の血の抗議

兵庫 谷口 修平

勇氣出るバイデンさんと同じ年

千葉 勝又 康之

逆風へ飛び込む正論とあなた

大阪 栃尾 奏子

声かけた勇氣で愛の芽が育つ

兵庫 瀬島流れ星

たつぷりと生きる勇氣を璃花子から

大阪 油谷 克己

子のための勇氣母なら誰も持つ

三重 北田のりこ

後進に譲る勇氣に拍手する

山口 坂本 加代

溜飲の下がるコラムにみる勇氣

奈良 長谷川崇明

勇氣ひとつ涙ひとつの一人旅

大阪 大島ともこ

二の腕をみんなが出せば恐くない

和歌山 定松 宏枝

オリンピック止める勇氣を持ちなさい

鳥取 田賀八千代

席ゆずる初めてできた孫の笑い

奈良 山下 純子

補助輪を取ると五歳が主張する

大阪 古今堂蕉子

いい人をやめる勇氣がありますか

奈良 小林すみえ

子のための勇氣ふつつ湧いて来る

一步前へ出ると勇氣が湧いて来る

酒止める勇氣を神よ下さいな

ノーと言う勇氣を五歳から学ぶ

席譲るのにも勇氣がいるのです

老いてなお踏み出す勇氣持ちたいな

友のため証言台に立つ勇氣

初めての呼名勇氣がいりました

ノーと言う勇氣があれば大丈夫

投句する勇氣私も夢をみる

毎日が戦い コロナ禍の白衣

回らない寿司屋へ入るのも勇氣

雛を守る鳥には鳥の母性愛

言うことは言います勇氣要りません

イカロスの勇氣を誰も嘲えない

撤退の勇氣 雲の流れをよむ

アドリブで生きる勇氣が有りません

先生の笑顔に勇氣もらう朝

五十年続いた事が勇氣です

初めての一人焼肉旨かった

大阪 吉村久仁雄

兵庫 上田 和宏

島根 梅瀬みちを

大阪 平井美智子

大阪 伊達 郁夫

大阪 平賀 国和

愛知 沢田 正司

大阪 西村 哲夫

兵庫 能勢 利子

兵庫 荒牧 孝子

熊本 杉野 羅天

島根 石橋 芳山

和歌山 木本 朱夏

鳥取 成田 雨奇

大阪 西出 楓楽

大阪 山本希久子

香川 大高 正和

兵庫 吉村めぐみ

大阪 山内規予子

兵庫 羽奈 和子

一言の勇氣少年を救う

ふわふわと海月の勇氣無敵なり

イカロスを君は嗤うか称えるか

朝起きて鏡見るにも要る勇氣

勇氣ある一歩大きな海に出る

おばあさんの勇氣は湧いてくるようだ

佳

ちよつと勇氣出して私も黒マスク

マスク外す勇氣はともありません

あの時の勇氣を持ったままの繭

生きているだけで勇氣のいる時代

いまひとつ勇氣がなくてまだ独り

人

わたくしの勇氣の主成分は酒

地

人間に戻る勇氣はありません

天

夢が湧く夕陽 勇氣の出る朝日

軸

あとはもう勇氣だけです飛びなさい

青森 稲見 則彦

愛知 三好 光明

奈良 居谷真理子

茨城 石川二三男

兵庫 野口 修

大阪 谷口 義

大阪 穂口 正子

山口 上村 夢香

兵庫 吉田 和子

奈良 花田 文聡

大阪 伏見 雅明

岡山 藤井 智史

大阪 中川千都子

大阪 上山 堅坊

みづやうかん

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。
編集部

大山滝句座(鳥取)

新家 完司報

カメムシを潰すと負けた心地する
叱るにも力が抜けるだらしなさ
血の濃さの順に並んだ遺族席
血管となっていました赤い糸
だらしない暮らし蟻さん背を向ける
どっちもどっち金の絆と血の絆
久々の入賞でやる気満々
血の中に病の兆し顔を出す
ファブリーズそれでは罪が流れない
血液がサラサラ流れそうだ恋
日の丸の赤いところに僕も居る
輸血用もう要らないと高齢者
だらしなく急降下した記憶力
血圧によくないものは全部好き

芳光 雄大 正人 くにこ 八千代 みちを 寿代 ゆたか 芳山 楓花 紀の治 照彦 幸子 余光

新品の靴で青虫潰せない
嬉しいね元気で句会参加出来
今日一日だらしなく過ごした悔い
痛いけどニキビ潰した頃の恋
だらしない生き方をして今が在る
俺のものの血の一滴も蚊にやらぬ
人間という名のだらしない猿だ
妖怪が嬉しく踊る恋煩い

風向きが変わると嘘が見えてくる
嬉しいなササユリが咲く野を巡る
血祭は可哀そうかなうりほうは
四代目潰してなるか精を出す
生きていた目覚めた朝の嬉しさよ
だらしなさ副反応のせいに
いつも会う夫婦この頃妻ひとり
眠ること死の演習かもしれぬ
寝転んで飲んだらうまい缶ビール

和歌山三幸川柳会

西川

千鶴報

由紀子 けいこ 風露 小鹿 富隆 順子 石花菜 麦青 美ツ千 重忠 久子 希楽良 清明 俊文 コスモス 規雄 完司

逢えぬまま今年も雨の小手毬よ
苦勞した花は優しい色で咲く
明日咲くバラが主役の夢を見る
人生に度々起こる予定外
親の夢背負って重いランドセル
前向きに進む限りのある予定
きみとだけ解る言葉で咲く二人
看護師のチャイムひときわ高く鳴る
放課後のチャイムひときわ高く鳴る
生きている限りは咲かせます命
咲き切つて後は二人の花筏
予定の無い旅で気分は山頭火
予定では左うちわのはずだった
衣食住足りて情けに飢えている
廃校も知らず桜は咲きほこり
振り向けば茨の道が消えている
なまじっか知って傷つく花言葉
ワクチンを打った話に花が咲く
パレットの中で花咲く十二色
さわやかな笑顔に恋をした部活
無職でも私らしさのある予定
学校は石碑が残るだけやった
花一輪凛として咲く自己主張
コロナ禍に遭って予定は予定です

理恵 菜摘 昭枝 日出男 昇 八重子 准一 純子 碧 当代 幹子 ひろ子 和子 智三 俣子 富香 保州 義泰 美枝子 明子 あき子 ダン吉 眞智子 悦男

出身校どちらですのと色眼鏡
作りました百歳までの予定表
年金で趣味の世界に花咲かす
予定では当たるはずです宝くじ
咲くよりもつまみでいたい花心
咲いて散るただそれだけで美学です

川柳塔みちのく(青森) 稲見 則彦報

いざ決戦軍鶏のトサカは真つ赤つかのおよし
血統書付きのグウタラだが美人
祭りばやし老いた身もまだ血が騒ぐ
血脈の突然変異ですわたし
コロナ禍にブルーになっていく血潮
めぐる四季血が騒ぎ出す旅プラン
母ちゃんの顔みて蒼くなる不思議
両親のいいとこ取りのいい笑顔
ときどき親の血液型のせいにする
血を取られ金を取られる検診日
血が通う政治なれば議員0
看護師はドラキュラらしい血の検査
老舗継ぐ血筋を絶やしてはならぬ
沸点の低いこの血が家紋なり
敵陣へ血気盛んにトライする
哺乳ビン嫌がり泣いた児が親に

知香 彦弘 和美 康則 與一 千鶴 吹喜 初枝 規子 隆樹 洋子 則彦 風来坊 真由美 龍馬 重虎 ひろ 慕情 霜石 一吞 美鈴

子犬の乳探す姿がかわいらし
運動会大きな胸が邪魔をする
晩婚の押すことできぬ乳母車
雲模様ホルスタインに降りおりる
追手門閉じて乳房が顔を出す
時効まで笑わぬ顔を刺っている
同窓に宮沢賢治がいる名簿
身が縮み厚底靴でカバースる
濃厚でふくよか高野のごまどうふ
家事分担夫に馴染む割烹着
夫婦茶碗欠けたつていい笑顔です

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

秘おじゃみ偲ぶ昭和の数え唄
数々の思い出楽し眠れぬ夜
目立たずに無難な多数派に混ざる
苦勞した数だけ背ながまるくなる
押しくらまんじゅう数のひとつが足りません
ゆったりと豪華客船夢の夢
来客に観て見てみてと牡丹咲く
行列の店もコロナに負けました
好きな香焚いて静かに待つお客
手ぶらだが笑顔を下げて客が来る
新緑のパワー吸い込む散歩道

澄子 ひとし ちづ子 義明 柳子 黙人 孝子 和香子 ふさゑ 花峯 弘子 宣之 昭紀 鬼焼 笑子 夢香 淑子 蘭幸 慶子 栄香 節夫

楽原道夫選

お手紙を読んでからずつと宇宙
悪口はみんな運河に捨てましよう
手のまめは負けず嫌いの証です
スプーンの凹みにヴィーナスの谷間
しゃぼん玉軒の高さで虹となる
ハルカスに上りコロナのバカヤロー
軽トラでちよつと昭和へ行つてくる
義理の弟やから馬面も許す
高らかに天を衝くボン菓子子のボン
母の日の母とジャンケンボンをする
美智子 一筒 和郎 美智子 洋志 黒兎 亜成 千枝 美ツ千 くにこ

佳句地十選

(7月号から)

米澤俣子選

気配りが過ぎて落ちつく場所がない
仁王さんきつと夜中は笑うてはる
しゃぼん玉軒の高さで虹となる
喚いてもどうにもならぬのは寿命
美しい謎の詰まっている蕾
百歳もいじがわしわ減る貯金
無防備で眠れる国にまだ住める
幾つもの顔で渡っているこの世
極楽へ行けぬ仲間とうまが合う
無敵です明日咲く花の遅しさ
碧 志華子 黒兎 賢子 いわゑ 直樹 雅美 大子 哲男 かこ

ブルーシートのみどりあの日を忘れない
 グリーンジャケット日本中の大歓喜
 輝惠 黄緑を着るとわたくしらしい春
 千代美 鶯の声はみどりに落けている
 節生 パセリのみどりもこもこ元氣湧く
 比呂子 父の風母の風記念樹はみどり
 敬子 長靴が履きたい三歳雨を待つ
 歩美 病窓の四角い空へ羽織い
 幸子 土曜日はクロスワードを解きましよう
 厚子 デイサービス今日は嬉しい事一つ
 貞子 目標はオオタニ今日も振るバット
 史子 むしめがねがあればめいたんていになれる

五歳 ちか

川柳塔打吹(鳥取)

斉尾くにこ報

難聴で声の聞かれる席を取る
 貴恵 役おりて末席にいる気持よき
 清 冥土から満席ですと断られ
 節子 宇宙でも一等席にいる地球
 照彦 位牌堂私の席が空けてある
 石花菜 嫁姑妥協ができずぎくしゃくと
 久芽代 ぎくしゃくの体で砂丘案内する
 富隆 戸障子がぎくしゃくしだす震度四
 重忠 我を通す互いの自信せめぎあい
 大鯨

娘とは何時もぎくしゃく我が子かな 紀美恵
 久江 ぎくしゃくを越えて揃った枝になる
 三津子 こんないい星でぎくしゃく国と国
 紀子 ぜいたくか疲れることで眠れてる
 たけ代 何もせず疲れは年のせいにする
 陽之助 連休後疲れ治しに職場行く
 玲坊 少しでも勝てば麻雀疲れなし
 龍枝 目に見えぬ敵と戦い疲れてる
 完司 疲れ目に効く新緑と替め言葉
 余光 橋ひとつ渡れば妻と話す墓地
 義人 台風の度に流れた板の橋
 悦子 八つ橋食べみやげ話でもりあがり
 滋 本気かな核の廃止の橋渡しし
 美知江 あゝの罪がまだ浮いている赤い橋
 重利 行く先は箸を渡ってから決める
 紀の治 人よりは車のための歩道橋
 芳光 フラフラとこの世の中は丸太橋
 くにこ 疲れたと牡丹の花は散りました

はびきの市民川柳会(大阪)藤原

大子報

鼻利かぬ言えばコロナと疑われ 一步
 洋一 鼻水が出る度脇に体温計
 シルク 鼻薬効かし当選したものの
 ダン吉 鼻につく意見は控えますだなど

五六人折ってやりたい鼻が居る 勝弘
 おたやんの愛敬世間和ませる 美代子
 鼻風邪にティッシュの花の枕元 ちづる
 余生甘えようと鼻濁音溜める みつこ
 降りはじめの雨は私の鼻に落ち こみつ
 気がつけば父とおんなじ鼻メガネ 宏造
 鼻歌が聞こえる立直りは近い 扶美代
 どっかりと坐った鼻の頼り甲斐 理恵
 憎しみがしつかりうつる目の動き 一文
 AIの基仇あまり憎くない 専平
 子憎さの交った孫の戯れ言葉 久仁子
 戦争と虐待差別不平等 かつ美
 憎いのに憎みきれないお人好し ひとみ
 憎いのは人を憎んでいる自分 冬のト
 憎いほどの機転ピンチを救われる 大子
 憎いヤツだったが今は仏様 いさお
 正論を吐くその口も憎たらし まつお
 赤木さん殺した国が許せない 千鶴子
 憎まれることは覚悟で否と言う 久仁雄

南大阪川柳会

松岡

篤報

果こもりを元気づけたいサブライズ 柳伸
 新人が大活躍のサブライズ 東風
 コロナ消えるほしいねこんなサブライズ 直子

えらいこっちゃ生命線が今朝は無い

雲眺め動物園をつくる孫

空想を現実にする科学力

格安の宇宙旅行も夢でない

頬ついてひねもす春の風を聴く

空想が醒めず閉じこめたまま大人

空想に時々逃げて息をつく

くよくよせず割り切つて割り切つてゆく

近付かぬ皿割る音は妻の乱

大きい方を下の子にやる半分コ

国を割る弾圧悲しくデータ

腹割つて言うたつもりが傷つけた

割り引いて手柄話を聞くも義理

割り箸のひびき食欲そそられる

同居中三十年になり卒寿

温もりに飢えて独りの日向ほこ

元氣かと友の電話があたたかい

ふところの温い日増える笑い皺

母のまわり掴めない風温かい

神様も悪魔もみんなお客様

見つめ合うテレビとスマホ肩が凝る

コロナ版「欲しがりません勝つまでは」

痛み分け神様くれたいい裁き

枯渇する心へ愛のひとつ

ばつは

大子

克己

柳右子

敏治

亜成

常男

勝弘

博

通江

国和

よしみ

俊雄

弘委智

ルイ子

志華子

あや子

楓楽

弘子

実

峰子

篤

一歩

ひさ乃

わかやま吟社

小谷 小雪報

返信の切手があったラブレター

送り仮名迷って辞書をまた開く

先送りしないで後がない私

笑うくらいお安いご用なのですが

本当に安い物かと吟味する

長寿とや我を見送る友もなく

初給料実家に送る明細書

輪の中で普通に敵を作らない

狼が送り支度をする夜更け

ひと言の辛い心の糧となる

不条理が奪う普通の暮らしより

君の普通と僕の普通は違う

行ってきます只今の日々繰り返す

願わくば普通サイズの服着たい

普通列車で日本一周してみたい

コロナ禍で知った普通の大切さ

のんびりと普通電車で気儘旅

親譲り顔も気性も世間並み

半額シール人の弱さをついて来る

不揃いのお徳用買う直売所

安請けがとんだ羽目にと四苦八苦

安くて身丈に合う暮らし向き

大輪

紀子

知香

小雪

徑子

八茶

明

精子

秀夫

富美子

日出男

夕胡

寿子

佳子

保州

節子

よしこ

タカ子

悦男

あかね

信勝

ほのか

文字通り安物買って後悔す

星座を見る激安旅行宇宙まで

安物と安い物とは大違い

曲がった腰見送る母の影遠く

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

大谷のホームラン半端ない

白黒をはっきりさせる質である

僕は負けてないタオルを投げないで

正論が立ち飲み禁止店の外

立ち飲みの皆でやりたいバカ騒ぎ

リベンジに菩薩のころろ捨てました

立ち飲みでクールダウンをして帰る

台所そこが私の立ち飲み屋

半端でない孫が食いだす廻る寿司

リベンジに燃える雑草よく伸びる

舟銭が半端で三途渡れない

アメリカはいつもはつきり君のよう

大金は出せぬが半端なら出せる

立ち飲みで弾みをつけて夜の街

立ち飲み屋関所のように見えてくる

はつきりと大事なものは見えるとこ

万全の準備で待っている代打

はつきりと言わないけれど愛してる

光

晶子

和宏

なおみ

甚緑

楓花

小鹿

よしあき

のりお

弘子

正道

友真

重忠

完司

すみれ

孔美子

照彦

ゆたか

盛桜

かおる

美ッ千

草文

能活にはっきり言える受け答え

素顔には生きた証のシワがある

DNAだろうか白黒をつけたがる

飛ばうと思う溝がなかなか深くって

素の顔と表の顔が良く揉める

素直にはなれぬがハイと取り敢えず

停止線はしっかり止めたはずなのに

意思表示ははっきりしないのが返事

ツッコミとボケを崩して笑わせる

立ち飲みの上手な老いの万歩計

念願のリベンジ墓前で天仰ぐ

立ち飲みでバランスとって明日を見る

チャイムなる素早くつけるマイマスク

はつきりと見えぬコロナの奮闘記

素人が株に手を出し泣きを見る

はつきりと改竄だけはノーと言う

猛暑来る冷やし素麺出番待ち

川柳ぶつもん吟社(鳥取)山下

凱柳報

ラッキョウの切り子が足りんさんだくす

雑草と言うな名もあり花も咲く

八十路だが持ち続けるぞ好奇心

ワクチンが決まり光の差す明日

律子

文道

八千代

大鯰

慎一

茶子

弘六

睦子

蟹郎

一平

実満

茜

静恵

ちかし

孝子

宏章

瑞子

バラ百本何年続くダイヤ婚

食べ放題に心が揺らぐダイヤエット

八月の予定が立たぬ無縁仏

オバケでも会えるなら良い三回忌

古希が来て踏ん張り時の底力

二流です他人の評価に障る

二流でも活躍できる場所はある

政治家も二流ばかりの集いです

青春の風東京へ背中押す

コロナ禍が青春奪う兄の未来

青春にレモンのような恋がある

天敵を倒せば晴れて天下人

天敵の姿が見えて道変える

嫁さんは天敵であり同志です

さんだくも限界経営者の叫び

闘牛になって猛突進の恋

おふくろの背な辛抱を物語る

二流でもプライドがある意地もある

二流には二流の良さがそれで良い

ああ青春セピア色から笑い声

天敵より恐い女房の黙秘権

天敵は味方の顔でやって来る

天敵が居る店にクラスター

節子

みつ子

賢吾

茶人

勲章

月満

勝

茂登子

善平

何事

紫陽

回春子

貴恵

恵美子

みゆき

智史

蛙鳴

真理子

千代

振作

孝一

哲子

野蒜

負け戦補欠がベンチ盛り上げる

蜜カラの青春謳歌八十の夢

塗り潰したページ青春の足跡

青春の恋は玉手箱の中に

叩かれる訳を知らない油虫

天敵に勝っているのは銭の音

わたしより美人はみんな天敵だ

高齢者を無視して進むデジタル化

ブラザ川柳(大阪) 穂口 正子報

五七五の発酵を待ちあと千歩

あのいびききづかず眠る我に呆れ

残念と言ったたくせに一等賞

ドライブで窓全開で髪抑え

生きて来た証残念賞の山

核廃絶オバマに期待はや五年

コロナ禍で心乱れる失業者

風の悪戯乱れる裳裾艶めかし

雨上がりざわめく木の葉緑濃く

下駄ばきの裾を気にする俄雨

家呑みで心乱れて知る孤独

赤い糸に喜怒哀楽が入り乱れ

散乱し元気な靴も家の顔

毅

一平

八千代

無限

天翔

拓治

一瑤

凱柳

正子

和代

五月

靖子

弘光

清乃

園子

淳司

景子

政夫

悦夫

克三

一彌

川柳茶ばしら(愛知) 金子美千代報

柄マスクおしやれ気分でよくしゃべる 雅美
 擦れ違いくちなしの香を残すひと 三樹夫
 気晴らしに庭石の位置替えてみる 遡行
 ワクチンをやつと接種し映画館 まみ子
 真剣に明るい記事を探す朝 かつ子
 この歳で上面だけ見てたとは 美千代

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

かたつむり葉っぱの上でひと休み 照代
 ラストダンス香水美女を抱きしめる 柳明
 ワクチンを打つてスキップして帰る 厚江
 駒囃し跳ねて鈴鳴る夏祭り 英坊
 逢いたくてバッグも靴も跳ねている 雅美
 コロナ禍に思わぬ株が跳ね上がる 初音
 しつけ糸切ると手毬はよく跳ねる 紀華
 こちよいふんいきかます香り水 れい香
 カメ虫にシヤネル五番をかけてやる 千賀子
 香水と無縁に生きる飢餓の国 (谷)修平
 接種行く香水つけてお洒落して (八)修平
 昼下がり魔女が誘いに来て困る 久仁雄
 朝取りと店先並ぶ夏野菜 新録
 いきいきと百歳めざす八十路坂 紀恵

川柳ねやがわ(大阪) 籠島 恵子報

まっすぐな目に駆け引きの後退り 欣之
 人生は片道切符の長い旅 高志
 ヘルメット脱いで味わう旨いお茶 寿子
 愛妻と二人三脚ラストイン 寿之
 大きくなあれと呪文をかけて種を播く かずお
 かけひきで北方領土戻らない 清
 駆け引きは大阪弁に限ります 武人
 ライバルにちらり奥の手覗かせる 弘一
 駆け引きの始まる前の白である あかり
 無料ではなかつた孫の肩たたき 信子
 ためらつた切符が引き出しに眠る 茜
 アルバムに亡母が手にした古切符 麗
 もう一枚とれぬと意味のない切符 亜成
 往復の切符を渡す手が温い 博泉
 三度三度美味しい料理ありがとう ルイ子

さざ波論失言でなく本心だ
 水を得た魚のような一張羅
 思いきり飲んで歌って跳ねたいな
 無観客ファウル打つてもせいがない
 てのひらはしあわせつかむためにある
 こみつ
 イカ揚げの盾の代わりに蓋を持ち
 香水をつけたところで古稀は古稀
 正彦
 美籠
 勝弘
 耕治
 和子
 宏造

みそ汁は男仕立ての具沢山
 傘寿でも母の惣菜懐かしむ
 味わいの有るペン先にのめり込む
 谷底も知って味わう人の情
 朝ドラで終始味わう人間味
 愛妻を毎日見るが笑うだけ
 愛妻のお友だちネットとテレビ
 昭和一桁愛妻などと口にせず
 愛妻家なのねリングの光る指
 六〇年生死歩んだ戦友だ
 愛妻は逝つて女神でよみがえる
 愛妻も同士となつて黄昏る
 逡巡の坂の途中の妥協点
 仏前で十字を切つて拝む孫
 誉め言葉探して辞書を梯子する
 思いのすべて大地に沈め桜散る
 最近の料理ハサミがあればいい
 終活でこっそり消した罪に病む
 「ありがたう」の波紋は丸く美しい
 嘘ひとつ隠して雨が降り止まぬ
 くらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報
 腕相撲だけは妻には勝てそうだ
 石橋を叩き過ぎたか弱虫だ
 鈍甲
 尚世
 祥昭
 堅坊
 高鷺
 義広
 勝弘
 かすみ
 賢子
 一歩
 朝子
 純子
 常男
 一文
 弘委智
 銀杏
 仁
 和織
 郁夫
 雨奇
 久直

早起きをして呼び寄せるいい知らせ
物欲をなくしへそくりできました
暇だから笑顔の稽古しています
やむな雨蛙はずっと待っていた
朝はバン昼はラーメン夜は酒
母の日のおもいで多きカーネーション
来年の花が楽しみ椿守

年寄りにも慕って来るは水虫か
道化師の振れた芸が笑わせる
権力をもじるよじるの心地良さ
ねじ曲げてウツチャリたいな変異株
川の振れに素直な水が暴れた日
ねじ巻いて昭和の時計よく動き
「智恵子抄」少し振って笑われる
もじり過ぎ拳句の果てはボツとなり
怒髪天不動明王になるコロナ
振る等思ひ浮ばぬこの頭

由紀子
麦青

振るならピカソかマチス描きましよう
照彦

川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

よくばりなテレビをつけて本を読む
効能がいくつも書いてある薬
既往症コロナには隠しておこう
ボランティア草取りやって汗光る
政治をばコメントーターやってみて
自分へのご褒美すぎてスカンピン
老いの手の握りこぶしに頼られる

宏之
俊久
宣子
瑞枝
汪

節子
次男
龍枝
醉芙蓉
美知江
明友
野蒜
玲子
石花菜
瑞子
大鯨
恭子
凱柳
恵子
雄大
風露
萩江
紀美恵
重忠
さちこ
祐子

敏治
憲彦
いさお
和夫

そろそろの定義が違うばくと妻
笑い合うリアル句会になる予感
優勝をそろそろ見せてタイガース
子は自立そろそろはずす仕付け糸
一件落着コロナそろそろ言うてくれ
意地はらず娘は杖を持てという
後期高齢そろそろ鎧脱ぎ捨てる
人の欲地球の謎を掘り尽す
人生なんて大波小波謎だらけ
清張のミステリアスなエピソード
宇宙を考えると気がとおくなる
神秘の謎次々明かす化学の目
いつまでも魑魅魍魎の永田町
どう見ても不釣り合いだよあの夫婦
さよならに跳ねつ返りが涙ぐみ
跳んだけど一寸手前で落下する
魚籠のなか水に戻せと駄々こねる
どんなに跳ねてもやっぱり落ちてくる
竿しなる大魚は跳ねてさようなら
ピチピチと跳ねることない深海魚

憲彦
宏造

倉吉川柳会(鳥取)

竹信 照彦報

みずみずしい時もあつたよ鏡見る
水飲んで熱中症を予防する
羊水の中は天国だったなあ
老いたなあ水薬まで喉につめ
脳味噌に水が間に合い助かった
水素水飲んで毎日元気です
妻の愚痴水に流してすっきりと

日出子
鬼一
完司
智恵子
隆昌
けいこ
道春

どんより感嘆きちらして突き抜ける
どんよりとした日裁蚊に出っ食わす
どんよりとする何でも笑つとれ
どんよりと生きて格差に迷い込む
どんよりと病窓で見る昼の月
腰痛むどんよりとした小雨かな
どんよりの空を見上げて五七五

志津子
時雄
玄也
雅明
俣子

満作
勝弘
蕉子
みつこ

満作
勝弘
蕉子
みつこ

とび跳ねた昔のように戻れたら
ランドセル跳ねつつ百点が帰る
跳ねまわる孫を追いかけ息される
最大の謎は親父に惚れた母

何をする道具だろうか出土品

心理テストわたしの謎があかされる

東大を出てはるけれどまだ無職

仕掛けた謎逆手に取られ困つてる

新聞のバズルで脳の活性化

待っている罪のない子に笑顔見る

まだ女のつもりで見てるええ男

眼差しが伝えてくれる遠慮心

真夜中に次々浮かぶ会者定離

ママチャリが着くたび笑顔園児たち

待ち続けついに掴んだええ返事

城北川柳会(大阪)

近藤

正報

このごろは蚊も寄つて来ず誰も来ず

生きている証しを痛みから気づく

他所の子も育てた昭和のおせっかい

堂堂と自己主張する三歳児

意地っ張り丸くなれない蚊帳の外

献血の帰路で蚊にまた吸われ

血を分けてやった割りにはつれない蚊

廣子

麻子

敬子

ひろ子

さくら

瑠美子

としお

舞夢

八千代

唯教

扶美代

光雄

ゆみ子

みつ江

五月

峰子

星雨

信子

福貴子

正彦

洋志

優

優

じつと待つ神が私に気づくまで
気づいても知らないふりをする情け
気づいたら随分老けていた自爾

気付かない振りで古傷には触れず

自爾して知つた朝顔開く音

遠くなる背中言い過ぎたと気づく

ほつといて私の好きにさせてくれ

でしゃばりに鈴をつけたい時がある

何げなく庇う優しいおせっかい

ひ弱な児今マウンドで仁王立ち

五輪可否堂々巡り時迫る

堂堂と言えば嘘でも正論に

堂堂と我が道を行く山頭火

堂堂とできぬ男に託す国

カミさんが右と言うから僕も右

父の日は忘れた振りをする家族

予約時は電話しないでネットしろ

桃太郎コロナも退治してほしい

阪神が勝つと夜通しニュース観る

指折り数えワクチン接種待ち佯びる

断捨離で見つけた母からのエール

自肅中リンゴの皮を長く剥く

卒寿の祝飛騨高山へ車椅子

いつだって心配性の母の口

郁夫

朝子

賢子

千賀

和夫

恭子

堅坊

弘委智

志華子

肇

義明

廣光

野鶴

昌紀

宏造

利子

実

五月

久美子

博

満作

廣子

ルイ子

満知子

少女らの素肌まぶしい初夏の夏
五十年空気のようになれました
下戸夫婦養命酒飲みほんわかに

川柳さんだ(兵庫)

酒井 健二報

鳴き声にママは走ってまた抱いて

見返りを求めないのが真の愛

四島も拉致も進まぬもどかしさ

ほしいのは美女と大金長寿です

五体満足今更何を求めよう

中流に這いつくばっている暮らし

ジーンズにわざわざ穴を開けるなよ

貧しさがこんなに妻を喋らせる

飢えを知る世代食べ物捨てられぬ

給食費隣家に借りる母がいた

貧しい人余計貧しくするコロナ

二本立て五十五円で夜を更す

大きくて安いのを買う母でした

貧しさに追い討ちかけている戦禍

台所仕切るわたしの割烹着

汗臭い野良着私のユニフォーム

母の気合い受けたゼッケン針の後

矢面に立った男の葉つ葉服

川柳の歴史を学ぶ自肅中

黒兎

かずお

克己

ひとみ

几代

徹

真桜子

千賀子

利尚

郁子

武彦

義博

重男

堅坊

寅男

正和

修平

一子

稠民

厚子

修

勝弘

コロナ消えどんちゃん騒ぎして見たい
朝一番花のきげんを問う至福

義明 恭子

無人駅昭和の形したベンチ
柿若葉のエール眩しくもらつてる

恵子 理恵

こんなのも音楽なんだフリージャズ
民謡もジャズもロックも酒の友

未だ抱けぬ初孫動画見てあやし

俊朗

朝日背に新米ババと赤ん坊

ふさゑ

ジャズ喫茶知つて大人に成りました
五月

ステイホーム地図で楽しむ北海道

勝正

眩しさに戸惑う這い出した蚯蚓

ひろ子

春愁を弾き飛ばしてくれたジャズ
航太郎

鳥の囀り聞いて楽しいわらび取り

迪

十代の未熟まぶしいものがある

珠子

敗戦後自由と活気くれたジャズ
喜代志

オレだつて歌手になれたと思う風呂

万彩

航空写真映るわが家がちと眩し

扶美代

長柳会(大阪) 辻村 ヒコ報

五欲棄てず楽しんでます生きること

廣光

行つてきます声も眩しい入社式

一步

チャイム鳴りさつと仮面付け替える
ヒロ

六十年添つた夫婦の花見酒

婦美子

妻の顔眩しい頃もあつたなあ

穂夫

いつか行く遠くて近い極楽へ
由子

消えたがる記憶に脳トレさせられる

茂山

新妻のういういしが眩しいな

しげ子

あきらめず予約電話をかける老母
弘美

しゃんとせえ卒寿に喜寿が励まされ

哲男

母さんの笑顔眩しい退院日

香代

花筏流れに碎け棹形に
久美子

好奇心沸々五感揺れ動く

ヨシエ

刑期終え晴れて眩しい陽を拝む

いさお

押し入れのグリコのおまけ宝物
登美子

酔うほどに過去の肩書きでかくなる

紀恵

大谷の笑顔眩しいホームラン

康信

豪遊はついに果せず八十路坂
邦夫

水張つた田圃に浮かぶ五月晴れ

博

果ごもりでたんまり飲んだ酒ビール

清

人生はトントンならば上出来だ
ゆき

見たくない背中丸いな影までも

勝士

花見酒たんまり飲ます選挙前

勝久

参観日母に似ている人がいる
克己

墓参り不要不急ですみません

耕治

たんまりの汗で一日よしとする

ダン吉

ゆらゆらと齢を重ねて欲もなし
千代

独り居に声かけられる電子音

はな

たんまりの埃をかぶる赤絨毯

日出男

七光二世タレントスターダム
正博

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

終着が幸福駅と願う今

和美

母の日はたんまり母の愚痴を聞く

義泰

春眠にまどろみ遊ぶ夢の中
隆明

廃駅の椅子が見て来た涙雨

常男

誘われて遠い記憶のジャズ喫茶

信二

レジ袋たかだか二円出し渋る
幸子

端つこの改札口が欠伸する

三成

ジャズの降る街に二十歳の忘れもの

和子

カード払い背中合わせのデメリット
孝

駅長は元は迷子で鳴いたネコ

眞澄

幾星霜哀しみ超えてジャズがあり

はこべ

泥水を呑んだおかげの人の機微
光弘

何度でも再出発のできる駅

朝子

ジャズバーの隅にあるのは遠い過去

信子

あなたとは付かず離れず余生行く
福子

ふる里の駅父であり母である

みつ江

ライトアップされて並木も不眠症

保州

あなたとは付かず離れず余生行く
福子

初物食い生命線がまた伸びる
歓声の乱れ飛び日待つ土俵
盤睨み一手動かす集中度

来世でも亡父母の子で居たい
三世代絆の強い一軒屋

百歳へ子らの支えと結び紐

百までと命編んでる老い二人

百歳を目指す姿勢は好奇心

レンゲ田も消えて故郷は遠くなり

逆上がりくるりと空へ落下する

ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒兎報

家族みな開んだコタツ二人だけ

赤ちゃんが乗ってるだけでみな笑顔

いただきます声揃えて大家族

コロナ禍が家族の絆強くした

心配だ家族持たない子の未来

ワクチン予約息子に借りが一つでき

家族風呂娘は水着で参加する

一年半家族揃ったことがない

四十路の娘キラキラメール父の日に

家籠りすなわち妻に増える家事

コマーシャルこれだけは乗る焦げぬ鍋

環状線うつらうつらで三周目

澄子

孝代

隆彦

淳司

靖博

三和子

由夏

和代

和子

正美

信子

直子

純子

郁子

順子

春代

正子

勝弘

一弥

黒兎

久仁子

奈津子

生かされて余白の風に乗ってみる
図に乗るといつかどこかで仕返され

六甲川柳会(兵庫)

糺谷 和郎報

知らん顔シールの下に開けた穴

日本産シールが何如か威張ってる

カレンダーシールを使いスケジュール

知らなかったシールってアザラシのこと

お喋りのシール復活喜楽館

自由の女神のシールを貼ったエアメール

穏やかに生きたシールの笑い皺

「真実の口」にどきどき手を入れる

おっぱいを囓む児を叱り母となる

杖取れて歩く幸せ囁みしめる

兄弟喧嘩母が囁むから治まらぬ

ほんやりとしている時が幸せか

ほんやりを笑って許す人がいい

ほんやりと雲を眺めて出る答

ほんやりと脳裏かすめる終戦時

ほんやりと頭の隅にある軍歌

長引いたマスク生活いつまでか

我がことは問わずに人のことを言う

ニンゲンにあきれ自分を遠ざける

行くところは無いが自粛に縛られる

宏造

則彦

狸月

廣光

正彦

勝弘

弘

真桜子

次郎

崇史

武彦

美恵子

利恵子

公輔

堅坊

ヨシエ

正美

ひろし

義明

洋次郎

恭子

美穂

何もかもリセットします明日から
茶柱を見て買いに行く宝くじ

早よなった終電囃うはしご酒

運動会中止してまで何如五輪

自分へのエール目線を少し上げ

加齢でついわれりやほっとする齢

産声にちゃらんぼらんが正座する

兼題に心動かぬもどかしさ

人生はおじんになってから長い

コロナ禍も退屈せずに五七五

コロナ下も休まず伸びる爪と髭

人の字は頼り頼られする姿

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

青空と風に感謝の洗濯日

止まっていた終末時計が動き出す

内科医が毎日アロエ囁んでいる

おはようの君が夕には舍利となる

日本沈没ボツンと残る富士山頂

まさかの時はやっぱり金が物言うで

お嬢さんと呼ばれたようで立ち止まる

飲んでから気がつく去年のカルピス

朝は和尚さま夕方方はラッパ

核廃業輪に入らない被爆国

ひとみ

正和

博

隆浩

和郎

美津子

光久

克美

和宏

利子

盛夫

哲男

古池蛙

まさあき

和太

進

美晴日

北朗

寿子

(立)信子

一筒

つよし

ぬかるみに残る轍の人生苦

おもてなし五輪の声はかすれてる

輪の中にユダが潜んでいた悲劇

輪になれば不思議と力湧いてくる

マドンナの手前で終るオクラホマ

輪の中で安堵している寂しがり

輪になれば先頭びりが同じ場所

退職をしても首輪の跡がある

だいたいはずぐ漏れる内輪の話

帰省の子洗濯物が先届く

煤はけた脳の洗濯秘境の湯

梅雨晴れ間満艦飾に干してある

縄のれんサラーマンの洗濯場

耐えて耐えて耐えて心の傷洗う

真つ白に洗うとボクが消えていく

あかぎれの母を救った二槽式

一票で洗濯したい永田町

打ち勝った証のかけから見当らず

薄めても流せば同じ汚染水

長生きで親も子供も認知症

管下ろしまだかまだかの週刊誌

捨て石にされた人骨基地に捨て

あの方は撃チテシ止ママ五輪まで

一瞬のチクリ待つ事一時間

コロナ禍の五輪の意義と意味を問う 福貴子

川柳塔なら

大久保眞澄報

恐縮ですと言つていい酒ぐいぐいと 堅坊

仏様今日一日の多謝深謝

恐縮です会のお世話を手弁当

丁重な詫び踏まれた足も恐れ入る

握手会ずっと右手は洗えない

卒寿直立恐縮します清清し

美術館無料と言われ畏まる

遠いところ越し頂き土産まで

恐縮ながら五輪バツハのものならず

先人の轍踏んでくありがたさ

恐縮と先手打たれて許す羽目

この年で申し訳ないほど元氣

恐れ入りますが記憶にありません

恐縮した割に態度のでかい部下

人のエゴ地球にわびること数多

ほろ酔いが恐縮月のエスコート

立て板に水の言い訳恐れ入る

只者でないルーキー四番打者

エプロンのババが作ったオムライス

辞めまうと言えずに払う年会費

老妻がなかなか見せぬ腹の中

瘡蓋が取れない残る蟬り

白旗をなかなか上げぬ山の神

かあちゃんが動くと地震だと笑う

ハイハイと離婚話を受けた妻

茶化されて温い男になりました

茶化すのはよそう人間軽くなる

口説いたらいつも「うふふ」と誤魔化され

茶化されたまま宙に浮くプロボーズ

麻生さん飲んでいますか汚染水

権力を茶化す名優チャップリン

飛んでみるとタッチョウを茶化すのはカラス

激論へ撒く冗談の緩和剤

金持ちのふりで遊んだ電話詐欺

流鏑馬にロビンフッドを呼んできた

川柳塔まつえ吟社(島根)相見

柳歩報

亀さんと歩いて山に旗立てる

健康でいたい近道朝歩き

自動車の為に作った歩道橋

術後の一歩歩く喜び夢が湧く

受け流す度量を俺は持っていない

ノンアルで流し残りは柿の種

側溝に流してしまふ実年齢

数という力が民意押し流す

尚子

優

保州

(平)美智子

昭

一步

すみえ

恭正

(江)勝弘

欣之

和郎

寿之

みほ子

一筒

柳歩報

モナカ

富紫美

弘充

あきら

芳山

とも子

美智子

勝美

家デートならばレンタルするホラー
母さん御免はつぼつの穴一張羅
悪態も尽きたはつぼつ卒業だ
嬉しくてわたしポツポツ発芽する
ローソクの芯がはつぼつ底舐める
代議士がふたりいて質素な島根
君だけにさらけだします素の自分
スイーツで私の元素出来ている
素顔から想像出来ぬ大胆さ
まだ素面？嘘つけ舌がもつれてる

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

グットバイ昨日の私さあそして
足跡は静か善人かも知れぬ
老老介護夕陽が拍手してくれる
ここに来て余生思案の臘月
この世でのスコアブックを見る閻魔
煩惱を洗う山路の若葉風
しげしげと命を思う大夕日
なに見つめ何を語るか埴輪の目
しげしげと眺めています脚線美
足跡をたどればここが分岐点
横断歩道足跡付けたビートルズ

瑞人 米 估 青 帆 雪 代 桂 子 徳 利 柳 歩 知 恵 子 豊 仙 美 ち を

手伝うか邪魔を承知で聞いてみる
強いなあ虎に助っ人もう不要
名コーチ笑顔でそつと背中押す
夢を一新違つた道も又楽し
マンネリ化一新出来ぬ政所
回り道足跡らしい家建てた
しげしげと視線感じる電車内
失敗もしっかり見せてくれた母
子供三人と孫八人です
4Kでしげしげと見るカメの孵化
公園へ不要不急が溢れ出る
盤面より口で火花のヘボ将棋
なるほどと鏡の中に観る遺伝
神さまもしげしげ思案高齢化
大空へ拳かかせるランドセル
一新をせよと選挙の結果出る
しげしげと顔を見直す二枚舌
お買物上手にできてママとハグ
初めてのお使いママが後をつけ
残照が恋の足跡そつと射す
足跡の向うにかすむ四季の山
先を行く足跡追つた山登り
肅という字今年の漢字立候補

直 和 宏 盛 夫 り こ 正 彦 み よ し 紀 華 敦 子 勝 弘 野 鶴 正 和 廣 光 俊 雄 哲 子 千 賀 子 恭 子 堅 坊 武 彦 は な 緑 洋 次 郎 由 美 弘 委 智

白寿まで後十年の足跡を
川柳塔すみよし(大阪) 内田志津子報
人情が暖かい屋台の酒
有難い仏のおわす蓮華台
脇見して台無しにした妻の愛
答弁はボスの台本通りする
大台に乗つたと百歳が笑う
親の夢台無しにしてマイウエイ
鏡台に住んでいるのは若い母
台所嫁に渡して認知症
今年こそ虎の出番だお立ち台
台所勝手が違う嫁の城
調理台料理も作る酒も飲む
手術台降りてからみた生地獄
屈強の母は我が家の屋台骨
土台には父が作ってくれた店
台所歌が出ているいい朝だ
生きていく土台にいつも母がいる
ときどきはお昼を抜いてダイエット
愛妻弁当その名に惹かれ買うランチ
詰まっていますランチボックス妻の愛
夜遊びが減つた分だけよう寝ます

豊 子 寿 之 朝 子 進 篤 眞 澄 俊 雄 千 代 美 ゆ み 子 萌 民 子 雅 美 里 子 満 作 裕 之 一 歩 佳 子 勝 弘 久 仁 雄 福 貴 子 ば っ っ

樽の中じつくり寝る味噌醤油

川の子で寝てた子供に介護され

もう寝たと勘ねて転がる缶ビール

とれたての魚が並ぶ浜の朝

朝採りのトマトレタスで三膳目

朝市の野菜フレッシュ器量よし

フレッシュも裏からみれば未完成

入社式みんな社長になる気概

ワイワイと雑魚寝した日が懐かしい

もぎたてのトマトトマトの味である

集中室覚悟出来たか高軒

豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

ライバルが大きく見える唸り声

きっぱりと見切った友を懐かしむ

AIもマスク美人にだまされる

目から鱗この一病を感謝とす

引き受けたとたんに背筋ピント伸び

カンパイでおしまいにしたわだかまり

物知りの出番奪った電子辞書

簡単にはほどけませんよこの絆

何でもチン認知やボケが増える訳

そして今日新たな誓いする頁

きっぱりと拒絶できずに悩む俺

満知子

晴雄

(矢)五月

いさお

さくら

輝子

蕉子

楓楽

大子

まつお

志津子

憲央

真理子

健二

武彦

英三

公子

北舟

(永)玲子

義明

公輔

敏昭

一匙の粥に唸った試歩の杖

きっぱりとノーと言われてはつとする

高が肩痛くて何も出来ませぬ

簡単に見えて難し玉子焼

うかうかとしていることが常となる

ここ迄は許せるだろか世代の差

米朝の客を唸らす名演技

ルーキーの強打に唸る解説者

この調子つづけられるかタイガース

振り上げた拳は自重告げている

いつだって深いところを突いてくる

ひとまわり若い計報を聞く夕べ

好奇心老いのさざ波押し返す

唸り節都なるみが懐かしい

聡太君唸る妙手で勝ちすすむ

紫陽花の魔の彩りに好奇心

簡単と思えば思うほど焦る

静かなる伏流水を忘れまい

左手で書いてきっぱり変わる僕

責任を持ってきっぱり言えたい

たやすくは消えぬ真夏のキノコ雲

落ちつけばいずれゆつくり語ろうよ

唸らせるベンが一本あればよい

野鶴

堅坊

忠子

英旺

見清

美籠

洋志

肇

勝弘

(福)正彦

ひとみ

求芽

哲男

一步

黒兎

ふりこ

満作

美津子

則彦

ヨシエ

千賀子

(初)正彦

弘委智

富田林市民文化祭

富柳会

第71回 川柳誌上大会

兼題と選者 各題2句

(敬称略・50音順)

「雑」北川 拓治 選

「贈る」木本 朱夏 選

「甘い」土田 欣之 選

「進化」長島 敏子 選

「駈ける」平井美智子 選

「ネット」山野 寿之 選

投句料 1000円

投句締切 9月30日(木) 必着

投句用紙 規定用紙(コピー可)

投句先 〒584-0066

富田林市錦織北1-14-6

中村 恵宛

お問合せ 山野 寿之

電話090-4308-8339

主催 富柳会・富田林市川柳協会

第7回詩歌文学館館長賞受賞

新家完司句集『令和元年』50句

掛け値なし六十五キロの風来坊

大胆に行こうこの世は肝試し

猿人から続く雑食系である

ゴリラには男らしさで負けている

教材にどうぞ私の頭蓋骨

門を外しなさいと桜咲く

春風をふわり纏って飲みに出る

生きるべしミミズのように蚊のように

恩人はみんな桜の木になった

サムライの末裔である臍の位置

野良猫を叱って今日はまだ元気

コンニャクで五臓六腑の毒を抜く

我が胸のマンングロープも失せてゆく

イカナゴの釘煮で背骨補強中

ゴキブリは貧乏神の召し使い

不滅だと叫ぶセイタカアワダチソウ

暑苦しい顔はお互いさまである

神さまを見つけたゴミを拾っていた

おもしろい仲間この世はおもちゃ箱

戦争をストップできぬ神ばかり

神さまはずっと爆睡中である

二分ほどこころ洗ってくれた虹

風よりも静かな言葉手話の指

挫折したトランペットが微だらけ

老人になる行列が途切れない

歯が抜けた仲間ヒヒヒと笑い合う

この世などどうせ南京玉すだれ

峠から秋がためらいながら来る

葡萄ひとふさ王さまのように食う

爺さんであるが暴走族である

体温が魚のようになってゆく

沈没船わたしの未来図のように

階段が「かかって来い！」と聳え立つ

お先に失礼と蟬が死んでいる

晩酌に向かうハードル七千歩

飲みに行く時間ですよと陽が沈む

前世でも酒に溺れていたような

恋人のように微笑む酒場の灯

青春のどの街角も寒かった

冬はもう大腿骨の中にいる

蟹喰らう姿を鬼が見ているぞ

喜寿到来いま人生の午後八時

この星に菌型残しているところ

一生などバラバラ漫画五、六枚

目覚めたらあの世だったというように

頭から枯れる花木もにんげんも

飽きるまで生きるしんねりしたたかに

あの世まで続く日暮れの散歩道

あの世にも桜並木があるように

意地悪の仕上げに老醜を晒す

句会名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川 柳 藤 井 寺	15日(日) 14時締切 ピンチ・腕利き・席題共選	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南 大 阪 川 柳 会	16日(月) 14時締切 試す・神々しい てんやわんや・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1124 高槻市南芥川町9-28-901 松岡 篤
豊 中 もくせい 川 柳 会	16日(月) 13時50分締切 宝・待つ・さすが・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曽根」駅 徒歩 5 分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川 柳 たちばな	21日(土) 13時45分締切 席題・波・我慢・自由吟	東園田町総合会館 3F 阪急「園田」駅北へ徒歩1分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸 和 田 川 柳 会	21日(土) 14時 星・脱ぐ・未熟・タフ	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
八尾市民 川 柳 会	22日(日) 14時締切 夕焼・みくびる・和む・雑詠	八尾市安中町3-5-1 洩川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
はびきの 市 民 川 柳 会	22日(日) 14時締切 本音・贈る・ヒント・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 塔 すみよし	28日(土) 14時締切 鳥・任せる・パニック	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和 歌 山 三 幸 川 柳 会	28日(土) 13時15分締切 仏・重い・深い 投句締切19日	和歌山商工会議所 4 階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
川 柳 塔 みちのく	28日(土) 17時締切 形・なんとなく・浅い	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川 柳 ふうもん 吟 社	29日(日) 13時から 自由吟・追加・くよくよ・集中 席題	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町2 1 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金洋
川 柳 さ ん だ	投句句会 5日(木)必着 記憶・優しい・シャワー 買う・自由吟	〒651-1545 神戸市北区鹿の子台南町4-46-5 富永恭子
川 柳 塔 な ら	7月末日投句締め切りました 空・ぱったり・省く	〒633-0341 磯城郡田原本町薬王寺150-21 中 堀 優

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

8 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
城 北 川 柳 会	7日(土) 14時締切 開場13時 黙る・ほほ・結果・自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	7日(土) 14時締切 瓶・あけすけ	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ 200 m 〒584-0064 富田林市不動ヶ丘8-31 山野寿之
倉 吉 川 柳 会	7日(土) 14時締切 ぐらり・生じる・見応え・席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川 柳 塔 ま つ え 吟 社	7日(土) 13時30分締切 堀・昼寝・くどい・がらがら	投句先 〒690-1233 松江市美穂関町笠浦221-1 相見柳歩
川 柳 塔 わかやま 吟 社	8日(日) 14時10分締切 兼 題=勝つ・奇・たびたび 課題吟=黙	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁3 6 兼 題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺浜訪森町東2-208-5 楽原道夫
ほ たる 川 柳 同 好 会	9日(火) 13時30分締切 八月・会う・遠い	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川 柳 塔 さ か い	9日(木) 投句締切 テレビ・握る・歪 (いびつ) 折句:む・ろ・と	投句句会へ変更
西宮北口 川 柳 会	9日(月)14時締切 席題・転ぶ・卵・ほろほろ 自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレにのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦
川 柳 あまがさき	10日(火) 14時締切 抑える・冷や汗・もてあます 自由吟	東園田町総合会館 3F 阪急「園田」駅北へ徒歩 1分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
六 甲 川 柳 会	12日(木) 誌上句会 注文・困る・いっぱい ウインク・自由吟	〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
あかつき 川 柳 会	13日(金) 14時締切 ほどほど・里・退治・時事吟	大阪保育運動センター (新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川 柳 塔 打 吹	14日(土) 13時30分締切 炎・配る・やっと・席題	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川柳大阪	15日(日) 事務局必着 誌上句会 駅前・車・試す	〒636-0144 奈良県生駒郡斑鳩町稲葉西2-4-23 中原比呂志
川 柳 ねやがわ	投句句会 25日(水) その時・災難・値切る キャリア・自由吟	〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉

柳界展望

▽柳界動向△

○「川柳塔なら」会長交代。四月から

会長 大久保眞澄さん

▽訂正とお詫び△

○7月号 P 71 上段 21 行

目、きとうみつこ↓きと

うごみつ。 P 71 下段 21 行

目 羽曳野市↓河内長野

市。 P 124 中段「岸和田川

柳会」1 段目最後尾 北

原彦弘↓北浦彦弘。 2 段

目最後尾に 南たか子さ

んを追加。

▽新誌友紹介△

たつの市 江尻 房子

句会部よりお知らせ

川柳塔本社 9 月句会は、下記の要領で誌上句会といたします。皆さまのご投句をお待ちしております。

記

「川柳塔」8 月号に投句用紙を同封します。
(未読の方は川柳塔社事務所までご請求ください。)
投句締切 8 月 31 日(火)消印有効
入選発表 「川柳塔」令和 3 年 11 月号
投句料 1000 円(切手不可)

兼題「乱れる」	川崎ひかり	選	(香 川 県)
兼題「雨」	西村 哲夫	選	(大 阪 府)
兼題「ブ ロ」	大久保眞澄	選	(奈 良 県)
兼題「すんなり」	長谷川酔月	選	(秋 田 県)
兼題「最 高」	小島 蘭幸	選	(広 島 県)

(各題 2 句出し)

問い合わせ・送り先

〒543 - 0052 大阪市天王寺区大道 1 - 14 - 17
花野ビル 201 川柳塔社
TEL 06-6779-3490

編集後記

★水割りと読書三昧僕の避暑 薫風

★某月某日、NHKラジオオエッセイの冒頭に流れて来た歌はジエームス・三木20代の作「靴磨きとアコーディオン」。川柳塔の事務所はJ.R.天王寺駅から私の足で一〇分。コロナ以前はインバウンドで溢れかえった賑やかな駅だった。今、その股賑はない。

★終戦後の話をしよう。天王寺駅には靴磨きの少年たちが大勢いた。多くは戦争孤児だったという。仕事で大阪へ行くことの多かった父の話は、いつも靴磨きの少年たちのことだった。今、職業として靴磨きを選択する大学生がいて聞く。洒落た落ち着いたブティックのような店内、多分BGMも流れているだろう。きちんとスーツを着

た若者が靴を預かっている。時代も価値観も変わった。コロナが終息した時、どのような世界になっているだろうか。

★かつてこれほど神に愛された若者がいただろう。大げさでなくメジャーの歴史は大谷翔平によって塗り替えられてゆく。ルールを代えての二刀流でのオールスター出場、日本ならこのように柔軟な対応ができたのだろうか。アメリカの懐の深さを痛感した。

★コロナ禍の暗い世に希望の灯りをもしてくるのは大谷翔平君と、阪神タイガースの快進撃であろう。関西大学宮本名

誉教授の試算によればタイガース優勝の経済効果は640億、大谷君の活躍は240億という。コロナで徹底的にダメージを受けた日本を救うためにも、タイガースよ優勝してくれ。トラファンの

ひとこと

川柳がむずかしい

令和三年は、六月二十一日が夏至で、唐津でも三十度に近く、いよいよ夏だと思っ日だった。

コロナ禍と東京オリ・パラという二つの巨大なハードルがこの夏には待っている。川柳塔八月号が出る頃には、「パニック」という言葉が現実になっているかもしれない。

コロナ禍をテーマにして川柳などを作るのはとてもむずかしい。防疫行政や医療の前線にある人々

の御苦労を、称えて感謝する句こそ作るべきだと思っのだが、むずかしい。ちよつとまちがえば、たいへん失礼な句になってしまう危険性を特に川柳は内在させている。

「コロナ禍を車掌と語る終電車」「相部屋にコロナマスクの見舞客手だけはさかんに振って帰った」という一句一首は、地方紙の読者文芸で活字になったが、さて礼を保っているだろうか。

(仁部 四郎)

永年の悲願というより、日本を救うための壮大な構りである。

★遂に日本に神風は吹かず、オリンピック・パラリンピックは一部を除いて無観客開催となった。ただただ無念である。

(朱夏)

□本社事務所の本棚を整理して蔵書リストを作

成した。路郎師を含めた六大家と生々庵師、葉師、薫風師の句文集な

どが60冊。同人の句文集が200冊。他社の句文集が70冊。各柳社の川柳史と各地句会の合同句集が80冊。合計410冊もあつた。そのうち、「不

朽洞・川柳雑誌社・川柳塔社」発行の句文集が約50冊。いづれ順次電子化される予定である。

□蔵書の一部を紹介する(敬称略)。同人では、石曾根民郎、香川酔々、菊澤小松園、北川春果、

(勝弘)

作品募集

10月号発表（8月15日締切）

川柳塔（8句）	小島蘭幸選
水煙抄（8句）	川上大輪選
愛染帖（2句）	新家完司選
檸檬抄「音」（2句）	榎原道夫共選
インスピレーションナビ（2句）	久保田千代選
一路集（2句）	大西泰世選
初歩教室「絵本」（3句）	高瀬霜石担当
初歩教室「絵本」	は11月号発表

11月号

檸檬抄「構える」
一路集「パズル」「誤算」
初歩教室「短い」

お知らせ

本社9月7日（火）開催予定の本社句会では中止、誌上句会として開催致します。詳細は112頁をご参照ください。

ワクチン接種も進んでいます、インド型デルタ株が猛威を振るっています。ワクチンは絶対ではありません。三密を避け、マスク、消毒、換気を忘れず、また熱中症にもご注意ください。

本社9月句会では誌上句会です
 投句締切日8月31日、発表11月号
 兼題「乱れる」「雨」「プロ」
 「すんなり」「最高」

川柳塔柳箋

3冊 送料共 1,000円
 事務所あてお申し込み下さい。

〒543-0052 大阪市天王寺区大道一丁目一四一七
 花野ビル201号室

定価 八百円（送料100円）
 半年分 五千円（送料共）
 一年分 九千八百円（同）
 二〇二二年（令和三年）八月一日発行

発行人 小島蘭幸
 編集人 木本朱夏
 印刷所 美研アート

発行所 川柳塔社
 電話（〇六）六七九一三四九〇番
 振替 〇〇九八〇一四二一九八四七九番

川柳・俳句・エッセイ・小説 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



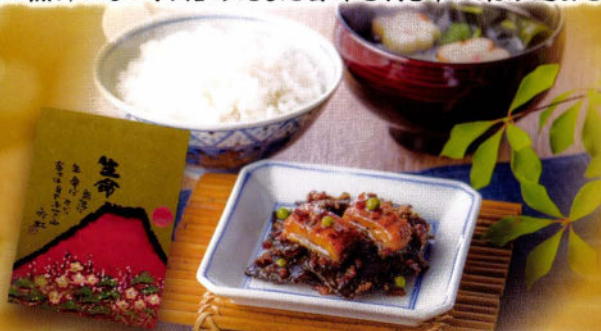
美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
 TEL (06) 4800-3018
 FAX (06) 4800-3028
 Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp
 ホームページ <https://www.bikenart.com>

箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ

職人の技術で、超とろ火の火加減により、
秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE
QRコード

舞昆のお友達に
なって下さい。

舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはこちらまで（ご試食承ります）

フリーダイヤル 0120(11)5283

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>